スト爲シ被告人秀八ニ之カ周旋ヲ爲シタル罪ノ成立スト爲シタルハ明カニ違法ナリト爲サヽルヘカラス然レトモ該供與ヲ受ケタル者ニ於テ選擧運動ノ報酬並ニ投票買收資金等トシテ金員ヲ供與セシメンコトヲ要求シタル場合ニハ該供與ヲ受ケタル者ノ所爲ハ選擧法罰則ニ所謂供與ノ要求ヲ爲シタル罪ニ該當スヘク之カ周旋ヲ爲シタル者ノ所爲ハ該要求ノ周旋ヲ爲シタル罪ニ該當スルニ過キサルモノトス原判決ハ其第二事實トシテ被告人武治吉藏、濟ノ三名ハ候補者政十ヨリ武治ニ選擧運動ノ報酬並ニ投票買收資金等トシテ金五十圓ヲ供與セシメンコトヲ共謀シ被告人秀八ヲ通シテ政十ニ對シ該金錢ヲ要求シ其ノ結果政十ヨリ二回ニ亘リテ交付セラレタル金三十圓ヲ該趣旨ノ金員ナリト思惟シテ收受シ被告人秀八ハ之カ取次周旋ヲ爲シタルモノナル旨判示スレトモ原判文ノ全趣旨並ニ其ノ證據說明ヲ參酌スレハ原判決カ此點ニ關スル被告人政十、吉藏、武治、濟及秀八ノ具體的行爲トシテ認定シタル事實ハ被告人武治、吉藏、濟ノ三名ハ候補者政十ヨリ選擧委員タル被告人武治ニ選擧運動ノ報酬並ニ投票買收資金等トシテ金五十圓ヲ供與セシンコトヲ共謀シ被告人吉藏ニ於テ選擧委員タル被告人秀八ヲ介シ武治カ選擧運動費用トシテ金錢ヲ要求スルモノナル旨ヲ以テ金錢ノ要求ヲ爲シタル結果政十ニ於テ正當ナル選擧費用ナリト信シテ二回ニ金三十圓ヲ吉藏ニ交付シタル處武治吉藏、濟ニ於テハ之ヲ選擧運動報酬及投票買收資金等トスル目的ニテ供與シタルモノト思惟シテ之ヲ收受シ被告人秀八亦斯ル趣旨ノ金錢ヲ要求スルモノナリト諒解シテ之カ取次周旋ヲ爲シタルモノナリト謂フニ在リテ政十ノ右所爲ハ選擧罰則ニ觸ルルモノニ非サレハ原判決カ武治吉藏、濟ノ右所爲ヲ目シテ選擧運動ノ報酬並ニ投票買收資金等トシテ收受シタリト爲シテ衆議院議員選擧法第百十二條第一項第四號ヲ以テ問擬シ被告人秀八ノ右所爲ヲ目シテ武治外二名ノ該金員收受ニ付周旋ヲ爲シタリトシテ同條第一項第六號ヲ以テ問擬シタルハ明カニ失當ニシテ右武治、吉藏、濟ノ所爲ハ同人等カ政十ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同人ニ對シ金錢供與ノ要求ヲ爲シタルモノトシ秀八ノ右所爲ハ其ノ周旋ヲ爲シタルモノトシテ前記各罰條ヲ適用スルヲ相當ナリトスヘク記錄ヲ調査スルモ原判決ハ此點ニ於テ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存セサルモ前記擬律ノ錯誤ハ延ヒテ原判決カ追徵ノ言渡ヲ爲シタル不當アルニ歸シ被告人吉藏ニ對シ判決ニ影響ヲ及ホスモノト認ムルヲ以テ原判決中同被告人ニ關スル部分ハ此ノ點ニ於テモ破毀ヲ免レス論旨理由アリ

【判決理由】 以上說明スルカ如ク被告人佐藤吉藏辯護人菅野紀元次上告趣意書第一點第二點第六點被告人菅野武治辯護人菅野紀元次上告趣意書第一點ハ理由アリテ兩被告人ノ上告ハ理由アルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決中右兩被告人ニ關スル部分ハ之ヲ破毀スヘキモノトス然ルニ右破毀ノ理由ハ事實ノ確定ニ影響ヲ及ホササルヲ以テ同法第四百四十八條ニ依リ直ニ判決スヘキモノトス仍テ原判決カ右兩被告人ニ對シ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人吉藏ノ原判示第一第二ノ所爲並第四ノ（一）ノ所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第百十二條第一項第四號刑法第五十五條ニ第五ノ（一）（二）ノ所爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選擧法第九十六條第一項第百二十九條ニ該當スルヲ以テ前者ニ付テハ其ノ所定刑中懲役刑ヲ後者ニ付テハ其ノ所定刑中禁錮刑ヲ各選擇スヘク以上併合罪ナルヲ以テ刑法第四十七條第十條ニ依リ重キ前者ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ同法第四十七條但書ノ制限ニ從ヒタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二月ニ處スヘク被告人吉藏カ被告人武治ヨリ受ケタル利益ノ價額金八十七錢五厘ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第百十四條ニ則リ之ヲ追徵スヘキモノナル處原判決ニ於テハ其ノ言渡ナク本件ハ被告人ノ上告ニ係ルヲ以テ刑事訴訟法第四百五十二條ニ依リ新ニ其ノ言渡ヲ爲ササルヘク第五ノ（三）ノ所爲ハ罪トナラサルモ第五ノ（一）（二）ト連續一罪ナリトシテ公判ニ付セラレタルモノナルヲ以テ主文ニ於テ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲サス被告人武治ノ原判示第二ノ所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第百十二條第一項第四號ニ第四ノ所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第百十二條第一號ニ各該當シ以上連續犯ナルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シ其ノ所定刑中懲役刑ヲ選擇シタル範圍内ニ於テ被告ヲ懲役二月ニ處スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ主文掲記ノ如ク其ノ負擔ヲ定ムヘキモノトス

被告人石川政十渡邊秀八、大橋濟ノ各上告ハ其ノ理由ナキコト前說明ノ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ孰レモ之ヲ棄却スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事黑川渉關與

昭和十一年十月五日

大審院第二刑事部、裁判長判事遠藤　誠

判事　尾佐竹　猛　判事　岸　達也

判事　山内　揆一　判事　田中　龜

●權利實行ト恐喝罪

損害賠償請求ノ權利ヲ有スル者カ其ノ權利實行ノ手段トシテ恐喝手段ヲ施用スルモ恐喝罪ヲ構成セス

昭和十一年(れ)第二三四號

決定

本籍岡山縣久米郡龍川村大字全間千百六十九番地
住居和歌山市北河岸町一丁目一番地
製材職工　在里　美作夫
（當四十年）

右恐喝被告事件ニ付昭和十年十二月二十三日和歌山地方裁判所カ言渡シタル第二審ノ有罪判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シ辯護人眞田重二及松谷與二郎ハ其ノ趣意書ヲ提出シタリ因テ本院ハ檢事平井彥三郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人松谷與二郎上告趣意書第一點原審判決理由ヲ要約スレハ被告ハ南海晒粉株式會社ニ對シ（一）「南海晒粉ノ暴狀ヲ見ヨ」ト題スルビラ百餘枚ヲ附近住民ニ撒布シ（二）和歌山市公會堂ニ於テ演說會ヲ開催シ會社側ノ態度ノ攻擊ノ演說ヲ爲シ會社ヲシテ恐怖セシメ金百圓

ヲ恐喝騙取セリト云フニ在リ然レトモ右認定ハ全然不當ニシテ被告ハ何等恐喝ノ事實ナキノミナラス右ノ行爲ハ前記會社カ其ノ設備不完全ノ爲メ晒粉用ノ廢水カ地下ニ浸透シ隣接住居ノ中本伴三郎外三名ノ井戶ニ混濁浸入シ右井戶水ハ全然飮用スル能ハサル結果トナリタル爲メ被告ハ右中本伴三郎等ノ依頼ニ依リ會社ニ對シ之カ損害賠償ノ要求ト井戶水ニ代ルヘキ水道ノ供給ヲ要求シタルニ過キスシテ全ク權利ノ實行行爲ニ外ナラス即チ押收ニ係ル和歌山縣衞生課衞生技手ノ水質試驗成績表ニ依レハ右井戶水ニ(1)「クロール」一七六〇〇ミリグラム(2)硫酸多量(3)硝酸多量(4)アンモニヤ多量等包含シ就中硫酸カ多量ニ含有セルハ晒工場ノ廢液カ多量ニ浸透混入セルモノナルコトノ記載ニ徵シ明カニ南海晒粉工場ノ廢液カ僅カ十數間ヲ隔ツル中本伴三郎ノ井戶水ニ侵入セルモノナルコト極メテ明瞭ナリ然ルニ原審ハ此ノ明確ナル證據ヲ無視シ右會社取締役名本義雄ノ曖昧ニシテ責任回避ノ證言ヲ採用シ右濁水浸透ノ事實ナキニ拘ラス被告カ之ヲ種ニ金圓ヲ恐喝セル如ク認定シ被告ヲ恐喝罪ニ問擬シタルハ全ク事實ノ認定ヲ誤リタル不法アルノミナラス審理不盡ノ違法アルヲ免レスト云フニ在リ

【決定理由】 記錄ニ就キ調査スルニ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認ムルカ故ニ本論旨ハ理由アルニ歸ス仍テ本院自ラ事實審理ヲ開始スヘキモノトシ爾餘ノ上告論旨ニ對スル說明ヲ省キ刑事訴訟法第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十一年四月二十二日

大審院第三刑事部、裁判長判事泉二新熊

判事　日高要次郎　判事　草野豹一郎

判事　瀧波　良藏　判事　久禮田益喜

昭和十一年(れ)第二三四號

判決

本籍　岡山縣久米郡龍川村大字全間千百六十九番地
住居　和歌山市北河岸町一丁目一番地
製材職工　在里　美作夫
（明治二十年六月二十四日生）

右恐喝被告事件ニ付昭和十年十二月二十三日和歌山地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審ノ有罪判決ニ對シ被告人ヨリ上告ノ申立ヲ爲シ本院ハ昭和十一年四月二十二日刑事訴訟法第四百十四條所定ノ事由アルモノトシ事實審理開始ノ決定ヲ爲シタリ因テ本案ニ付キ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス
被告人美佐夫ハ無罪

【理由】 本件公訴ノ要旨ハ被告人美作夫ハ和歌山勞働者同盟ノ執行委員長ナルトコロ昭和九年四月初頃和歌山市北小雜賀町居住中本伴三郎、中本作松、楠山淺治郎、坪井秋男等ヨリ同人等ノ借家ニ於ケル共同井水カ近接セル南海晒粉株式會社小雜賀工場ノ廢液ノ爲飮料水トシテ不適當トナリタルヲ理由トシ同工場ニ對シ同會社ノ水道ヲ同人等ノ住居近ク設備シ無料使用セシムルト共ニ損害見舞金ヲ提供セシムル樣交涉方依頼セラルルヤ之ヲ承諾シ同工場ニ赴キ同會社ノ不當ナルコトヲ高調シテ其ノ善處方ヲ要求シ同工場長小野田政太郎ヨリ拒絕セラレタルニ拘ラス其ノ後數回同工場及同市杉ノ馬場所在同會社本社ニ出頭シテ右小野田又ハ太田庶務課長ニ面會シテ右要求ヲ累ネ一面同年六月初頃自己名義ヲ以テ「問題ノ會社南海晒粉ノ此ノ暴狀ヲ見ヨ」ト題シ「町民怨嗟ノ的南海晒粉ハ今ニ於テ非ヲ悟リ曲ヲ改メスンハ被害者ノ憤怒或ハ其ノ度ヲ超ユルニ至ルモ亦止ムヲ得サルヘシ」等會社側ヲシテ右要求ニ應セサルトキハ不測ノ危害ヲ蒙ルノ虞アル記事ヲ揭載セルパンフレツト百數十枚ヲ印刷シテ同會社工場附近ノ住民ニ配布シ或ハ其ノ頃同市公會堂ニ於テ前記勞働者同盟名義ヲ以テ演說會ヲ開催シ自ラ同會社ノ附近住民ニ對スル飮料水問題ニ關スル態度ヲ非難攻擊シ被告人等ノ右要求ニ應セサルニ於テハ如何ナル事態ヲ惹起スルニ至ルヤモ測ラレサル旨ヲ以テ同會社ヲ脅迫シ同月十九日被告人ハ前記中本等數名ヲ伴ヒ前記會社本社ニ赴キ前記要求ヲ繰返シ同會社ヲシテ同會社工場北裏側ニ水道栓ヲ設備セシメ且被害見舞金名義ノ下ニ同會社員小野田政太郎ノ手ヲ經テ金三百圓ヲ交付セシメ内金二百圓ハ前記中本等四名ニ於テ内金百圓ハ被告人自ラ之ヲ領得シタルモノナリト云フニ在リ之ニ對シ被告人ハ當公廷ニ於テ公訴事實中當時被告人カ日本勞働同盟ニ加入シ和歌山地方所在製材職工電車バスノ乘務員等約二百名ヲ以テ組織セル和歌山勞働者同盟ノ執行委員長タリシ事被告人カ家主宇治田富次ノ借家人タリシ中本作松、楠山淺治郎、中本伴三郎、坪井秋男ノ四名ヨリ賴マレ同會社小雜賀工場ヨリ漏出スル有害惡液等ノ爲其ノ共同使用ニ係ル井水ノ飮料不適ト爲リタルヲ理由トシテ會社ニ對シ其ノ善後處置並ニ損害金請求ノ交涉ヲ重ネタル事會社ニ對シ其ノ交涉ヲ爲シタルモ要領ヲ得ス會社側ノ誠意ヲ認メ得ラレサリシヨリ多少不穩文句ヲ記載セルパンフレツトヲ作製シ之ヲ會社附近ニ配布シ引續キ和歌山市公會堂ニ於テ演說會ヲ開催シ飮料水問題ニ關シ會社ノ不誠意ヲ非難攻擊スル演說ヲ爲シタル事其ノパンフレツトノ配布並ニ演說會開催後依頼人中本等ヲ伴ヒ會社本社ニ至リ當初ヨリノ要求ヲ繰返シタル結果小野田政太郎ヲ介シ金三百圓ヲ貰ヒ遣リタル事ハ之ヲ自認スルモ被告人ノ爲シタル行爲ハ損害賠償請求權ノ行使ニ過キス況ンヤ被告人カ會社側ヨリ受取リタル金三百圓ハ全部之ヲ依頼者ニ交付シタルモノニシテ被告人ハ何等金員ヲ不正ニ領得スル意思アリタルモノニ非ス後ニ金百圓ヲ貰受ケタルコトアルモ這ハ中本等四名カ被告人ニ對シ損害金請求運動ニ要セシ費用又ハ謝禮トシテ持參セシモノニシテ不正ノ性質ヲ帶フルモノニ非スト述ヘ恐喝罪ヲ構成セスト主張スルヲ以テ

【判決理由】 之ヲ按スルニ當公廷ニ於ケル被告人ノ供述シタル事實ハ之ヲ措信スヘク之ニ當審受命判事ノ爲シタル檢證調書中ノ記載當審受命判事ノ證人小野田政太郎ニ對スル訊問調書中ノ同人ノ供述記載ヲ綜合スルトキハ南海晒粉株式會社小雜賀工場ニ於テハ昭和九年頃ハ晒粉製造ノ外電氣分解ニヨル苛性曹達ノ製造合成鹽酸鹽化硫黃クロール・ピクリンノ製造等ヲ爲シ尙ホ四鹽化炭素製造ノ實驗中

ナリシトコロ四鹽化炭素ノ製造實驗室ハ同工場北側ニ位スル一部ニ設置セラレ在リテ當時實驗室ヨリ生スル有害瓦斯防止ノ爲同室北側西端附近ニ直徑約二尺高サ約二間ノ土管ヲ立テ之ニコークスヲ充タシ水ヲ注キテ有害瓦斯ヲ採取シ其ノ廢液ハ排水溝ニ依リ藻屑川ニ放流シタルモ有害廢液ノ殘滓ハ之ヲ其ノ附近地上ノ空地ニ於テ乾燥セシメタル事實存在セシコトヲ認ムヘク又中本等四名借家人ノ住宅ハ右工場北側ノ板塀ヲ距ル十數間ノ間ニ散在シ其ノ共同井水ト工場北側塀間ノ最短距離ハ僅ニ十一、二間ヲ算スルノミナルカ故ニ前記實驗室ヨリ生スル有害瓦斯カ時ニ或ハ工場北側板塀ヲ超ヘテ附近借家人ノ住宅ニ飛散シ或ハ有害殘滓ノ廢液カ地下ニ浸潤シテ係爭井水ニ及フ可能性アルコトハ鑑定ヲ要セスシテ容易ニ之ヲ了解シ得ヘキ所ナルト當審受命判事ノ證人宇治田富次同中本作松同坪井秋男ニ對スル各訊問調書中ノ同人等ノ供述記載ニ徵スレハ係爭ノ井水ハ宇治田富次所有ノ貸家ニシテ借家人ノ共同井戸ナルトコロ該井戸ハ元ト良水ナリシカ昭和九年一月頃ヨリ漸次不良ト爲リ飲料ニ適セサルノミナラス炊事ニ使用スルモ味惡ク洗濯ニ使用スルモ良ク乾燥スルニ至ラサルカ如キ程度ニ達シタリ而シテ其ノ原因ハ同住宅南方ニ在ル南海酒粉會社ノ工場ヨリ生スル廢液ノ始末惡ク其ノ浸透ニ由ルモノナル事ヲ推知シ得ヘシ果シテ然ラハ本件ニ於テ被告人カ中本作松、楠山淺治郎、中本伴三郎、坪井秋男等四名ノ依頼ヲ受ケ前記會社工場ノ有害瓦斯ノ飛散又ハ有害廢液ノ地下浸透ニ因ル井水ノ飲用不適ト爲リタルヲ理由トシ會社ニ對シ之カ善後處置及慰藉料トシテ損害賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘキヤ深ク論スルヲ須タス即チ被告人カ中本等四名ノ代理人トシテ或ハ同會社ノ工場又ハ本社ニ至リ會社側ノ係員ニ面會シテ其ノ要求ヲ爲シタルハ毫モ不法ニ非ス然リ而シテ其ノ初同會社工場ノ工場長小野田政太郎ニ面會ノ上其ノ請求ヲ爲シタルモ容ルル所ト爲ラス引續キ本社ニ至リ當該社員ニ面接シ其ノ要求ヲ爲シ飲用不適ト爲リタル證明資料トシテ和歌山縣警察部衛生課技手ノ水質試驗成績表ヲ提出シテ會社ニ責任アル旨ヲ强調シタルモ尙ホ言ヲ左右ニ託シテ拒絕セラレタルヨリ被告人ハ會社ノ不誠意ヲ社會ニ發表シ其ノ批判ヲ求ムルト同時ニ會社ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムル目的ノ下ニ前顯パンフレツト百數十枚ヲ工場附近ノ住民ニ配布シ或ハ和歌山市公會堂ヲ借受ケ和歌山勞働者同盟名義ヲ以テ演說會ヲ開催シ飲料水問題ニ付キ會社ノ態度ヲ非難攻擊ヲスル演說ヲ敢テシタルニ過キサルカ故ニ被告人ノ行爲ハ稍々穩當ヲ缺クノ嫌ナキニ非スト雖損害賠償請求ノ權利ヲ有スル者カ其ノ權利實行ノ手段トシテ恐喝手段ヲ施用シタリトスルモ恐喝罪ヲ構成スルモノニ非サルコト夙ニ判例ノ示ス所ノ如クナルカ故ニ本件ニ於ケル被告人ノ行爲モ亦權利實行ノ手段ニ外ナラサルモノトシテ罪ト爲ラサルモノトス因ニ檢事ハ被告人ノ本件恐喝行爲ハ其ノ請求數額不當ニシテ權利實行ノ範圍ヲ超越スルヲ以テ恐喝罪ヲ構成スル旨主張スルモ其ノ之ヲ認ムヘキ證明ナキヲ以テ檢事ノ所論ハ採用スルニ由ナシ

叙上ノ理由ニ基キ被告人ノ本件上告ハ結局理由アルニ歸スルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條第三百六十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彥三郎關與

昭和十一年十月十日

大審院第三刑事部、裁判長判事日高要次郎

判事 草野豹一郎　判事 日下部義夫

判事 瀨波 良藏　判事 久禮田益喜

●累犯トナルヘキ前科ノ有無ト刑ノ量定不當

昭和十一年(れ)第五八二號

決　定

本籍　大阪市西淀川區浦江上二丁目
五十七番地
住居　東京市本鄕區駒込富士前町三
十四番地
河合松吉方
無職　相見峯二
（明治二十四年八月四日生）

右有價證券僞造行使詐欺橫領被告事件ニ付昭和十一年一月三十一日東京刑事地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ本院ハ檢事佐々波與佐次郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】　本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】　辯護人田島朝次郎上告趣意書第二點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト思考ス前項ノ如ク原判決カ前科ノ認定ヲ誤リタルハ重大ナル事實ノ誤認トシテ破毀セラルヘキモノト確信スレトモ假ニ然ラストスルモ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料ス前項ノ如ク約二十年前ノ前科ヲ三、四年前ノ前科ト誤認シ累犯加重ノ規定ヲ適用シタルヲ以テ其ノ結果當然刑ノ量定重キニ失シタルコト睹易キ所ナルノミナラス本件犯罪事實ノ內容モ亦主從間ノ出來事ニシテ槪ネ旣ニ寬容セラレタルモノナリシニ一朝感情ノ疎隔ヨリ告訴セラレタルモノニシテ其ノ後意思疏通シテ精算ヲ遂ケ一切解決シタルヲ以テ（告訴人上申書參照）事件極メテ輕微ニシテ原判決カ之ニ對シ懲役十月ノ實刑ヲ科シタルハ科刑不當ナルコト顯著ニシテ破毀ヲ免レサルモノト思料ストイフニ在リ

【決定理由】　仍テ按スルニ原判決ハ被告人ハ昭和六年六月十一日堺區裁判所ニ於テ窃盜罪ニ依リ懲役六月ニ處セラレタル前科アル事實ヲ認メテ累犯ノ規定ヲ適用處斷シタルモノナルトコロ記錄ニ就キ被告人ニ對スル前科回答書（第一三〇丁）ヲ檢スレハ一面被告人カ原判決認定ノ如ク處分セラレタル旨ノ記載アルト共ニ他面同處分ニ依リ失權シタル被告人カ昭和三年勅令第二百七十一號復權令ニ依リ復權シタル旨記載シアルニ徵スレハ右前科ハ判示ノ如ク昭和六年中ノ處刑ニ非スシテ昭和三年發布セラレタル右復權令ノ適用ヲ受ケ得ヘキ時期ノモノニ係リ右前科囘答書ニ昭和六年トアルハ或ハ大正六年ノ誤記ナルヤヲ疑ハシムルニ足ルモノアリ而シテ右累犯トナルヘキ前科ノ有無ハ被告人ニ對スル刑ノ量定ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキ事項ナレハ結局原判決ノ被告人ニ對スル量刑ニハ甚シキ失當アルコ

トヲ疑ハシムルニ足ル顯著ナル事由アルモノト認ムヘキヲ以テ本論旨ハ其ノ理由アルモノトス

仍テ刑事訴訟法第四百十二條第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十一年七月十日

大審院第四刑事部、裁判長判事宇野要三郎

判事 沼 義雄　判事 駒田 重義

判事 日下 巖　判事 吉田常次郎

昭和十一年(れ)第五八二號

判　決

本籍　大阪市西淀川區浦江上二丁目
五十七番地
住居　東京市本鄕區駒込富士前町三
十四番地
河合松吉方
洋菓製造業　相見峯二
（明治二十四年八月四日生）

右有價證券僞造行使詐欺橫領被告事件ニ付昭和十一年一月三十一日東京刑事地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ申立テ當院ハ同年七月十日事實審理ノ決定ヲ爲シタルヲ以テ該決定ニ基キ更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

【主文】　原判決ヲ破毀ス

被告人ヲ懲役八月ニ處ス

原審ニ於ケル未決勾留日數三十日ヲ本刑ニ算入ス

押收ニ係ル金額百五十圓ノ約束手形一通（昭和十一年當審押第六〇號ノ三）ノ僞造部分ハ之ヲ沒收ス

【理由】　被告人ハ第一、（イ）昭和九年二月十日頃件偉雄ヨリ同人ノ春日岩吉ニ對スル貸金債權金百五十圓ノ取立方依賴ヲ受ケ同月二十八日春日ヨリ右金百五十圓ヲ取立テ保管中其ノ頃東京市內ニ於テ數囘ニ亙リ擅ニ自己ノ用途ニ費消橫領シ

（ロ）昭和十年五月頃件偉雄ヨリ同人所有ノ東京市板橋區五丁目千六十一番地所在家屋一棟ヲ擔保トシテ金融ノ斡旋方ノ依賴ヲ受ケ同月二十九日頃上野政吉ヨリ同家屋ヲ擔保トシテ金八百圓ヲ借受ケ偉雄ノ爲右金員ヲ保管中其ノ頃內金五百圓ヲ東京市內ニ於テ數囘ニ亙リ擅ニ自己ノ用途ニ費消橫領シ第二、（イ）小島八十二ノ印章ヲ押捺シタル約束手形ヲ所持シ居タルニ乘シ同人名義ノ約束手形ヲ僞造行使シテ他ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ昭和九年三月初旬頃東京市目黑區上目黑ナル被告人當時ノ居宅ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ右手形用紙ニ擅ニ振出人小島八十二受取人件偉雄金額百五十圓等其ノ他必要事項ヲ記載シテ小島八十二振出名義ノ約束手形一通（當審昭和十一年押第六〇號ノ三）ヲ僞造シ同年三月八日頃同市同區駒場町件偉雄方ニ於テ右僞造手形ヲ恰モ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ同人ニ提出行使シタル上八十二カ金借ヲ希望シ居ルヲ以テ同人ニ金員ヲ貸與セラレ度キ旨虛僞ノ事實ヲ申向ケ偉雄ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ八十二ニ對スル貸金名義ノ下ニ偉雄ヨリ約金百三十一圓ヲ受領シテ之ヲ騙取シ（ロ）昭和九年十一月頃豫テ知合ナル畑谷孝三ノ承諾ヲ得テ同人名義ノ電話大塚五二二七番ヲ擔保トシテ他ヨリ金八百圓ヲ借受ケタルカ其ノ後昭和十年三月二日頃前記件偉雄方ニ於テ同人ニ對シ右ノ事實ヲ秘シ宛モ右電話カ曾テ金借ノ擔保ニ供セラレタルコトナキモノノ如ク裝ヒタル上之ヲ擔保トシテ金員ヲ貸與セラレ度キ旨申向ケ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ貸金名義ノ下ニ同人ヨリ金百四十五圓ヲ受領シテ騙取シタルモノナリ而シテ右第一ノ各橫領及第二ノ各詐欺ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス法律ニ照スニ被告人ノ判示橫領ノ行爲ハ刑法第二百五十二條第一項第五十五條ニ有價證券僞造ノ行爲ハ同法第百六十二條第一項ニ其ノ行使ノ行爲ハ同法第百六十三條第一項ニ詐欺ノ行爲ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ各該當スルトコロ有價證券ノ僞造ト同行使ト詐欺トノ間ニハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ最モ重キ僞造有價證券行使罪ノ刑ニ從ヒ之レト橫領罪トハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ重キ僞造有價證券行使罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍內ニ於テ被告人ヲ懲役八月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケ未決勾留日數三十日ヲ本刑ニ算入シ押收ニ係ル主文揭記ノ手形ノ僞造部分ハ判示僞造有價證券行使罪ノ組成物件ニシテ何人ノ所有ニモ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第一號第二項ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノトス

仍テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

昭和十一年十月十三日

大審院第四刑事部、裁判長判事宇野要三郎

判事 沼 義雄　判事 駒田 重義

判事 日下 巖　判事 吉田常次郎

●町議選擧ニ於ケル報酬供與罪ト擬律錯誤

昭和十一年(れ)第一三八五號

判　決

本籍並住居　新潟縣西蒲原郡燕町大
字燕三千五百五十番地ノ一
煙管製造業　深海 隆明
（明治七年六月十八日生）
外 三 名

右町會議員選擧罰則違反被告事件ニ付昭和十一年四月二十八日新潟地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ各被告人原審辯護人瀧澤壽一ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】　原判決ヲ破毀ス

被告人隆明ヲ罰金三十圓ニ被告人正一虎一乙松ヲ各罰金二十圓ニ處ス

右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間其ノ被告人ヲ勞役場ニ留置ス

被告人正一虎一乙松ヨリ各金五十五錢宛ヲ追徵ス

【理由】　辯護人太田資時上告趣意書第一點原判決ハ刑ノ適用ニ付「法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ニ付テハ町村制第三十七條ニ依リ衆議院議員選擧ニ關スル罰則ヲ準用スヘキトコロ犯罪後衆議院議員選擧法ノ改正ニ因リ刑ノ變更アリタルヲ以テ刑法第六條ニ則リ新舊兩法ノ第百十二條ヲ比照シ輕キ舊衆議院議員選擧法第百十二條ニ從フヘク被告人隆明ノ判示所爲ハ同法第百十二條第一號ニ被告正一虎一乙松ノ判示各所爲ハ同法第百十二條第四號ニ各該當スルヲ以テ所定刑中罰金ヲ選擇シ其ノ金額範圍內ニ於テ被告人隆明

ヲ罰金三十圓ニ被告人正一虎一乙松ヲ各罰金二十圓ニ處スルヲ相當トス」ト判決セラレタリ惟フニ右原判決ノ判旨ニ依レハ舊衆議院議員選擧法トハ大正十四年法律第四十七號ノ選擧法ヲ云ヒ新衆議院議員選擧法トハ昭和九年法律第四十九號ノ選擧法ヲ云フモノノ如シ果シテ判旨然リトセハ原判決ハ不當ニ刑法第六條ヲ適用シ廢止セラレタル法律ニ依リ犯罪ヲ處斷シタル擬律錯誤ノ不法アリ改正町村制ハ昭和十年七月二日法律第四十六號ヲ以テ公布セラレ其ノ附則ニ「昭和九年法律第四十九號（衆議院議員選擧法）ハ本法ノ適用ニ付テハ本法ノ施行ト同時ニ施行セラレタルモノト看做ス」トアリテ又同附則ノ前段ニハ「本法中公民權及議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行シ」云々トアリ又改正町村制第十九條ニ「村町長ハ選擧ノ期日前七日目迄ニ選擧會場投票ノ日時及選擧スヘキ議員數ヲ告示スヘシ」云々ト規定シアルカ故ニ改正町村制ノ議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧即チ本件ニ付テハ投票日タル昭和十年十一月三十日ノ七日前ヨリ施行セラレタルコト寔ニ明瞭ナリ果シテ然ラハ昭和九年法律第四十九號衆議院議員選擧法（第百十二條）ハ昭和十年法律第四十六號改正町村制ノ適用ニ付テハ同町村制施行ト同時ニ施行セラレタルモノト看做ストアル附則ノ規定アル結果改正衆議院議員選擧法（第百十二條）ハ本件ニ付テハ次期ノ町會議員ノ總選擧ノ投票日タル昭和十年十一月三十日ノ七日前即チ十一月二十三日ヨリ施行セラレタルコト亦明瞭ナリ然ルニ本件事實ハ被告人隆明カ昭和十年十月二十七日頃料理店長盛館ニ於テ選擧運動者タル被告人正一虎一乙松ニ對シ其ノ報酬トシテ金五十五錢ニ相當スル饗應ヲ爲シ被告人正一虎一乙松ハ同日同所ニ於テ孰レモ前項ノ情ヲ諒承シテ其ノ饗應ヲ受ケタルモノナリト云フニ在ルヲ以テ被告等ノ行爲ハ改正衆議院議員選擧法ノ改正後ニ係ルヲ以テ原裁判所カ右被告等ノ所爲ヲ處罰セントスルナラハ原判決ノ所謂新法即チ昭和九年法律第四十九號衆議院議員選擧法ヲ適用スヘキモノニシテ刑法第六條ニ依リ舊法即チ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法ヲ適用スヘキモノニアラサルコト論ヲ俟タス然ルニ原判決カ前記法律ヲ誤解シ犯罪後衆議院議員選擧法ノ改正ナク又刑ノ變更ナキニ拘ラス舊法タル大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法ノ第百十二條ヲ適用シ處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アリト云フニ在リ

【判決理由】 依テ案スルニ町村制中改正法律ハ昭和十年七月三日法律第四十六號ヲ以テ公布セラレ其ノ附則ニハ「本法中公民權及議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行シ云々昭和九年法律第四十九號ハ本法ノ適用ニ付テハ本法ノ施行ト同時ニ施行セラレタルモノト看做ス」トノ規定アリ又改正町村制第十九條ニハ「町村長ハ選擧ノ期日前七日目迄ニ選擧會場投票ノ日時及選擧スヘキ議員數ヲ告示スヘシ云々」ノ規定アルヲ以テ改正町村制ノ議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ施行セラレタルモノニシテ本件ニ於テハ其ノ投票日タル昭和十年十一月三十日ノ七日前即チ同月二十三日ヨリ當然施行セラレタルコト疑ナク而モ其ノ適用ニ付テハ昭和九年法律第四十九號改正衆議院議員選擧法モ亦同時ニ施行セラレタルモノト看做スヘキコトハ前記町村制中改正法律附則ノ規定上極メテ明白ナリト云フヘシ果シテ然ラハ本件ノ犯罪事實トシテ原判決ノ認定シタル所ハ結局被告人隆明ニ於テ昭和十年十一月二十七日頃料理店長盛館ニ於テ選擧運動者タル被告人正一、虎一、乙松ニ對シ其ノ選擧運動ニ對スル報酬トシテ金五十五錢ニ相當スル酒肴ノ饗應ヲ爲シ被告人正一、虎一、乙松等モ其ノ事情ヲ知悉シ乍ラ右ノ饗應ヲ受ケタリト云フニ在リテ被告人等ノ犯行カ全ク改正衆議院議員選擧法ノ施行後ニ係ルコト勿論ナルカ故ニ判示ノ如ク刑法第六條ニ依リ新舊法ヲ比照シ改正前ノ衆議院議員選擧法ヲ適用スルノ餘地アルコトナク原審カ論審摘錄ノ如キ説明ニ依リ舊規定ニ照シテ被告人等ヲ處斷シタルハ違法ニシテ論旨ハ理由アルヲ以テ原判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス

以上ノ理由ニ依リ本件ニ付テハ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ基キ更ニ當院ニ於テ判決ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ原審ノ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人隆明ノ所爲ハ町村制第三十七條衆議院議員選擧法第百十二條第一項第一號ニ又被告人正一・虎一及乙松ノ所爲ハ孰レモ町村制第三十七條衆議院議員選擧法第百十二條第一項第四號ニ各該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シテ被告人等ヲ夫々主文ノ如ク罰金ニ處シ其ノ不完納ノ場合ニハ刑法第十八條ヲ適用シテ主文掲記ノ期間勞役場ニ留置スヘク尚被告人正一、虎一、乙松ノ收受シタル利益ハ沒收スルコト能ハサルカ故ニ町村制第三十七條衆議院議員選擧法第百十四條ニ則リ其ノ價額金五十五錢宛ヲ追徵スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事德江治之助關與

昭和十一年十月十六日

大審院第四刑事部
裁判長判事　宇野要三郎
判事　沼義雄　判事　駒田重義
判事　日下巖　判事　吉田常次郎

●主人ノ爲ニスル番頭ノ選擧違犯ト其ノ情狀

昭和十一年(れ)第一三四五號

決定

本籍並住居　山口縣豐浦郡小月町第二千五百八十二番地
農業　井上金一
（明治二十九年十月十三日生）

右縣會議員選擧罰則違反被告事件ニ付昭和十一年四月三十日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事池田克ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人弘重定一上告趣意書原審ハ被告人カ昭和十年十月五日施行セラレタル山口縣會議員選擧ニ立候補シタル兒林貫零ノ番頭タリシモノナル處選擧運動員ニ非サルニ拘ラス同月四日藤田仁助ナルモノヨリ同候補者ノ爲ニ投票買收ノ費用ヲ供與セラレ度旨ノ申込ヲ受クルヤ之ヲ承諾シ同月四日及五日ノ二回ニ合計七十五圓ヲ同人ニ交付シタル事實ヲ認定セラレ依テ禁錮八月ニ處セラレタリ然ル處被告人ハ元來性質溫良ニシテ未タ曾テ刑辟ニ觸レタルコトナク一意專心小林ニ仕ヘテ忠勤ヲ勵ミ其ノ營業ニ一切ヲ擔當シ之ニ關スル金錢ノ出納ヲモ一任セラルルニ至リタルモノナルカ偶主人カ始メテ右ノ縣會議員選擧ニ立候補スルニ際シテハ之カ當選ヲ希フノ情ノ深キモノアリシコト察スルニ難カラス此ノ時ニ當リ平素疎遠ナル藤田仁助ハ選擧前日ノ夕方突如トシテ來リ其ノ妹スエ子ナルモノヲ通シテ面會ヲ求メテ主人ニ當選ヲ得セシムル爲奮闘努力セント誓ヒ以テ買收費ヲ強要シタリ被告人ハ右要求ニ對シ「先程申上ケタ如ク私ハ金ヲ出スト云フコトハ絶對ニイカヌ」ト拒絶シタルニ應ヘテ同人ハ「怎ウシテモ買收セネハイケヌ自分ハ以前保良（衆議院議員候補者）ノ選擧運動ヲヤツタ經驗カアルノタカ員光部落ハ買收ノ事實カハレルト云フ様ナ心配ハ全然ナイ處タ若シハレタ場合ハ自分カ全責任ヲ負ヒ他ノ人ニ迷惑ヲ掛ケル様ナコトハシナイ」（原審被告人供述）ト主張シテ讓ラス是ヨリ先仁助ハ期スル處アリテカ同日午前中既ニ他ノ二名ノ者ヲ誘ヒ投票買收ノ謀議ヲ凝ラシ運動ノ部署ヲ定メ（豫審調書同人等ノ供述）居リシヲ以テ其ノ勸誘ハ自然熱心ナラサルヲ得ス從テ被告人ノ意途ニ動イテ僅カニ自己保管ニ係ル金員ヲ取出シテ之ヲ同人ニ交付スルニ至リタルモノナル事情モ亦容易ニ推認シ得ラルル處ナリ果シテ然ラハ被告人ハ斯ノ如キ甘言ニ容易ニ誘惑セラルル程爾カク素朴單純ナリ且被告人ハ從前如何ナル選擧運動ニモ關係シタルコトナク又敢テ主人ノ爲ニ本件選擧運動ニ參畫シタリト云フニモ非ス只管主人ノ家業ニ精勵シツツアリシニ偶然選擧間際ニ及ヒ意外ナル邊ヨリ來レル誘惑ニ遭遇シ主人ノ爲ニ謀ツテ忠ナラント欲シ却テ主人ノ德ヲ傷クルニ至リシハ被告人ノ智慮淺薄ニ基因スル所ナリトハ云ヘ其ノ情ノ掬スヘキモノナシト云フヘカラス當今夥シキ選擧違反事件中本件ノ如キハ輕微ナル事案ニ屬シ併モ被告人ニ叙上ノ如キ酌量ニ値スル情狀存スルアリ然ルニ之ニ對スル原審ノ科刑ハ此ノ種犯行中情ノ最モ惡ムヘク社會ニ對スル影響ノ最モ大ナルモノニ相當スヘキモノニシテ被告ニ對シテハ甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト言ハサルヲ得ス或ハ本件カ偶々政府當局ニ於テ選擧肅正ヲ強調シ違反防止ニ努力シツツアリシ時ニ行ハレタル犯罪ナルノ故ヲ以テ斯ノ如キ格段ナル嚴罰ヲモ正當化セントスルモノアラハソノ誤リナルコト多言ヲ要セス原判決ハ破毀セラルヘキモノナリト信スト云ヒ辯護人村岡吾一上告趣意書原判決ハ被告人ニ對シ禁錮八ケ月ノ刑ヲ言渡シタルモ是甚シク刑ノ量定不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アリ原判決ハ破毀セラルヘキモノト信ス即チ被告人ノ犯罪行爲ハ原判決摘示ノ如ク酒造業兒林貫零ノ番頭タル被告人金一カ其ノ主人ノ縣會議員選擧ニ際シ偶々選擧ブローカー藤田仁助ナル者ニ強要セラレ兒林ノ當選ヲ圖ル目的ヲ以テ被告人保管中ノ金員ヲ藤田ニ交付シタリト謂フニアリテ其ノ行爲ハ（一）自己ノ發意ニ非スシテ所謂選擧ブローカーノ強制ニ逢ヒ被告人カ之ヲ拒絶シ得サリシニ過キサルコト（二）毫末モ自己ノ利益ヲ圖リ若クハ自己ノ都合ヲ良クセントスルノ意ナク一途ニ主人ノ當選ヲ念願スルノ至情ニ出テタルモノナルコトノ事情一件記錄ニ徵シ寔ニ明白ナリトス而シテ相被告藤田仁助等ハ自己ノ運動報酬ヲ得ンカ爲仁助ハ態々被告人宅ヲ訪問シ被告人ヨリ金員ヲ受取リ之ヲ以テ多數ノ有權者ヲ買收セルモノナルカ同人ニ對スル科刑ハ懲役八ケ月ニシテ被告人ト同一ノ刑期ナリ抑モ昭和九年法律第四十九號ニ於テ衆議院議員選擧法ノ罰則ヲ改正シ新ニ條百十二條ノ二ヲ設ケ財產上ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ買收其ノ他選擧界ヲ腐敗セシムヘキ行爲ヲナシ若クハ其ノ常習者ニ特ニ五年以下ノ體刑ヲ科スルコトナシタル所以ハ所謂選擧ブローカーヲ根絕セントスルニアリテ政府カ選擧肅正ヲ強調スル所以モ亦斯ル惡質犯罪者ヲ嚴罰シテ一掃セントスルニアルヤ言ヲ俟タス此ノ改正法ノ趣旨ハ普ク徹底シタルニモ拘ラス本件ノ原動者タル藤田仁助ハ前記ノ如ク依然之ヲ敢テシ私腹ヲ肥サント企テ兒林候補ノ番頭ニテ選擧ニ全然關係ナキ被告人井上ノ宅ヲ訪ネ金員ノ提供ヲ強要シテ終ニ目的ヲ達シタル次第ニテ被告人井上ハ實ニ一種ノ被害者ニ外ナラス若シ藤田ノ要求ナカリセハ井上ハ斯ル不詳事ヲ惹起スルモノニ非サルハ明カナリ而シテ藤田ノ行爲ハ衆議院議員選擧法第百十二條ノ二ニ該當シ五年以下ノ本刑ニ處スヘキモノナレトモ被告人井上ノ行爲ハ同法第百十二條ニヨリ三年以下ノ體刑若クハ二千圓以上ノ罰金刑ニ處スヘキモノニ過キスシテ兩者ハ其ノ罪質ト刑罰トニ格段ノ差異アルモノナリ故ニ藤田ノ所爲カ一審判決ノ如ク八ケ月ノ體刑ニ相當スルモノトセハ被告人ノ刑ハ尠クモ其ノ半期以下タルヘキハ常識上ヨリ見テ當然ト謂フヘシ即チ被告人ニ對スル八ケ月ノ體刑ハ甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノトス依テ被告人ハ一審判決ヲ不當トシ控訴シタルニ原審ハ此ノ間ノ事情ヲ何等參酌セス一審同樣八ケ月ノ體刑ヲ言渡シタルモ斯ノ如キハ實ニ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アル次第ニシテ原判決ハ破毀セラルヘキモノト信スル次第ナリ尙ホ被告人井上トシテ特ニ御留意ヲ仰キ度キハ被告人ノ行爲ハ一件記錄ニアル如ク藤田ノ要求ニヨリ全ク獨斷ヲ以テナシタル所ニテ決シテ主人兒林ノ意思ニ基クモノニアラサル一事ナリ兒林家ハ名望家ニシテ先代モ多年縣會議員タリ當主貫零氏モ人格德望高ク工學士ニシテ現ニ町長ノ職ニ在リ肅正選擧ノ下ニ於ケル理想的候補者ニシテ決シテ不正ノ運動ヲ爲スカ如キ人物ニアラス被告人トシテ斯ル事件ノ爲聊カタリトモ主人ニ疑惑ノ生スルハ頗ル心外トスル所ナリトスト云フニ在リ

【決定理由】 因テ記錄ヲ精査スルニ原判決ハ被告人ニ對スル刑ノ量定ニハ甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト認ムヘキヲ以テ本論旨ハ其ノ理由アリ仍テ刑事訴訟法第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十一年九月二十四日

大審院第二刑事部
裁判長判事　遠藤誠
判事　尾佐竹猛　判事　岸達也
判事　山內揆一　判事　田中[illegible]

昭和十一年(れ)第一三四五號

判　決

本籍並住居　山口縣豐浦郡小月町第二千五百八十二番地

農業　井上金一

（明治二十九年十月十三日生）

右縣會議員選擧罰則違反被告事件ニ付昭和十一年四月三十日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】原判決ヲ破毀ス

被告人金一ヲ禁錮二月ニ處ス

第一審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入ス

【理由】辯護人弘重定一上告趣意書及辯護人村岡吾一上告趣意書ノ論旨理由アリテ原判決ハ破毀ヲ免レサルコト本院カ昭和十一年九月二十四日言渡シタル事實審理開始決定ニ說示スルカ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ更ニ被告事件ニ付審案スルニ被告人ハ昭和十年十月五日施行セラレタル山口縣々會議員選擧ニ際シ立候補シタル兒林眞琴方ノ番頭タリシモノニシテ同候補者ノ法定ノ選擧運動者ニ非サルニ拘ラス同月四日同縣豐浦郡小月町大字上小月角野勘定方塀外ニ於テ選擧人藤田仁助ヨリ同候補者ノ爲投票ヲ買收シ遣ルヘキニ依リ其ノ費用ヲ供與サレ度旨申込ヲ受クルヤ之ヲ承諾シ右候補者ヲシテ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ右仁助ニ對シ同人カ同候補者ノ爲ニ投票並選擧運動ヲ爲ス報酬及他ノ選擧人ノ投票買收費トシテ同日同所ニ於テ金五十圓尙犯意繼續シテ翌日同町角野庄藏方ニ於テ同一趣旨ノ金二十五圓ヲ各供與シ以テ無資格選擧運動ヲ爲シタルモノナリ證據ヲ案スルニ右ノ事實ハ被告人カ當公廷ニ於テ犯意繼續ノ點ヲ除ク其ノ餘ノ點ニ付其ノ旨ノ供述ヲ爲スト第一審公判調書中第一審相被告人藤田仁助ノ供述トシテ判示日時場所及金員等ニ付之ニ照應スル趣旨ノ記載アルトヲ綜合シテ之ヲ認メ得ヘク犯意繼續ノ點ハ極メテ短期間內ニ同種ノ行爲ヲ反覆累行シタル事跡ニ徵シ之ヲ認ム因テ判示事實ハ其ノ證明アルモノトス法律ニ照スニ被告人ノ所爲中金員供與ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第百十二條第一項第一號刑法第五十五條ニ無資格選擧運動ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第九十六條第一項第百二十九條ニ各該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ金員供與罪ノ刑ニ從ヒ所定ノ禁錮刑ヲ選擇シ其ノ範圍內ニ於テ被告人ヲ禁錮二月ニ處スヘク尙刑法第二十一條ニ依リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事池田克關與

昭和十一年十月二十二日

大審院第二刑事部、裁判長判事遠藤誠

判事　尾佐竹猛　判事　岸達也

判事　山內揆一　判事　田中[illegible]

●自動車ノ停車ト駐車

自動車ノ停車トハ人ノ乘降若ハ貨物ノ積卸ノ爲停止シ又ハ法令ノ規定若ハ交通上ノ標示指示ニ依リ若ハ交通上ノ危害豫防ノ爲一時停止スルヲ謂ヒ駐車トハ停車以外ノ場合ニ於テ自動車ヲ駐ムルヲ謂フモノニシテ停車ノ場合ト雖停止繼續時間五分以上ニ亘ルトキハ之ヲ駐車ト看做ス

●自動車運轉手ノ地方長官榜示禁條違反ト適用法令

自動車運轉手カ地方長官ノ榜示禁條ニ違反シテ自動車ヲ停車又ハ駐車セシメタル事犯ニ關スル限リ內務省自動車取締令ハ警察犯處罰令ニ優先シテ適用セラルヘキモノトス

昭和十一年(れ)第七一五號

決　定

本籍　橫濱市中區本鄕町三丁目九十九番地

住居　東京市淺草區石濱町二丁目一番地ノ一號

早川方

自動車運轉者　土方松太郎

（明治四十三年一月十六日生）

右警察犯處罰令違反被告事件ニ付昭和十一年二月十四日東京刑事地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ本院ハ檢事黑川涉ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】被告人上告趣意書第一點東京刑事地方裁判所ニ於テ「自動車ノ駐車ヲ禁ス」ノ標示アル場所ニ於テ客ヲ降車セシメ然ル後運轉者タル被告ハ十間程離レタル水飲場ニ水ヲ飲ミニ行キタル後新タナル客アリタルニヨリ乘車セシメ發車セントシタル時交通巡査ニ本件違反ナリトシテ警察犯處罰令第二條第二十六號ニ該當スルトノ理由ニヨリ第一審通リ科料金一圓ニ處スル判決アリタリ右判決ハ自動車取締令第四條後段ノ駐車規定ヲ無視シタルモノナリ即チ「本令ニ於テ自動車ノ駐車ト稱スルハ停車以外ノ場合ニ於テ自動車ヲ駐ムルコトヲ謂フ但停車ノ場合ト雖自動車ノ停止繼續時間五分以上ニ亘ルトキハ之ヲ駐車ト看做ス」トアリ然ルニ被告人ノ爲シタル前記行爲ノ時間ハ五分以內ナリ之ヲ裁判長モ認メナカラ客ヲ降車セシメ被告人水ヲ飲ミニ數十秒自動車ヲ離レ然シテ後客ヲ乘車セシメタル行爲ヲ含ムノ故ヲ以テ右停車行爲ヲ直チニ榜示禁條ヲ犯シタリト見做シ警察犯處罰令第二條第二十六號ヲ適用スルカ如キ判決ハ法ニ違背スルモ甚タシキモノナリト云ヒ第二點當時該場所ニ標示シアリタル「自動車ノ駐車ヲ禁ス」ノ榜示制札ノ趣旨ハ同所ハ上野動物園前ナル爲午後トモナレハ見物人並遊步者多ク之等ノ歸リ客ヲ目標ニ集合スル空自動車駐車スルトキハ步行車ノ不便且迷惑多々アリ之ヲ防カン爲ト存スレト本件ノ如キハ午前八時三十五分頃ニシテ動物園入場者少ナク且附近ニ自動車一臺モナク又遊步者殆ント無キカ如キ狀態ナリ原審ハ此ノ點ニ重キヲ置カス且被告ノ要求ナシタル唯一ノ證人タル當時ノ交通巡查ノ取調ヲ爲サスシテ漫リニ判決ヲ言渡シタルハ不法ナリト云フニ在リテ

【決定理由】其ノ論旨ハ要スルニ原判決ハ事實ノ認定並法令ノ適用ヲ誤リタルモノナリト云フニ歸ス記錄ヲ精査スルニ所論ノ如ク原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アリト認ムルヲ以テ此ノ點ニ關スル論旨ハ理由アリ仍テ爾餘ノ論旨及第三點ノ論旨ニ對スル說明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十一年七月十五日

大審院第三刑事部、裁判長判事草野豹一郎

判事　日下部義夫　判事　瀨波良藏

判事　吉田常次郎　判事　久禮田益喜

昭和十一年(れ)第七一五號

判　決

本籍　橫濱市中區本鄕町三丁目九十九番地

住居　東京市淺草區石濱町二丁目一番地ノ一號

早川方

自動車運轉者　土方松太郎

（明治四十三年一月十六日生）

右者ニ對スル警察犯處罰令違反被告事件ニ付昭和十一年二月十四日東京刑事地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ヨリ適法ナル上告ノ申立アリタルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】原判決ヲ破毀ス

被告人松太郎ハ無罪

【理由】被告人上告趣意書第一、二點中原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アリトノ論旨ノ理由アルコトハ昭和十一年七月十五日本院ノ爲シタル事實審理開始ノ決定ニ於テ說明シタルカ如シ仍テ同決定ニ基キ更ニ本院ニ於テ本案被告事件ニ付審理スルニ本件公訴事實ノ要旨ハ被告人ハ昭和十年九月八日午前九時頃東京市下谷區上野公園內動物園先道路ニ於テ警視廳ノ榜示セル自動車駐車禁止ノ禁條ヲ犯シ乘用自動車第二一七四號ヲ駐車シタリト云フニ在リ之ニ對シ被告人ハ當公廷ニ於テ當時自分ハ免許ヲ受ケタル自動車運轉者トシテ數名ノ客ヲ乘セタル乘用自動車第二一七四號ヲ運轉シテ右日時頃警視廳ノ榜示ニヨリ自動車ノ駐車ヲ禁止セラレタル區域內ナル上野公園動物園先道路ニ到リ同自動車ヲ同所ニ停メ乘客ヲ降車セシメタルモ之ヲ駐車シタル事實ナキ旨辯疏スルヲ以テ先コノ點ニ付審究スルニ當公廷ニ於ケル被告人及證人橋本光孝ノ各供述ニ依レハ被告人ハ自動車運轉ノ免許ヲ有スル者ナルトコロ乘用自動車第二一七四號ニ數名ノ客ヲ乘セ之ヲ運轉シテ右日時頃警視廳ノ自動車駐車禁止ノ榜示アリテ其ノ禁止區域內ナル上野公園內動物園先道路ニ到リ一時該自動車ヲ同所ニ停メ右乘客ヲ降車セシメタル事實ヲ認メ得ヘク從テ被告人ノ右所爲ハ一見明治四十一年內務省令第十六號警察犯處罰令第二條第二十六號ニ所謂官公署ノ榜示セル禁條ヲ犯シタル者ニ該當スルカ如シ然レトモ警視廳カ叙上ノ如ク禁止シタル自動車ノ駐車トハ之ヲ昭和八年內務省令第二十三號自動車取締令第四條ニ所謂自動車ノ駐車ト同一意思ニ解スルヲ相當トスヘク同條ニ依レハ自動車ノ停車トハ人ノ乘降若ハ貨物ノ積卸ノ爲自動車ヲ停止シ又ハ法令ノ規定若ハ交通上ノ標示指示ニ依リ若ハ交通上ノ危害豫防ノ爲一時自動車ヲ停止スルコトヲ謂ヒ自動車ノ駐車ト稱スルハ停車以外ノ場合ニ於テ自動車ヲ駐ムルコトヲ謂フモノニシテ停車ノ場合ト雖自動車ノ停止繼續時間五分以上ニ亘ルトキハ之ヲ駐車ト看做サルルモノナルカ故ニ前示ノ如キ自動車駐車ノ禁止區域內ナリト雖自動車ヲ駐車セサル限リ警視廳ノ榜示セル前示禁條ヲ犯シタルモノト云フヲ得サルヘク單ニ停車シタルニ止マルカ如キハ右禁條ニ違背シタルモノト爲スヲ得ス而モ一方ニ於テ前示自動車取締令ニ依レハ自動車運轉ノ免許ヲ有スル者カ道路ニ於テ自動車ヲ停車若ハ駐車スルニ付一定ノ制限ヲ設ケ殊ニ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ハ指定シタル場所ニ停車若ハ駐車スルコトヲ禁シ且其ノ制限禁止ニ違背シタル者ニ對シ一定ノ罰則ヲ定メタル點ヨリ考察スレハ免許ヲ有スル自動車運轉者カ地方長官（又ハ警視總監）ニ於テ自動車ノ停車又ハ駐車ヲ禁シタル場所ナルニ拘ラス之ニ違背シテ乘用自動車ヲ同場所ニ停車又ハ駐車セシメタル事犯ニ關スル限リ自動車取締令ハ前示警察犯處罰令第二條第二十六號ニ所謂官公署ノ榜示セル禁條違反ノ罰則ニ優先シテ適用セラルヘキモノト解スルヲ相當トスヘク從テ右本件公訴ニ係ル事實ニシテ其ノ證明十分ナルニ於テハ被告人ハ自動車取締令第六十四條第八十二條ニ依リ處罰セラルヘキモノニシテ之ヲ警察犯處罰令第二條第二十六號ニ問擬スヘキモノニ非スト云ハサルヘカラス然ルニ被告人カ前示自動車駐車禁止區域內ニ於テ叙上ノ如ク乘客ヲ降車セシムル爲一時乘用自動車ヲ停メタル事實ハ之ヲ認ムルニ足ルモ進ムテ同場所ニ自動車ヲ駐車シタル事實ハ一件記錄ニ徵スルモ之ヲ確認スルニ足ル證據存スルコトナシ左レハ本件ニ於テ被告人カ自動車取締令違反ノ行爲ヲ爲シタルモノト認メ難キハ勿論警察犯處罰令第二條第二十六號違反ノ行爲ヲ爲シタルモノトモ云フヲ得ス從テ本件ハ結局犯罪ノ證明ナキニ歸スルヲ以テ刑事訴訟法第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事黑川涉關與

昭和十一年十月二十八日

大審院第三刑事部、裁判長判事日高要次郎

判事　草野豹一郎　判事　日下部義夫

判事　瀨波良藏　判事　久禮田益喜

●追徵ト擬律錯誤

沒收スヘキ金錢ノ內現ニ領置セラレタルモノ在ルトキハ其ノ殘額ヲ追徵スヘキモノトス

昭和十一年(れ)第一八四一號

判　決

本籍並住居　山梨縣東山梨郡中牧村倉科二千四百五十八番地

農業　間瀨晃

（當六十三年）

右衆議院議員選擧法違反被告事件ニ付昭和十一年五月十九日甲府地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】原判決ヲ破毀ス

被告人ヲ禁錮二月ニ處ス

但第一審ニ於ケル未決勾留日數中十日ヲ右本刑ニ算入ス

押收ニ係ル現金九圓ハ之ヲ沒收ス被告人ヨリ金二十一圓ヲ追徵ス

【理由】 辯護人宮澤武七上告趣意書第一點甲府區裁判所カ昭和十一年三月二十日言渡シタル判決ニモ亦同年五月甲府地方裁判所カ控訴審トシテ言渡シタル判決ニモ等シク本件被告ニ對シ金三十圓ノ追徵ヲ命セラレタルモ本件被告カ收受シタル金額ハ三十圓ニ爭ナク而シテ被告カ昭和十一年二月二十四日日下部警察署ニ於テ金九圓ヲ領置セラレタルコトモ亦爭ナキ事實ニシテ被告ノ手ニ存スルモノハ金二十一圓也元來追徵金ナルモノハ被告ニ對シ不當ノ利得ヲ得セシメサルカ爲ニ爲ス所ノ一種ノ民事的存在ニシテ被告ヲ懲罰スル性質ノモノニ非ス果シテ然ラハ被告ノ利得ニ歸スルトコロノモノハ金二十一圓ニシテ三十圓ニ非ス然ルニ本件被告ニ對シ第一審裁判所カ漫然三十圓ノ追徵ヲ命シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル裁判ニシテ之ヲ看過シテ等シク三十圓ノ追徵金ヲ命シタル原審ノ裁判亦違法タルヲ免レスト云フニ在リ

【判決理由】 仍テ記錄ヲ檢スルニ被告人カ判示大村光太郎ヨリ供與ヲ受ケタル金三十圓ノ内金九圓ハ領置セラレ殘金二十一圓ハ被告人ニ於テ費消シタルコト明瞭ナルヲ以テ右現金九圓ハ被告人カ本件ニ於テ收受シタル利益トシテ衆議院議員選擧法第百十四條前段ニ則リ之ヲ沒收シ右殘金二十一圓ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同條後段ニ依リ其ノ價額ヲ被告人ヨリ追徵ス可キモノトス然ルニ原判決カ事玆ニ出テス金三十圓全部ヲ被告人ヨリ追徵シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタルハ違法アルモノニシテ論旨理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス

同上第二點ハ量刑ノ不當ヲ論スルモノナルトコロ本院ニ於テハ原判決ヲ破毀シ新ニ刑ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ナルヲ以テ之ニ對シテハ特ニ說明ヲ與フルノ要ナク尙辯護人宮澤武七ハ上告追加理由書ヲ提出シタルモ右ハ法定期間經過後ニ係ルヲ以テ之ニ對シテモ亦說明ヲ要セサルモノトス以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ依リ本院ニ於テ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス依テ原判決ノ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中金錢ノ供與ヲ受ケタル點ハ衆議院議員選擧法第百十二條第一項第四號ニ各金錢供與申込ヲ爲シタル點ハ同條項第一號ニ無資格選擧運動ノ點ハ同法第九十六條第一項第百二十九條ニ夫々該當スルトコロ金錢ノ供與ヲ受ケタル所爲及各金錢供與申込ノ所爲ハ意思繼續ニ係ルモノ無資格選擧運動ノ所爲ト各金錢供與申込ノ所爲トハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第五十五條第十條ニ依リ最モ重キ金錢ノ供與ヲ受ケタル罪ノ刑ニ依ル可ク仍テ其ノ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ所定刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮二月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中十日ヲ右本刑ニ算入スヘク押收ニ係ル現金九圓ハ被告人カ判示金錢ノ供與ヲ受ケタル罪ニ因リ收受シタル利益ノ一部ナルヲ以テ衆議院議員選擧法第百十四條前段ニ依リ之ヲ沒收シ殘餘ノ收受利益ハ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同條後段ニヨリ其ノ價額二十一圓ヲ被告人ヨリ追徵スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事一木楢太郎關與

昭和十一年十一月七日

大審院第五刑事部、裁判長判事日高要次郎
判事 綾田嘉七　判事 岸達也
判事 日下巖　判事 久禮田益喜

●醫師ノ注意義務懈怠ト犯罪ノ無證明

昭和十年（れ）第一九三三號

決定

本籍 青森縣東津輕郡新城村大字新城字山田五百八十四番地
住居 北海道阿寒郡舌辛村雄別炭山本坑社宅
醫師 齋藤秀德
（明治四十年八月十二日生）

右業務上過失致死被告事件ニ付昭和十年十二月六日釧路地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人赤井幸夫上告趣意書第二點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ「被告人ハ昭和十年二月中旬ヨリ阿寒郡舌辛村雄別鑛業所ニ醫務係トシテ雇ハレ同鑛業所經營ノ本抗診療所及大祥内分院ニ於テ醫業ニ從事セルモノナルトコロ右大祥内分院ハ藥局ノ設備不完全ニシテ調劑資格ヲ有スル藥劑師ノ配置ナク看護婦モ多クハ無資格者ナルニ之ニ調劑投藥ヲ爲サシメ居リ藥品ノ藏置方亂雜ニシテ劇毒藥ト普通藥トヲ混置シ而モ其ノ容器ニ所定ノ藥名表示ノレツテルヲ貼付セス殊ニ只一個備付ノ三角フラスコニ平素クロールカルシユームノ注射液ヲ充テ使用シ居レルニ拘ラス之ニレツテルヲ貼付セサルノミナラス隨時之ヲ他藥品ノ容器ニ流用セルヲ以テ斯ノ如キ設備ノ下ニ患者施療ノ局ニ當ル醫師ハ其ノ調劑投藥等ニ際シ藥品ノ誤用ナキ樣周到ナル注意ヲ拂ヒ殊ニ見習看護婦等ヲシテ調劑投藥等ヲ爲サシムルニ當リテハ眼前ニ於テ具體的指示監督ノ下ニ之ヲ爲サシムヘク然ラサル場合ニハ施用前適宜ノ方法ニ依リ品質分量ニ誤ナキコトヲ檢認シ以テ藥品ノ誤用ニ基ク事故ノ發生ヲ未然ニ防止スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス被告人ハ昭和十年三月二十一日午前九時過頃前記分院診療室ニ於テ坑夫鎌田龜太郎（當二十三年）ノ右足蹠膿治療ノ爲消炎殺菌劑クロールカルシユーム及ネモフラビンノ混合溶液ヲ注射スヘク見習看護婦石森ことじヲシテ藥品ノ準備ヲ爲サシムルニ當リ不注意ニモ何等具體的ニ指示監督セス單ニ口頭ヲ以テクロールカルシユーム溶液ヲ注射筒ニ吸入シ持參スヘキ旨命シ同人カ藥局備付ノ暗箱内ヨリ曾テ同年二月中過頃被告人ニ於テ同分院見習看護婦本間美代ニ對シ手術セル際局所麻醉ノ爲前記三角フラスコニ入レ使用シタル後美代カ其ノ儘右暗箱内ニ納メ置キタルヌペルカインノ溶液ヲクロールカルシユームナリト輕信シ該液約二十五瓦ヲ注射筒ニ吸入シ來リテ被告人ニ交付スルヤ被告人ハ何等問査其ノ他適宜ノ檢認手段ヲ執ラス漫然之ヲクロールカルシユームナリト即斷シ該液二十五瓦ニネムフラビン溶液五瓦ヲ混入シ之ヲ右龜太郎ノ左腕正中靜脈ニ注射シタル結果同人ヲシテヌペルカイン中毒ニ因リ約三十分後同診療室ニ於テ死亡スルニ至ラシメタルモノナリ」ト判示シタリ然レトモ本件事故ノ發生ハ右判示スルトコロニ依リテ明ナルカ如ク判示診療所ニ於テ平常クロールカルシユームヲ容レ置クヘキ三角フラスコニ見習看護婦本間美代カヌペルカイン溶液ノ使用殘ヲ容レタル儘平常其ノ容器ヲ藏置スヘキ場所ニ備付ケ置キタルコトニ原因スルモノニシテ右容器ト平常ト異ルヌペルカイン溶液ノ容レアルコトハ右本間美代以外何人モ之ヲ知ラサルトコロニシテ又知ルヘキ筈ナク之ヲ知ラサルヲ以テ何人ノ過失トモ認ムヘカラサルモノナリ左レハ本件ノ事情ニ於テ右本間美代以外何人ニ於テモクロールカルシユームヲ用ヒシトセハ必スヤ右ヌペルカイン溶液ヲ用ヒシナルヘク此ノ誤用ハ本間美代以外ノ者ニ在リテハ全ク不可抗力ト云フヘク之ニ過失ノ責任ヲ負ハシムヘキニ非ス原判決ハ前示ノ如ク「見習看護婦石森ことじヲシテ藥品ノ準備ヲ爲サシムルニ當リ不注意ニモ何等具體的ニ指示監督セス單ニ口頭ヲ以テクロールカルシユーム溶液ヲ注射筒ニ吸入シ持參スヘキ旨命シ同人カ藥局備付ノ暗箱内ヨリ曾テ同年二月中過頃被告人ニ於テ同分院見習看護婦本間美代ニ對シ手術セル際局部麻醉ノ爲前記三角フラスコニ容レ使用シタル後美代カ其ノ儘右暗箱内ニ納メ置キタルヌペルカイン溶液ヲクロールカルシユームナリト輕信シ該液約二十五瓦ヲ注射筒ニ吸入シ來リテ被告人ニ交付スルヤ被告人ハ何等問査其ノ他適宜ノ檢認手段ヲ執ラス漫然之ヲクロールカルシユームナリト即斷シ云々」ト判示スト雖（一）右何等具體的ニ指示監督セス」トハ果シテ如何ナル指示監督ヲ爲スヘキ義務アリト爲シタルヤ不明ニシテ此ノ點ニ於テ理由不備ノ違法アリ假ニ上告人ニ於テ所謂具體的ニ指示シタリトスルモ「常ニ暗箱内ニ藏置シアル三角フラスコ内ノ溶液ヲ吸入シ來ルヘシ」ト命スル以外其ノ方法ナカルヘシ況ンヤ藥品藏置ニ付キテハ上告人ヨリモ寧ロ常ニ直接取扱ニ從事シ居レル看護婦ニ於テ熟知スルトコロナルヲ以テ之ヲ具體的ニ指示監督スト云フカ如キハ全ク無用ノ事柄ナリ（二）又原判決カ「石森ことじカ注射筒ヲ持チ來リテ被告人ニ交付スルヤ被告人ハ何等問査其ノ他適宜ノ檢認手段ヲ執ラス漫然之ヲクロールカルシユームナリト即斷シ」ト判示スト雖唯右ノ如ク判示スルニ止マリ如何ナル問査如何ナル檢認手段ヲ執ルヘキモノナルヤヲ具體的ニ設示スルトコロナカリシハ理由不備ノ違法アリ假ニ（一）石森ことじニ對シ如何ナル場所ニ藏置セル如何ナル容器ヨリ吸入シタリヤヲ問査シタリトスルモ右石森ニ於テハ平常クロールカルシユームヲ藏置セル容器ヨリ吸入シ來レリト答フニ外ナカリシナルヘク上告人モ之ヲ聞カハ右注射筒内ノ溶液ハクロールカルシユーナリト確信シタリシナルヘシ斯ノ如キハ平常藥品ノ取扱ヲ爲セル看護婦ニ對シテハ全ク無用ノ事柄ニシテ之ヲ爲ササルヲ以テ過失ナリトハ斷スヘキニ非サルヤ瞭然タル處ニシテ又斯ノ如ク平常藥品ノ取扱ヒニ慣レタル者カ其ノ命セラレタル藥品ナリトシテ持參セル場合ニ於テ之ヲ信用スルハ當然ニシテ之ニ對シテ過失ヲ認ムルハ失當ナリ以上要スルニ原判決ハ理由不備ノ違法アルカ罪トナラサル所爲ニ對シテ刑ヲ科シタル違法アリ破毀ヲ免レサルモノト信スト云ヒ

辯護人長谷長次上告趣意書第二點原判決ハ事實認定ニ當リ被告人秀德ニ要求シタル業務上ノ注意義務ノ限界ヲ具體的ニ確定シ居ラサル違法アリ今判文中當該事實認定ヲ摘記スルニ左ノ如シ（イ）被告人ハ……見習看護婦石森ことじヲシテ藥品ノ準備ヲ爲サシムルニ當リ不注意ニモ何等具體的ニ指示監督セス單ニ口頭ヲ以テクロールカルシユーム溶液ヲ注射筒ニ吸入シ持參スヘキ旨ヲ命シ（ロ）同人（石森ことじ）カ……該液約二十五瓦ヲ注射筒ニ吸入シ來リテ被告人ニ交付スルヤ被告人ハ何等問査其ノ他適宜ノ檢認手段ヲ執ラス漫然之ヲクロールカルシユームナリト即斷シト擧示セリ然レトモ（イ）ノ事實認定ニ對シ現世醫業ノ一般ニ於テ醫師ハ普通藥タル「クロールカルシユーム」ノ注射ニ際シ多年ノ經驗ヲ有スル助手ニ對シ單ニ口頭ヲ以テ「クロールカルシユーム」ヲ何瓦持參スヘシト下命スルニ止マリ下命セラレタル助手ハ藥室ニ至リ藥液ヲ注射筒ニ吸入シ引返シテ醫師ニ渡スヲ慣例トス假リニ本件事犯ニ於テ被告人秀德ノ立場ニ替リ分院ニ於ケル他ノ醫師カ石森看護婦見習ニ注射ノ用意ヲ命スル場合ニ於テモ斯ル程度ノ指示監督以上ニ出テサルヘシ（本件記錄ニ顯出スル醫師ノ供述ニ徵シ證明アリト思料ス）換言スレハ被告人秀德及石森ことじノ地位ニ分院ニ於ケル他ノ醫師及看護婦見習ヲ置クモ本件事犯ハ惹起セラレタルモノナリトノ結論ニ達ス「補記」本件事犯ノ發生ハ何人モ防止シ得サリシトコロナリ其ノ理由ハ（一）本件事犯ノ三角「フラスコ」ハ唯一個ニシテ特徵アリ他ノ容器ト混同誤認ノ虞更ニ無キコト假リニ此ノ「フラスコ」ヲ流用シタル場合ハ直ニ原狀ニ回復シ置キ「クロールカルシユーム」容器トシテ慣用シ來リタルモノナルカ故ニ「レツテル」ヲ貼用スル用ナシ而モ「クロールカルシユーム」ハ普通藥ナリ（二）此ノ三角「フラスコ」ニ「ヌペルカイン」ノ忘レ在リタルコトハ昭和十年三月二十七日司法警察官ニ對シ本間美代カ自供シタルコトニ依リ發覺シタルトコロニシテ分院關係者及取調官一同ノ等シク意外トナシタルトコロナリ犯罪日時ハ同年三月二十一日ノ事ニシテ如何ニモ被告人秀德始メ分院關係者一同カ右「フラスコ」内ノ液ハ「クロールカルシユーム」ナリト信シ居リタル證左ナリ（三）即チ被告人秀德本人カ注射藥ヲ吸入シタリトスルモ[illegible]（四）本件[illegible]森、三浦兩[illegible]力ニシテ抑[illegible]紅問セサル[illegible]「不注意ニ[illegible]ス」トハ如[illegible]求シタルモ[illegible]事實認定ニ[illegible]師ハ被命助[illegible]合筒内ノ藥[illegible]外見的檢認[illegible]件事犯ニ於[illegible]

ヲ盡シタルモノナリ殊更ニ注射藥ノ個々ニ對シ味覺檢認ヲ爲スカ如キコトナシ（第一審第三回公判證人醫師瀧木庄藏ノ供述其ノ他御參照）然ラハ判文ニ示ス「被告人ハ何等問査其ノ他適宜ノ檢認ヲ爲サス」トハ如何ナル程度ノ檢認ヲ被告人秀德ニ求ムルモノナリヤ不明ニ歸ス右ハ孰レモ本件犯罪ノ構成ニ影響アル重要事項ニ對シ具體的ニ確定シタル判示ヲ爲ササルモノニシテ理由不備ノ違法アルモノナリ原判決ハ此等ノ點ニ於テモ破毀セラルヘキモノトスト云フニ在リ

【決定理由】 仍テ按スルニ原判決ハ昭和十年二月中旬ヨリ北海道阿寒郡舌辛村雄別鑛業所ニ醫務係トシテ雇ハレ同鑛業所經營ノ本抗診療所及大祥内分院ニ於テ醫業ニ從事セルモノナルトコロ右大祥内分院ハ藥局ノ設備不完全ニシテ調劑資格ヲ有スル藥劑師ノ配置ナク看護婦モ多クハ無資格者ナルニ之ニ調劑投藥ヲ爲サシメ居リ藥品ノ藏置方亂雜ニシテ劇毒藥ト普通藥トヲ混置シ而カモ其ノ容器ニ所定ノ藥品表示ノレツテルヲ貼付セス殊ニ只一個備付ノ三角フラスコニ平素クロールカルシユームノ注射液ヲ充テ使用シ居レルニ拘ラス之ニレツテルヲ貼付セサルノミナラス隨時之ヲ他藥品ノ容器ニ流用セルヲ以テ斯ノ如キ設備ノ下ニ患者施療ノ局ニ當ル醫師ハ其ノ調劑投藥等ニ際シ藥品ノ誤用ナキ樣周到ナル注意ヲ拂ヒ殊ニ見習看護婦等ヲシテ調劑投藥等ヲ爲サシムルニ當リテハ眼前ニ於テ具體的指示監督ノ下ニ之ヲ爲サシムヘク然ラサル場合ニハ施用前適宜ノ方法ニ依リ品質分量ニ誤ナキコトヲ檢認シ以テ藥品ノ誤用ニ基ク事故ノ發生ヲ未然ニ防止スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス被告人ハ昭和十年三月二十一日午前九時過頃前記分院診療室ニ於テ坑夫鎌田龜太郎（當二十三年）ノ右足蹠腫治療ノ爲消炎殺菌劑クロールカルシユーム及ホモフラビンノ混合液ヲ注射スヘク見習看護婦石森ことしヲシテ藥品ノ準備ヲ爲サシムルニ當リ不注意ニモ何等具體的ニ指示監督セス單ニ口頭ヲ以テクロールカルシユーム溶液ヲ注射筒ニ吸入シ持參スヘキ旨命シ同人カ藥局備付ノ暗箱内ヨリ嘗テ同年二月中過頃被告人ニ於テ同分院見習看護婦本間美代ニ對シ手術セル際局所麻醉ノ爲前記三角フラスコニ容レ使用シタル後美代カ其ノ儘右暗箱内ニ納メ置キタルスペルカイン溶液ヲクロールカルシユームナリト輕信シ該液約二十五瓦ヲ注射筒ニ吸入シ來リテ被告人ニ交付スルヤ被告人ハ何等問査其ノ他適宜ノ檢認手段ヲ執ラス漫然之ヲクロールカルシユームナリト即斷シ該液二十瓦ニホモフラビン溶液五瓦ヲ混入シ之ヲ右龜太郎ノ左腕正中靜脈ニ注射シタル結果同人ヲシテスペルカイン中毒ニ因リ約三十分後同診療室ニ於テ死亡スルニ至ラシメタリトノ事實ヲ認定シ刑法第二百十一條ヲ適用處斷シタリ然レトモ被告人カ醫師タル業務上當時見習看護婦石森ことしニ對シテ如何ナル指示監督ヲ爲シ若ハ如何ナル藥品檢認ノ手段ヲ執リタリトセハ藥品ノ誤用ニ基ク本件事故ノ發生ヲ未然ニ防止シ得ヘカリシヤ其ノ爲スヘカリシ注意義務ニ關スル具體的事項ハ右判示事實ニ依リテハ勿論其ノ引用證據ニ依リテモ之ヲ窺知スルヲ得ス從テ本件事故カ具體的ニ如何ナル注意義務ノ懈怠ニ因ルモノトシテ被告人ニ其ノ責ヲ歸セシムヘキモノナリヤヲ判定スルニ由ナキカ故ニ原判決ハ此ノ點ニ於テ理由不備ノ違法アルモノト謂ハサルヘカラス而シテ此ノ違法ハ事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキコト明カナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

檢事福町丈四郎關與

昭和十一年三月十六日

大審院第二刑事部、裁判長判事清水　孝蔵

判事　江崎定次郎　判事　尾佐竹　猛

判事　岸　達也　判事　山内　揆一

昭和十年(れ)第一九三三號

判　決

本籍　青森縣東津輕郡新城村大字新城字山田五百八十四番地

住居　北海道阿寒郡舌辛村雄別炭山本坑社宅

醫師　齋藤秀德

（明治四十年八月十二日生）

右業務上過失致死被告事件ニ付昭和十年十二月六日釧路地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ當院ハ昭和十一年三月十六日事實審理ヲ爲スヘキ旨決定ヲ爲シタルニヨリ更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス

被告人ハ無罪

【理由】 辯護人赤井幸夫上告趣意書第二點辯護人長谷長次上告趣意書第二點ノ各論旨理由アリ事實ノ審理ヲ爲スヘキモノナルコトハ曩ニ當院ノ爲シタル決定ニ於テ説明シタルトコロナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十四條ニ基キ被告事件ニ付更ニ當院ニ於テ審理スルニ本件公訴事實ハ被告人ハ昭和十年二月中旬ヨリ北海道阿寒郡舌辛村雄別鑛業所ニ醫務係トシテ雇ハレ同鑛業所經營ノ本坑診療所及大祥内分院ニ於テ醫業ニ從事セルモノナルトコロ右大祥内分院ハ藥局ノ設備不完全ニシテ調劑資格ヲ有スル藥劑師ノ配置ナク看護婦モ多クハ無資格者ナルニ之ニ調劑投藥ヲ爲サシメ居リ藥品ノ藏置方亂雜ニシテ劇毒藥ト普通藥トヲ混置シ而モ其ノ容器ニ所定ノ藥品表示ノレツテルヲ貼付セス殊ニ只一個備付ノ三角フラスコニ平素クロールカルシユームノ注射液ヲ充テ使用シ居レルニ拘ラス之ニレツテルヲ貼付セサルノミナラス隨時之ヲ他藥品ノ容器ニ流用セルヲ以テ斯ノ如キ設備ノ下ニ患者施療ノ局ニ當ル醫師ハ其ノ調劑投藥等ニ際シ藥品ノ誤用ナキ樣周到ナル注意ヲ拂ヒ殊ニ見習看護婦等ヲシテ調劑投藥等ヲ爲サシムルニ當リテハ眼前ニ於テ具體的指示監督ノ下ニ之ヲ爲サシムヘク然ラサル場合ニハ施用前適宜ノ方法ニ依リ品質分量ニ誤ナキコトヲ檢認シ以テ藥品ノ誤用ニ基ク事故ノ發生ヲ未然ニ防止スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス被告人ハ昭和十年三月二十一日午前九時過頃前記分院診療室ニ於テ坑夫鎌田龜太郎（當二十三年）ノ右足蹠腫治療ノ爲消炎殺菌劑クロールカルシユーム及ホモフラビンノ混合液ヲ注射スヘク見習看護婦石森ことしヲシテ藥品ノ準備ヲ爲サシムルニ當リ不注意ニモ何等具體的ニ指示監督セス單ニ口頭ヲ以テクロールカルシユーム溶液ヲ注射筒ニ吸入シ持參スヘキ旨命シ同人カ藥局備付ノ暗箱内ヨリ嘗テ同年二月中過頃被告人ニ於テ同分院見習看護婦本間美代ニ對シ手術セル際局所麻醉ノ爲前記三角フラスコニ容レ使用シタル後美代カ其ノ儘右暗箱内ニ納メ置キタルスペルカイン溶液ヲクロールカルシユームナリト輕信シ該液約二十五瓦ヲ注射筒ニ吸入シ來リテ被告人ニ交付スルヤ被告人ハ何等問査其ノ他適宜ノ檢認手段ヲ執ラス漫然之ヲクロールカルシユームナリト即斷シ該液二十瓦ニホモフラビン溶液五瓦ヲ混入シ之ヲ右龜太郎ノ左腕正中靜脈ニ注射シタル結果同人ヲシテスペルカイン中毒ニ因リ約三十分後同診療室ニ於テ死亡スルニ至ラシメタリト云フニ在レトモ本件事故カ被告人ノ醫師タル業務上ノ注意義務懈怠ニ因ルモノナルコトヲ認ムヘキ證明ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

仍テ同法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彥三郎關與

昭和十一年十一月九日

大審院第二刑事部、裁判長判事尾佐竹　猛

判事　岸　達也　判事　山内　揆一

判事　田中　[illegible]　判事　佐伯　顯二

●恐喝ト重大事實誤認ノ疑

昭和十年(れ)第一八六〇號

決　定

本籍並住居　千葉縣印旛郡志津村井野百九十二番地

農　石川豐吉

（明治二十四年八月二十五日生）

右恐喝恐喝未遂及脅迫被告事件ニ付昭和十年十一月二十八日千葉地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ適法ナル上告申立ヲ爲シタリ因テ檢事武松久吉ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人田中丑藏上告趣意書第一點原審判決ハ其ノ判示理由トシテ被告人ハ昭和二年五、六月頃當時居村印旛郡志津村井野飲食店さくら屋ノ女中タリシ長谷川よし（當四十二歳）ト情交ヲ結ヒ爾來其ノ情交關係ヲ繼續シ居タル處豫テ遠緣ニ當ル同郡臼井町臼井五十三番地農並新聞賣捌業飯田周吉（當五十九年）カ被告人ト右よしトノ情交關係アルコトヲ知悉シナカラ昭和四年頃以來被告人ノ目ヲ忍ヒ秘ニ同女ト慇懃ヲ通シ居ル旨傳聞セルヨリ痛ク憤慨シ之ヲ窺覗スル餘リ第一、二、（中略）第三猶之ニ懲ラス同月二十日前記よし宅ニ招致シ所謂美人局ノ方法ヲ用ヒテ同人ヨリ金員ヲ喝取セムコトヲ企テ同月二十二日午前十時頃よしノ招電ニ依リ右飯田周吉カよし宅ニ來着スルヤ同家ノ二階三疊ノ間ノ脇ノ押入ニ潛伏シ兩名カ其ノ隣室ナル六疊間ニ入リ情交ヲ始メタル頃ヲ見計ヒテ押入内ヨリ右三疊間ヲ經テ關係中ノ兩名ノ前ニ躍リ出テ右手拳ヲ振ツテ周吉ノ頭部ヲ毆打シ人ヲ馬鹿ニスルナ巫山戲タ野郎タ承知セヌト申向ケ更ニ階下六疊間ニテ同人ニ對シ五百圓位出シタラ宜カラウ金ヲ出サナケレハ表沙汰ニスルソト申向ケテ同人ヲ脅迫シ同人ヲシテ若シ被告人ノ右要求ニ應セサルニ於テハ或ハ其ノ名譽ニ係ル如キ事態ノ惹起セラルルヤモ測リ知ラレストノ危惧ノ念ヲ抱カシメ因テ同人ヨリ同月二十五日右よし宅ニ於テ金五十圓ノ交付ヲ受ケ更ニ同月二十八日小爲替ニテ金五十圓ノ送付ヲ受ケ合計金百圓ヲ喝取シト事實ノ認定ヲ爲シ第五進ンテ更ニ同年四月頃右周吉ヨリ金員ヲ喝取セムコトヲ企テ同月十五日損害請求訴訟ト題シ女（長谷川よしノ意）トノ關係ニ付金千三百五十圓ノ損害ヲ請求ス姦通罪ニテ告訴スルカ名譽毀損ニテ遣ルカ周吉ノ人面獸心ノ鐵面皮ハ言語道斷ニテ殺シテモ餘リアルテフ趣旨ヲ記載セル書面一通（同六號證ノ六號）ヲ周吉ノ義兄印旛郡臼井町長飯田岩吉宅ニ差置キ同人ノ手ヲ經テ之ヲ周吉ニ交付セシメ以テ周吉ヲ脅迫シ周吉ヲシテ若シ被告人ノ右要求ニ應セサルニ於テハ姦通罪ノ告訴又ハ名譽毀損ノ損害賠償請求訴訟ヲ提起セラルルニ非スヤトノ危惧ノ念ヲ抱カシメ因テ同人ヨリ幾何ノ金員ヲ喝取セントシタルモ同人カ之ニ應セサリシ爲其ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリ」云々ト事實ヲ認定シタリ然レトモ假ニ前示認定ノ如キ第三第五ノ犯罪事實アリトスルモ被告人豐吉ト被害者タル告訴人飯田周吉トハ六等親ノ法律上親族關係アリ即チ今其ノ續柄ヲ示セハ左ノ如シ（上申書記錄第三一〇丁參照）初代石川長右衞門長男石川要藏ノ三男石川米藏――子石川豐吉（本件被告人）初代石川長右衞門次男森谷與助四男森谷文吉――子飯田周吉（本件告訴人）右ノ如ク被告人豐吉ト告訴人周吉トハ六等親ノ法律上親族關係アリ（原判決ノ冒頭ニ於テ被告人豐吉ト周吉トハ遠緣ニ當ルト明示シテ親族關係ヲ認ム）此ノ點ニ於テ森谷榮太郎ノ證言アルモ同人ノ供述ハ根據ナキ出鱈目ニテ素ヨリ措信スルニ足ラス却テ證人石川いくノ證言（記錄三四二丁）ニ依ルモ要藏ノ兄弟ニ書兵衞トカこうナル女ノ居ラサルコトハ明白ニ立證セラル故ニ周吉モ此ノ親族關係ニ基キ被告人豐吉ハ現在ニ於テハ改悟ノ狀顯著ナルヲ認メ周吉モ今ハ之ヲ宥恕シ本件ニ付爲シタル告訴ニ對シテハ昭和十年十月下旬ニ告訴取下ヲ爲シ同月二十九日正式ニ其ノ取下ハ受理セラレ居リ（記錄三〇八丁）又圓滿ニ示談解決セラレ親族間モ融和セルコトハ告訴人周吉ニ豐吉ノ親族高橋善太郎ヨリ百二十圓ヲ返還セル事實（記錄三〇九丁）ニ徵スルモ明白ニ之ヲ窺知セラル尙又前示六等親族關係アルコトハ戶籍謄本（記錄三一一丁ヨリ三一四丁）及昭和十年十一月二十日千葉縣印旛郡志津村長ノ親族ニ關スル證明書（記錄三一一丁）等ニ見ルモ寔ニ明白ナリ而シテ恐喝同未遂罪ニハ刑法第二百五十一條同法第二百四十四條ノ規定アリ同條第一項後段ニ依リ告訴ヲ待テ受理セラルヘキ犯罪ナルヲ以テ之ニ對シ告訴人ヨリ適法ナル告訴ノ取下アリタル場合ハ刑事訴訟法第三百六十四條第五號ニ依リ公訴棄却ノ判決ヲ爲スヘキモノナルニ不拘原判決ハ事玆ニ出テス却テ恐喝同未遂罪ノ成立ヲ認メ之ヲ同罪ニ問擬シ刑法第二百四十九條二百五十條ヲ適用シテ本件被告ヲ所罰シタルハ法ノ適用ヲ誤リ不法ニ公訴ヲ受理シタルモノニテ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀セラルヘキモノト信スト謂ヒ辯護人伊藤博文上告趣意書第一點原判決ハ被告人カ（一）昭和九

年十一月中間長谷川よしヲ脅迫シ（二）同年十二月十一日附書面ヲ以テ同人ヲ脅迫シ（三）同年同月二十二日飯田周吉ヲ脅迫シテ同月二十五日並ニ二十八日ノ二回ニ渉リ同人ヨリ金員ヲ喝取シ（四）昭和十年一月二十一日附書面ヲ以テ右周吉ヲ脅迫シ（五）同年四月十五日附書面ヲ以テ右周吉ヲ脅迫シ以テ金員ヲ喝取セントシタルモ遂ケサリシモノナリト爲シ「恐喝既遂ノ所爲ト同未遂ノ所爲トハ連續犯ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條第十條ニ則リ重キ恐喝既遂ノ一罪トシテ處斷スヘク脅迫罪ニ付テハ有期懲役刑ヲ撰擇スヘキ處以上二罪ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ニ係ルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ重キ恐喝罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍內ニ於テ」被告人ヲ懲役八月ニ處シタリ然レトモ右ノ內恐喝ノ罪ハ刑法第二百五十一條第二百四十四條ニ依リ直系血族配偶者及同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ爲サレタル時ハ其ノ刑ヲ免除シ其ノ他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論スヘキモノナル處被告人ト被害者飯田周吉トハ民法第七百二十五條ニ所謂六親等內ノ血族ナルヲ以テ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論スル場合ニ該當スルモノナリ即チ石川米藏ノ除籍簿抄本（記錄三百十一丁）石川長右衛門ノ戸籍謄本（記錄三百十二丁）森谷善五郎ノ戸籍簿謄本（記錄三百十二丁）並原審ノ證人石川いくノ證言（記錄三百四十二丁乃至三百四十五丁）ヲ綜合考覈スレハ被告人ノ實父ハ米造米造ノ實父ハ要藏、要藏ノ實弟與助カ森谷家ノ養子トナリ右與助ノ三男文吉而シテ本件被害者周吉ハ右文吉ノ實子ナルヲ以テ被告人ト右周吉トハ六親等ノ血族ニ該ルモノナリ然ルヲ以テ本件ノ公判請求モ右周吉ノ告訴狀提出ノ後ニ爲サレタルモノナルカ右周吉ハ昭和十年十月二十九日之カ告訴ヲ取下ケタリ（記錄第三百八丁）（右告訴取下書ハ作成ノ年月日ヲ單ニ昭和十年十月　日ト爲シタレトモ右取下書ニ押捺セラレタル原審裁判所ノ書類受付スタンプニ依レハ同月二十九日ニ提出セラレタル事明ナリ）然ラハ前記（三）並（五）ノ事實ニ對シテハ刑事訴訟法第三百六十四條第五號ニ依リ公訴棄却ノ判決ヲ爲スヘキ場合ナリシニ拘ラス原判決カ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ法令違反ノ不當ヲ敢テシタルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノナリト謂フニアリ

【決定理由】　仍テ按スルニ直系血族配偶者及同居ノ親族ニ非サル親族間ニ於テ恐喝及其ノ未遂罪ヲ犯シタルトキハ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論スルコトハ刑法第二百四十九條第二百五十一條第二百四十四條ニ規定スルトコロニシテ本件公訴事實中恐喝及恐喝未遂罪ニ付テハ其ノ被害者タル飯田周吉ヨリ昭和十年七月三十日告訴ノ提起アリタルモ其ノ後原審ノ判決前ナル昭和十年十月二十九日該告訴ノ取下アリタルコトハ記錄ニ徴シ明ナリ而シテ被告人ト飯田周吉トノ親族關係其ノ他原判決ノ事實認定ニハ重大ナル過誤アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存スルモノト認ムルヲ以テ本院ハ自ラ事實審理ヲ開始スヘキモノトス仍テ刑事訴訟法第四百三十四條第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十一年四月二十二日
大審院第三刑事部、裁判長判事霜山精一
判事　日髙要次郎　判事　草野豹一郎
判事　瀧波良藏　判事　久禮田益喜

昭和十年（れ）第一八六〇號

判決

本籍並住居　千葉縣印旛郡志津村井野百九十三番地
農　石川豊吉
（明治二十四年八月二十五日生）

右脅迫恐喝同未遂被告事件ニ付昭和十年十一月二十八日千葉地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シ本院ハ昭和十一年四月二十二日事實ノ審理ヲ爲スヘキ決定ヲ爲シタリ因テ更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

【主文】　原判決ヲ破毀ス
被告人ヲ懲役六月ニ處ス
但シ原審ニ於ケル未決勾留日數六十日ヲ右本刑ニ算入ス
訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

【理由】　辯護人田中丑藏上告趣意書第一點及辯護人伊藤博文上告趣意書第一點ノ各論旨執レモ理由アルコトハ曩ニ本院カ爲シタル事實審理開始ノ決定ニ於テ說明スル所ノ如シ仍テ更ニ本件事實ヲ審案スルニ被告人ハ大正十四五年頃當時居村飲食店さくら屋ノ女中タリシ長谷川よし（當四十三年）ト情交ヲ結ヒ爾來其ノ關係ヲ繼續シ居リタル處豫テ遠緣ニ當ル千葉縣印旛郡臼井町臼井五十三番地鮮並新聞賣捌業飯田周吉（當六十年）カ被告人ト右よしトノ情交關係アルコトヲ知悉シ乍ラ昭和四年頃以來被告人ノ目ヲ忍ヒ秘ニ同女ト慇懃ヲ通シ居ル旨傳聞セルヨリ痛ク憤慨シ之ヲ嫉視スル餘リ第一、昭和九年十一月中旬前記さくら屋ニ於テ右よしト會見ノ際同女ヲシテ前記飯田周吉トノ情交關係ヲ斷タシメン爲同女ニ對シ飯田ト情交ヲ續クルニ於テハ今後生カシ置カサルヘキ旨申向ケ以テ同女ノ生命ニ對シ危害ヲ加フヘキコトヲ通告シテ同女ヲ脅迫シ第二、其ノ效ナク依然兩名カ情交ヲ繼續シ居ルモノノ如クナリシヨリ再ヒ前同樣ノ目的ニ出テ同年十二月十一日附ヲ以テ飯田ト情交ヲ續クルニ於テハ二人共生カシ置カサルヘキモ若シ謝罪セムトセハ飯田ヲ汝宅ニ呼付ケ置クヘシサスレハ自分ハ現場ヲ取押ヘ金二百圓程出捐セハ赦シ遣ルヘキニヨリ直ニ返事スヘシ若シ返事ナキ時ハ二人共生カシ置カサルヘキ旨ノ書翰一通（昭和十一年當院檢事局領第三十三號內第七號）ヲ當時千葉市寒川片町三百十八番地ニ居住セル長谷川よし宛ニ郵便ニ付シテ到達セシメ以テ同女ノ生命ニ對シ危害ヲ加フヘキコトヲ通告シテ同女ヲ脅迫シ第三、猶之ニ懲ラス同月二十日前記よし宅ニ赴キタル際右よしト共謀ノ上前記飯田周吉ヲ右よし宅ニ招致シ所謂美人局ノ方法ヲ用ヒテ同人ヨリ金員ヲ喝取セムコトヲ企テ同月二十二日午前十時頃よしノ招電ニヨリ右飯田周吉カよし宅ニ來着スルヤ同家ノ二階三疊間ノ脇ノ押入ニ潛伏シ兩名カ其ノ隣室ナル六疊間ニ入リ情交ヲ始メタル頃ヲ見計ヒテ押入內ヨリ右三疊間ヲ經テ關係中ノ兩名ノ前ニ躍リ出テ右手拳ヲ振ツテ周吉ノ頭部ヲ毆行シ人ヲ馬鹿ニスルナ巫山戲タ野郎タ承知セヌト申向ケ更ニ階下六疊間ニテ同人ニ對シ五百圓位出シタラ宜カロウ金ヲ出サナケレハ表沙汰ニスルソト申向ケテ同人ヲ脅迫シ同人ヲシテ若シ被告人ノ右要求ニ應セサルニ於テハ或ハ其ノ名譽ニ係ル如キ事態ノ惹起セラルルヤモ測リ知ラレストノ危惧ノ念ヲ抱カシメ因テ同月二十五日右よし宅ニ於テ金五十圓ノ交付ヲ受ケ更ニ同月二十八日小爲替ニテ金五十圓ノ送附ヲ受ケ合計金百圓ヲ喝取シ第四、更ニ猶周吉ヲシテよしトノ情交關係ヲ斷タシム爲昭和十年一月二十一日附ヲ以テ以後〇性（長谷川よしノ意）ト對談及同女宅ニ出入ノ際ハ何人ノ言ヲ問ハス最後ノ手段ヲ執ルヘキ旨ノ書翰一通（同號證ノ一三號）ヲ前記飯田周吉宛ニ郵便ニ付シテ到達セシメ以テ同人ノ名譽ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ通告シテ同人ヲ脅迫シ第五、進ンテ更ニ同年四月頃右周吉ヨリ金員ヲ喝取セムコトヲ企テ同月十五日損害請求訴訟ト題シ女（長谷川よしノ意）トノ關係ニ付金千三百五十圓ノ損害ヲ請求ス姦通罪ニテ告訴スルカ名譽毀損ニテ遣ルカ周吉ノ人面獸心ノ鐵面皮ハ言語道斷ニテ殺シテモ餘リアルテフ趣旨ヲ記載セル書面一通（第號證ノ六號）ヲ周吉ノ義兄印旛郡臼井町長飯田岩吉宛ニ差置キ同人ノ手ヲ經テ之ヲ周吉ニ交付セシメ以テ周吉ヲ脅迫シ周吉ヲシテ若シ被告人ノ右要求ニ應セサルニ於テハ姦通罪ノ告訴又ハ名譽毀損ノ損害賠償請求訴訟ヲ提起セラルルニ非スヤトノ危惧ノ念ヲ抱カシメ因テ同人ヨリ幾何ノ金員ヲ喝取セムトシタルモ同人カ之ニ應セサリシ爲其ノ目的ヲ遂ケサリシモノニシテ右第一第二第四ノ各所爲並第三第五ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ（證據略）各辯護人ハ被告人豊吉ト飯田周吉トハ六親等ノ血族ニシテ本件恐喝及同未遂罪ノ公訴事實ハ其ノ被害者ナル飯田周吉ノ告訴取下アリタルニ因リ同公訴事實ニ就テハ公訴棄却ノ判決アリ度旨主張スルヲ以テ此ノ點ニ關シ調査ヲ遂クルモ右親族關係ノ存在ヲ認メ難ク辯護人ノ主張ハ之ヲ採容スルニ由ナシ法律ニ照スニ被告人ノ所爲中脅迫ノ點ハ刑法第二百二十二條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定有期懲役刑ヲ選擇スヘク恐喝既遂ノ點ハ同法第二百四十九條第一項ニ同未遂ノ點ハ同法第二百五十條第二百四十九條第一項ニ各該當シ連續犯ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ則リ重キ恐喝既遂ノ一罪トシテ處斷スヘク以上ハ二罪併發ニ係ルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ重キ恐喝罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍內ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處シ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中六十日ヲ本刑ニ算入シ訴訟費用ニ付刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス仍テ刑事訴訟法第四百四十四條第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事武松久吉關與

昭和十一年十一月十一日
大審院第三刑事部、裁判長判事草野豹一郎
判事　日下部義夫　判事　瀧波良藏
判事　吉田常次郎　判事　久禮田益喜

●候補者ノ利害誘導演說ト犯罪ノ無證明

昭和十一年（れ）第六三五號

決定

本籍　和歌山縣海草郡楠見村大字平井百六十一番地
住居　和歌山市湊通リ町南三丁目五番地
溫泉營業　中村文一
（明治二十七年八月十九日生）

右縣會議員選擧罰則違反被告事件ニ付昭和十一年二月二十二日和歌山地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事黑川涉ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】　本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】　辯護人志波淸太郎上告趣意書第一點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノトス凡ソ思想ヲ發表スルニ當リテハ或特定人ヨリ他ノ或特定人ニ對シテ爲サルルコトアリ又或特定人ヨリ不定多衆人ニ對シテ爲サルルコトアリ而シテ其ノ方法ニ在リテモ口頭ニ依ル演述アリ文章ニ依ル論述アルカ故ニ其ノ發表セラレタル思想ヲ爾後ニ於テ評價スルニ當リテハ其ノ發表當時ノ情況ニ鑑ミテ具體的ニ觀察スルコトヲ要スルヤ論ヲ俟タス而シテ多衆ニ對スル口頭ニヨル演述ニ在リテハ文章ニ依ル論述ト異リテ專ラ多衆人ノ聽覺ニヨリテ其ノ思想ヲ傳達了解セシムルモノナレハ聽衆ノ興味及關心ヲ惹クカ爲ニハ其ノ發言スル言語ハ時ニ甚シキ誇張アリ時ニ反覆敷衍ノ甚シキアルノ已ムヲ得サル場合アリ而モ其ノ當時ニ於ケル會衆心理其ノ他ノ具體的事情ヨリ綜合スルトキハ其ノ甚シク誇張シタル部分ハ實ハ僅少微弱ノ意味ヲ有シタルニ過キサルコトアルヘク其ノ反覆甚シカリシ部分モ實ハ聽衆ノ理解至ラサリシカ爲ニ單ニ其ノ理解ノ統一ヲ計リタルニ止マルコトアルヲ寧ロ常態トスルヲ以テ苟モ其ノ演說內容カ聽衆ニ對シテ如何ナル意味ヲ與フルカハ後日ノ冷靜ナル判斷ヲ以テ其ノ內容ヲ文章化シ以テ其ノ批判ノ對象ト爲スカ如キ際ニ於テ往々ニシテ肯綮ヲ失シタル結論ニ達スルノ虞アリ故ニ事案ニ對スル原審認定ノ如ク被告人ノ演說內容中ヨリ特殊ノ一少部分ヲ抽象シテ以テ精緻ナル法理的論證ノ對象ト爲スカ如キハ所謂正鵠ヲ缺ク方法ニシテ正當ナル言論評價ノ方法ニ非ス破毀ヲ免レサル審理不盡ノ妄斷ナリトス況ヤ被告人カ縣會議員選擧運動ノ爲ナシタル演說囘數ハ二十五囘ニシテ而モ其ノ場所ハ何レモ和歌山市內又ハ其ノ近傍ノ聽衆ニ對シ爲サレタルヨリ觀察スルトキハ俗稱內川改修問題ノ如キ全和歌山市民ニ利害關係アル事項ナリトセハ若シ被告人ニ於テ之ヲ以テ地方民ノ利益誘導ニ資セムトスルカ如キ計畫アリシナラハ豈特ニ最モ其ノ關係深キ廣瀨大新新北等ノ學區民ヲ聽衆トセル會場ニ於テハ殊更ニ之ヲ囘避シ僅々三箇所ニ於テ之ヲ試ムルカ如キ愚ヲ敢テ選ハンヤ演述者ノ心理ハ聽衆ノ心理ニ融合シ群衆ノ心理ハ演述者ノ心理ヲ支配スル雰圍氣ハ此ノ種演說會場ニ於テハ特ニ蓋フヘカラサルノ嚴然タル事實ナリ熱辯ハ往々ニシテ演述者ヲシテ無我ノ境地ニ出入セシメ沒我ノ心境ニ彷徨セシム辯論熱シテ此ノ境地ニ陷ルヤ其ノ行動ヲ以テ冷靜ナル常態者ノ意思的擧動ヲ以テ許スヘカラス被告人ハ內川改修問題ニ付テハ常ニ熱誠ナル意思ヲ包藏シ民政黨カ曩ノ選擧ニ當リテ其ノ公

認ヲ拒否シタルヨリ勃然以テ之ニ報ヒムトノ熱意加ハリ居レルコトハ一件記錄ニ徴シテ明白ナリ而モ之都市政策ニシテ之ヲ發表スルハ政見演説ニ外ナラス被告人ハ一度其ノ政策發表カ司法當局ノ處罰ニ觸レタルニヨリ極力其ノ再犯アルヘキヲ恐レテ愼重ヲ持シツツアリタルモノナルコトハ原審認定ニ徴シテ推知シ得ル所ナリ被告人カ其ノ違反ト爲ルヘキコトヲ豫知シツツ尙且其ノ都市政策ノ片鱗ニ觸ルル能ハサリシ心理ヲ以テ利益誘導ノ故意アリタルモノト認定シテ果シテ誤ナキカ都市政策ト其ノ實行熱意トノ表明ヲ抽象シテ濫リニ投票依頼ノ範疇ニ當嵌メタルモノ果シテ具體的ニ妥當シタル認定ナリト爲スヘキカト云ヒ

同第四點假ニ被告人カ原判決摘示ノ如キ演説ヲ爲シタリトスルモ右演説カ衆議院議員選擧法第百十二條第一項第二ノ所謂當選ヲ得又ハ得セシメサル目的アリトノ證據ナシ加之右演説內容カ右法條ノ又ハ其ノ他ノ特殊直接利害關係ヲ利用シテ誘導シタル（市町村ノ用水利用ニ非サルコト勿論ナリ）ト謂フモ和歌山市ニ於テ內川改修ハ和歌山縣是ニシテ一般普通ノ政策ニシテ被告人ノ選擧區ニ於テ特種直接性ヲ有セス御院ハ先ニ大正十三年(れ)第一八五三號衆議院議員選擧法違反被告事件判決ノ其ノ理由ニ於テ「上略畢竟法律ヲ以テ定メタル帝國鐵道政策ノ一端ヲ速ニ實現セシメントスルニ外ナラサレハ被告人投票ヲ得ル目的ヲ以テ立候補宣言中ニ該事項ヲ加ヘ選擧人ニ對シ投票ヲ勸誘スルモ其ノ行爲ハ（略）罪ヲ構成スヘキモノニ非ス」ト判示セラレ（判例集第四卷第一號七三頁）居リテ本件被告人ノ所爲モ或意味ニ於テ同一內容ヲ有ス即チ被告人ノ所爲ハ罪トナラサルモノナルニ之ニ對シ有罪ノ判決ヲ言渡シタル原判決ハ重大ナル事實誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由竝法ノ適用ヲ誤リタル違法アリ破毀サルヘキモノト思料スト云ヒ

辯護人川口弘上告趣意書第二點原審判決ハ左ノ點ニ付テ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノナリト信ス原審判決ハ被告人カ內川改修ニ努力スル旨ヲ演説シタルハ利害關係ノ誘導ニ該ルモノト事實ヲ認定シ後段ニ於テ內川ノ改修ハ既ニ昭和八年度ヨリ縣ニ於テ豫算ヲ計上シ現ニ繼續事業トシテ工事中ノモノナルコトヲ認メ乍ラ左ノ理由ヲ附シテ被告人ヲ有罪ナリト斷定シタリ「縣會議員トシテ將來ニ於テ本件工事ノ進行ニ關シテ其ノ既定計畫ヲ變更シテ竣工年限ヲ短縮センコトヲ努メ若ハ和歌山縣ニ於テ他ノ事業ノ爲當該官吏カ專念右工事ニ從事スルコト能ハサルカ如キ場合ニ其ノ進捗ヲ圖リ或ハ事情變更ニヨリ右既定計畫ヲ覆シテ根本的ニ其ノ工事ヲ廢止セントスルカ如キ場合アリトセンカ之カ防止ヲ努力スルカ如キ其ノ他直接又ハ間接ニ該工事ノ進行ニ盡力スヘキ餘地ノ存在スヘキハ之ヲ推知スルニ難カラス然リ而シテ豫算ニ付國庫ノ補助ヲ受クル既定計畫ト雖絶對ニ之ヲ變更廢止スルコトヲ得サル旨ノ法規存スルコトナケレハ單ニ事實上困難ナリトノ事由ノミヲ以テシテハ叙上ノ論結ヲ左右スルニ足ラサルヘク被告人カ所謂「改修ニ努力スヘシ」トハ既ニ實施セラレツツアル改修工事ノ進行ニ盡力スヘキ趣旨ヲモ包含スルモノト解スヘキコト勿論ナリト謂フニ在リ然レトモ被告人ニ對スル原審判決中ノ犯罪事實ノ第一ハ「濁ツタ水ノ河ヲ改修シタイト思フ」トノ演説又第二ハ「今迄ノ縣會議員ハ遣ラナイテ放ツテ置イタ此ノ中村文一カ當選ノ上ハ之ヲ必ス遣ル」云々ノ演説ニ過キス即チ被告人ノ演説スル趣旨ハ唯「改修ヲ仕度イ」ト謂フニ過キス原審裁判所カ想像シテ判文中ニ例示シタルカ如キ（イ）竣工年限ノ短縮（ロ）縣カ工事ヲ放任スル場合ノ進捗方法（ハ）工事廢止ノ場合ノ防止手段（ニ）其ノ他直接間接ノ進行方法ニ付テハ毫末モ其ノ意見ヲ演説シタル事實ナキコトハ原審判決ニ揭ケタル各證據ニ依ルモ明瞭ナリ原審裁判所カ被告人ノ「濁ツタ水ノ河ヲ改修シタイト思フ」「當選ノ上ハ之ヲ必ス遣ル」トノ單純ナル言句ノ中ニ右（イ）（ロ）（ハ）（ニ）ノ場合ヲモ包含セリトスルハ吾人ノ實驗則ニ反スル不當ニ解釋ヲ擴充セル想像ヲ混ヘタル認定ナリト信ス若シ「濁ツタ水ノ河ヲ改修シタイト思フ」トノ言句中ニ又「當選ノ上ハ之ヲ必ス遣ル」トノ言句中ニ斯ク迄廣汎ナル意味ヲ包含スルモノトスルニハ之カ證據ヲ擧示スルノ必要アリ其ノ證據ナクシテ徒ラニ想像ニ委セテ言句ノ意味ヲ擴充スルハ不當ノ甚シキモノナリ凡ソ演説カ利害關係ノ誘導ニ該當スルヤ否ヤヲ定ムルニハ主觀的ニハ演説者ノ意思ヲ探求スルハ勿論ナルモ要ハ客觀的ニ演説ノ聽衆ノ立場ニ身ヲ置イテ聽者カ普通人トシテ其ノ演説ヲ如何ニ了解シタルヤ否ヤヲ考究シ之ニ依テ利害關係ノ誘導ニ該當スルヤ否ヤヲ判斷スヘキモノト信ス之ヲ本件ニ付テ考フルニ被告人カ「濁ツタ水ノ河ヲ改修シタイト思フ」トカ「當選ノ上ハ之ヲ必ス遣ル」トカノ言句ヲ演壇ヨリ放チタル場合ニ一般聽衆ハ（イ）竣工年限ノ短縮（ロ）縣カ工事ヲ放任シタル場合ノ進捗方法（ハ）工事廢止場合ノ防止手段（ニ）其ノ他直接間接ノ進行方法等ノ如キ現在何人モ豫想セス又事實上現實ニ顯ハレ居ラサル諸般ノ場合ヲ想定シテ迄之ヲ解釋スルカ普通人ノ常識ナリヤ又被告人ノ演説シタル言句丈ケニ解スルカ普通人ノ常識ナリヤ辯護人ハ一般聽衆トシテハ被告人ノ演説シタル言句ニ解スルカ普通ナリト思料ス原審裁判所ハ徒ラニ諸般ノ場合ヲ假想シ現實ニ縣民ノ何人モカ想像シ居ラサル場合ヲ夢想シ和歌山縣ニ於ケル現實ノ事實ニ即セスシテ事案ヲ曲解セルモノナリ即チ原審判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノトスト云ヒ

辯護人赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ本件第一乃至第三事實ノ演説ヲ以テ上告人カ和歌山市內ニ於ケル選擧人ニ對シ特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導シタルモノナリト爲シ衆議院議員選擧法第百十二條第一項第二號等ヲ適用シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタリ然レトモ右演説中ノ所謂俗稱內川ノ改修事業ハ原判決理由ニモ明ナルカ如ク十數年來ノ懸案ナリシカ昭和八年度頃ヨリ和歌山縣ノ豫算ニ計上セラレ和歌山市ノ寄附金及國庫ノ補助ヲ受ケ既ニ縣營工事トシテ實施中ニシテ昭和十年度ヨリハ三ケ年ノ繼續事業トシテ豫算

ノ可決ヲ見タルモノナルコト明ナリ斯ノ如ク和歌山縣ニ於テ其ノ必要ヲ認メ縣ノ費用ヲ以テ現ニ其ノ工事ヲ爲シツツアルハ明ニ右ハ單リ和歌山市ノ利害ニ關スル問題ニアラスシテ和歌山ヲ中心トスル和歌山縣ノ問題タルコトヲ説明スルモノナリ斯ク右問題カ縣ニ關スルモノナル以上一面和歌山市民ノ利害ニ關スル處アリト雖之ヲ以テ衆議院議員選擧法第百十二條第一項第二號ニ所謂特殊直接ノ利害關係ヲ利用シテ選擧人ヲ誘導シタルモノトハ謂フヘカラサルモノナリト信ス縣會議員ハ縣ノ議員ニシテ其ノ選擧區ノ議員ニアラサルコト論ナシト雖法令ニ於テ選擧區ヲ定メ各選擧區ニ於テ一定數ノ議員ヲ選擧スヘキコトヲ定メタル所以ノモノハ各選擧區ヨリ其ノ代表者ヲ選出セシメテ以テ縣政ニ參與セシムル趣旨ヲ含ムモノナリ既ニ或選擧區ヨリ選出セラレタル議員ハ其ノ選擧區民代表ノ性質ヲ有スルモノナランカ其ノ區民ノ代表タラントスル者カ其ノ縣政ニ屬スルモノナル以上其ノ代表スヘキ區ノ利害ニ關スル問題ヲ等閑ニ付スヘキニアラサルヤ勿論ニシテ從ツテ之ニ付其ノ意見ヲ發表スルハ寧ロ當然ニシテ選擧法ト雖敢テ之ヲ禁止スヘキ理由ナキモノナリトス然ルニ原判決カ右上告人ノ判示演説ヲ以テ前示法條ニ該當スル行爲ナリト斷シ以テ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ事實ヲ誤認シ延テ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信ス（別紙御院判決參照）ト云フニ在リ

【決定理由】仍テ按スルニ被告人ハ昭和十年十月五日施行セラレタル和歌山縣會議員選擧ニ際シ和歌山市ヨリ立候補シタル議員候補者ナル所同年九月二十七日及同月二十八日ノ夜同市始成尋常小學校中之島尋常小學校及宮北尋常小學校ニ於ケル政見發表演説會ニ於テ多數選擧人ヲ混ヘタル約二百名ノ聽衆ニ對シ夫々判示ノ如キ演説ヲ爲シ以テ孰レモ當選ノ上ハ和歌山市內ヲ貫流スル俗稱內川ノ改修ニ努力スヘキ旨ヲ以テ同市內ニ於ケル選擧人ニ對シ特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導シタルモノナリトノ原判決ノ事實認定ニハ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認ムルヲ以テ本院ハ自ラ事實審理ヲ開始スヘキモノトシ刑事訴訟法第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十一年六月十二日

大審院第四刑事部、裁判長判事宇野要三郎

判事 沼 義雄　判事 駒田重義

判事 日下 巖　判事 吉田常次郎

昭和十一年(れ)第六三五號

判決

本籍 和歌山縣海草郡補見村大字平井百六十一番地

住居 和歌山市湊通リ三丁目五番地

溫泉營業 中村文一

（明治二十七年八月十九日生）

右縣會議員選擧罰則違反被告事件ニ付昭和十一年二月二十二日和歌山地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シ當院ハ同年六月十二日事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ノ決定ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】原判決ヲ破毀ス

被告人ヲ無罪トス

【理由】辯護人志波淸太郎上告趣意書第一點第四點辯護人川口弘上告趣意書第二點辯護人赤井幸夫上告趣意書第一點ノ論旨理由アルコトハ前揭當院ノ決定ニ於テ説明スル如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ基キ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ審按スルニ本件公訴事實ハ被告人中村文一ハ昭和十年十月五日施行ノ和歌山縣會議員選擧ニ當リ和歌山市ヨリ立候補シタル同議員候補者ナル所自己ニ當選ヲ得ル目的ヲ以テイ、同年九月二十七日午後九時頃和歌山市本町四丁目始成尋常小學校ニ於ケル自己ノ政見發表演説會ニ於テ聽衆選擧人澳津勝外約二百五十名ニ對シロ、同月二十八日午後八時頃同市中之島尋常小學校ニ於ケル前同樣演説會ニ於テ聽衆選擧人岩崎竹之助外約二百五十名ニ對シハ、同月二十八日午後十時半頃同市宮比尋常小學校ニ於ケル前同樣演説會ニ於テ聽衆選擧人中村常男外約二百四十名ニ對シ孰レモ和歌山ニハ淸キ流レノ紀ノ川アリ南ニハ有田川日高川熊野川カアリ又或所ニハ市中ノ眞中ニ腐ツテ仕樣ノナイ水カ溜ツテ流レナイ川カアル自分ハ前回ノ縣會議員選擧ノ際立候補シタカ民政黨公認候補トシテ吳レナカツタ爲民政黨ノ者カラ壓迫ヲ受ケ內川ノ改修問題ヲ話シタコトテ選擧違反ニ問ハレ罰金ノ處分ヲ受ケタノテアルカ選擧權ヲ停止セラレナカツタ爲今回立候補シタノテアル諸君此ノ濁ツタ水ノ流レノ川ヲ改修シナケレハナラナイ其ノ場所ニ就テハ諸君ノ判斷ニオ委セスル自分ハ縣會議員ニ爲ツテモ爲ラナイテモ此ノ川ハ是非改修スヘク努力スルト云フ氣持ヲ承知シテ貰ヒタイ旨ノ演説ヲ爲シ依テ當選ノ上和歌山市內ヲ貫流スル俗稱內川ノ改修ニ努力スル旨ヲ表明シ以テ特殊直接利害關係ヲ利用シテ誘導シタルモノニシテ右ハ意思繼續ニ係ルモノトスト云フニ在レトモ之ヲ認ムヘキ證明ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第四百七條第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

依テ主文ノ如ク判決ス

檢事黑川渉關與

昭和十一年十一月十三日

大審院第四刑事部、裁判長判事宇野要三郎

判事 沼 義雄　判事 駒田重義

判事 吉田常次郎　判事 十川寛之助

●共同暴行ト責任

共同暴行ノ場合ニ於テ各自ノ加ヘタル傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其ノ傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ刑法第二百七條ニ則リ共犯ニ關スル同法第六十條ニ準據シ各自ヲシテ傷害ノ結果ニ對シテ全部ノ責任ヲ負ハシムヘキモノトス

昭和十一年(れ)第一四七六號

判決

本籍並住居 岡山縣和氣郡伊里村大字友延五百六番地

農 栫崎傳一郎

（明治四十年九月三日生）

外二名

右傷害公務執行妨害暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反被告事件ニ付昭和十一年五月八日岡山地方裁判所ニ於テ言渡シタル

第二審判決ニ對シ各被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決中被告人傳一郎同悅郎同力ニ關スル部分ヲ破毀ス

被告人傳一郎ヲ懲役三月ニ處ス

但シ被告人傳一郎ニ對シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入ス

被告人悅郎同力ヲ各懲役三月ニ處ス但シ被告人悅郎同力ニ對シ各三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス

訴訟費用中第一審ニ於ケル證人宗包染吾ニ支給シタル分ハ被告人傳一郎同悅郎同力ノ連帶負擔トシ第一審ニ於テ證人大饗柳平、鹽見博、荒木正、桑田高七、三浦菅男ニ支給シタル分及原審ニ於テ證人吉村忠治、大饗良見、眞殿辨七ニ支給シタル分ハ右被告人三名及原審共同被告人濕浪宗朝ノ連帶負擔トス

【理由】 辯護人菊井轍夫上告趣意書第一點原審判決ハ其ノ理由第一ニ於テ「被告人楢崎傳一郎、花岡悅郎、金重力ノ三名ハ共謀シテ右宗包染吾ヲ脅迫シテ右村長選擧ニ贊成セシメンコトヲ企テ同年八月十日夜右被告人三名ハ外二、三名ノ同志ト共ニ伊里村大字麻宇那ナル右宗包染吾方ニ至リ同人ニ對シ自分ハ愛鄕會ヲ組織シ紊亂セル村政ヲ改革センカ爲來ル八月十二日ノ村會ニ於テ播本悅治ヲ村長ニ選擧シ度キニ付之ニ贊成シ吳レ度シ我々ハ如何ナル犧牲ヲ拂フモ遣ル積リナリ若シ反對スルナラハ斷乎タル處置ニ出スヘキ旨申向ケ右宗包染吾ニ於テ右被告人等ノ要求ニ應セサレハ同人ノ生命身體ニ如何ナル危害ノ及フヤ計リ難キ旨暗示シ以テ被告人傳一郎悅郎等カ共同シテ右宗包染吾ヲ脅迫シ」タル旨判示シ證據說明トシテ（一）原審ニ於ケル楢崎傳一郎ノ陳述（二）同人ノ昭和十年八月十九日檢事聽取書（三）花岡悅郎ノ同日檢事聽取書（四）宗包染吾ノ檢事聽取書ニ於ケル各陳述ヲ指摘シタリ然レトモ右ハ事實ヲ誤認シ採證ノ法則ヲ誤リシモノニシテ第一審岡山區裁判所ニ於ケル宗包染吾ノ證言ニヨレハ「問楢崎ヤ花岡カ犧牲ヲ拂フト云ウタカラトンナコトヲスルカモ知ラヌト思ウテ樂觀シタノテハナイカイエサウテハアリマセヌ私ノ投票テトウニテモナルト云ヒマシタカラ大切ナ立場ニ在ルカラト思ウテ棄權スルト云ウタノテアリマス」又「問十三日ノ村會へ行カナカツタノハ他カラ力カ加ハツタカラテハナイカ答證人自分テ決心シタノテアリマス」ト明瞭ニ右楢崎等ヨリ脅迫ヲ受ケシ事實ナキコトヲ陳述セルノミナラス第一審及原審公判ニ於テ被告人楢崎ハ「問其際我々ハ如何ナル犧牲ヲ拂ウテモ播本ヲ村長ニ選擧スルト云ウタノテハナイカ答ソレハ我々ハ澤山ナ犧牲ヲ拂ウテ村長選擧ニ付奔走シテ居ルカ夫レモ厭ハスヤツテ居ルト云ウタノテ同人カ聞キ違ヘタモノト思ヒマス事實我々ハ大ナル犧牲ヲ拂ウテ居ルノテアリマス」ト供述シ花岡金重又同樣脅迫ノ事實ヲ否認セリ斯ノ如ク被告人及被害者共ニ公判ニ於テ犯罪事實ヲ否認シ事物ノ性質上物的證據何物モ存セサルニ唯檢事聽取書ヲ根據トシ罪責ヲ斷スルハ公判手續ノ精神目的ヲ無視シタルモノニシテ事實ニ於テ何等犯罪事實存セサルニ殊更之ヲ曲解誤認シタルモノナリト信ス被告人楢崎ノ第一審及原審ニ於ケル陳述ニ依レハ昭和十年八月十三日朝村會開會ニ方リ宗包染吾ニ出席ヲ促ス爲同人宅ニ赴カントセシ事實アリ此ノ事實ヲ以テシテモ被告人等カ宗包ヲ脅迫シ棄權セシムル目的存セサルコト明カニシテ斯ル事實ヲ顧ミス唯被告人カ宗包方ニテ犧牲ヲ拂フモ嫌ハサルノ言葉ヲ使用シタル一事ヲ以テ暗ニ生命身體ニ危害ヲ及ホスヘキコトヲ暗示シタルモノト解スルカ如キハ甚シキ誤謬ヲ犯セルモノナリ惟フニ被告人等數人同行セシハ世間普通行ハルル所謂陳情ニシテ此ノ點ニ何等不法ナク又犧牲ナル言葉ハ被告人等ノ强キ熱望ヲ外部ニ表示スル爲使用セシ言辭ニシテ飽ク迄目的ノ爲努力スルノ意ニ外ナラス之ヲ目シテ相手方ニ危害ヲ與フル意ナリト解スルハ事實ヲ曲庇スルモノニシテ果シテ如斯解センカ坊間行ハルル勞働爭議各種陳情團凡テ犯罪者トシテ處罰サルルニ至ラン原判決ハ一片ノ言辭ニ拘泥シ著シキ事實ノ誤認ヲ犯セルモノナルカ故ニ破毀サルヘキモノナリト信スト云フニ在レトモ

原判決第一事實ハ原判決擧示ノ證據ニ依リテ優ニ之ヲ證明スルニ足リ原判示暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反罪ヲ構成スルモノトス記錄ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ認メス又採證法則違背ノ廉ナシ所論ハ畢竟原審ノ採用セサル證據ヲ云爲シ又ハ原審ト相容レサル獨自ノ見解ニ立脚シテ原審ノ專權ニ屬スル證據ノ取捨及其ノ價値判斷ヲ非難シ延イテ事實ノ認定ヲ攻擊スルニ外ナラスシテ理由ナキモノトス

同第二點原判決ハ其ノ理由第二ニ於テ「口々ニ絕叫シテ威嚇シ更ニ被告人悅郎ハ胸倉ヲ採リテ引張リ被告人力ハ手ヲ引張リ被告人傳一郎ハ毆打スル等暴行脅迫ヲ爲シ……其ノ際荒木正ハ被告人等ノ右暴行ニ因リ左耳翼周圍ニ打撲擦過傷左下眼瞼打撲皮下溢血等全治約八日間ヲ要スル傷害ヲ蒙リタルモ該傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサリシ」ト判示シ刑法第二百七條ヲ適用處斷セリ然レトモ右ハ理由前後互ニ齟齬矛盾アルト共ニ又刑法第二百七條ノ適用ヲ誤リタルモノナリ即チ先ツ原判決ハ前示理由ニ於テ前段各被告人ノ行動ヲ具體的確定スルニ方リ被告人悅郎ハ胸倉ヲ採リ力ハ手ヲ引張リト判示シ居ルヲ以テ斯ハ法律上單純ナル暴行ニスキスシテ傷害等生スヘキ可能性アルモノニアラス從テ右被告人兩名ハ判示セラレタルカ如キ行動ニテハ到底傷害ノ結果ヲ惹起スルカ如キコト不可能ニシテ右兩名ハ傷害ニ關係ナキコト明カナリ殊ニ其ノ傷害ノ箇所タルヤ前示ノ如ク右側眼瞼耳附近ナレハ胸倉ヲ採リ又ハ手ヲ引張ル等ノ行爲ニ依リテ何ソ如斯傷害ヲ惹起スルヲ得ン果シテ然ラハ原判決ハ如斯到底傷害ヲ生スル能ハサル行爲ヲ目シテ傷害ノ結果ヲ生スヘシトノ前提ノ下ニ傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ル能ハストシテ被告人三名ニ對シ刑法第二百七條ヲ適用シタルハ手ヲ採リ胸倉ヲ引張ル行動ニ依リ眼瞼耳附近ニ傷害ヲ生スト云フカ如キ矛盾セル不當ナル結果ヲ認容セルモノニシテ到底維持サルヘキモノニアラス刑法第二百七條ハ傷害ノ結果ヲ生スヘキ

可能性ヲ有スル二人以上ノ暴行々爲ニ依リ傷害ヲ生シタル場合何人ノ行爲カ斯ル結果ヲ惹起シタルヤ不分明ナル場合ノ推定ニ外ナラスシテ既ニ學者ノ批難スル所ナリ然ルニ原審ハ之ヲ解シテカ或ハ解セスシテカ傷害ノ結果ニ全然關係ナキコト明白ナル行爲ヲ判示シ之ト傷害ヲ生スヘキ行爲トヲ區別セス暴行ノ一字ニ眩惑サレテ漫然同條ヲ適用處斷シタルハ理由齟齬擬律違法ノ批難ヲ免レス當然破毀サルヘキモノト信ス次ニ原審判決ハ右刑法第二百七條適用ニ付左ノ如キ違法アリ即チ刑法第二百七條ハ既ニ御院判例大正十五年れ第一五三〇號昭和二年六月二十七日第二刑事部判決ヲ以テ明白ニ判示サレタル通リ共同行爲ニアラスシテ二人以上暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ノ規定ニシテ二人以上共同シテ人ヲ傷害シタル場合ニハ其ノ適用ナキモノナリ然ルニ原判決ハ理由第二ニ於テ「被告人傳一郎、悅郎、力、宗朝等四名ハ共同シテ外數名ト共ニ……暴行脅迫ヲ爲シ……右暴行ニ因リ其ノ左耳翼周圍ニ打撲擦過傷左下眼瞼打撲皮下溢血等……傷害ヲ蒙リタルモ該傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハス」ト判示シ被告人等ノ暴行脅迫ハ共同行爲ナルコトヲ判示シ乍ラ刑法第二百七條ヲ適用處斷セリ斯ハ明カニ法律ノ解釋ヲ誤リ不法ニ法律ヲ適用シタルモノニシテ擬律ノ點ニ違法アリ到底破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在リ

【判決理由】 案スルニ數人カ共同シテ他人ニ暴行ヲ加ヘタル場合ニ其ノ間ニ意思ノ連絡アルトキハ之ニ對シ刑法第六十條ヲ適用シ各自ヲ正犯トシテ刑ヲ科スヘク之ニ反シ暴行者間ニ意思ノ連絡ヲ缺ク場合ニ於テハ各自ヲシテ其ノ現ニ加ヘタル傷害ニ對シテ責ヲ負ハシムルヲ原則トシ各自ノ加ヘタル傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其ノ傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ刑法第二百七條ニ則リ共犯ニ關スル同法第六十條ニ準據シ各自ヲシテ傷害ノ結果ニ對シテ全部ノ責任ヲ負ハシムヘキモノトス原判決第二事實ニ依レハ被告人三名及原審共同被告人濕浪宗朝ハ原判示村會議員荒木正ニ對シ原判示ノ如キ暴行脅迫ヲ爲シ其ノ暴行ニ因リ同人ニ對シ原判示傷害ヲ加ヘタルコトヲ認メタルニ外ナラサルカ故ニ被告人等ハ孰レモ傷害ノ共同正犯トシテ當然刑法第六十條ノ適用ヲ受クヘク同法第二百七條ノ適用ニ依リテ始メテ共犯者トシテ處斷セラルルモノニ非サルナリ然レハ原審カ被告人等ニ對シ同法第二百七條ヲ適用シタルハ明ニ法律解釋ヲ誤リ適用スヘカラサル法律ヲ適用シタル違法アリト謂フヘク論旨後段ハ理由アリ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レス然リ而シテ原判示第二ハ傷害罪ノ共同正犯ニシテ刑法第二百七條ノ犯罪ニ非サルコト上敍ノ如クナル以上其ノ傷害ハ共同的暴行ノ結果ニ外ナラサルカ故ニ各被告人ノ加ヘタル暴行及其ノ結果ノ程度如何ニ因リテ罪責ヲ分擔スルコトナク被告人等ハ傷害ノ結果ニ對シテ各自全部ノ責任ヲ負フヘキモノナレハ被告人等ノ或者カ所論ノ如ク傷害ノ結果ヲ惹起スヘキ暴行ヲ爲ササリシトスルモ尙且傷害ノ結果ニ付其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス論旨前段ハ畢竟刑法第二百七條ノ犯行ナルコトヲ前提トスル議論ナルモ本件ニハ同法條ヲ適用スヘカラサルコト叙上說明ノ如クナレハ到底採用ノ限ニ在ラス

同第三點原判決ハ刑法第九十五條第二項適用ニ付解釋ヲ誤リタル違法アリ即チ刑法第九十五條第二項ハ「公務員ヲシテ或處分ヲ爲ササラシムル爲……暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル」場合ニ其ノ適用アルモノナルカ故ニ所謂目的罪ニシテ或處分ヲ爲ササラシメ又ハ爲サシムル目的ノ存在スルコトヲ構成要件トス（宮本博士刑法學粹第七六九頁）然レハ斯ル目的ノ存在スルコトハ同條犯罪成立ノ要件ニシテ判決理由中ニ於テ斯ル目的ノ存在ヲ判示スヘキモノナリト信ス然ルニ原判決ハ事此處ニ出テスシテ其理由第二ニ於テ單ニ荒木正ニ對シ「暴行脅迫ヲ爲シ遂ニ同日ノ村會ニ出席スルコトヲ斷念シ歸宅セシムルノ止ムナキニ至ラシメ以テ同人ノ村會ニ於ケル議事ヲ爲スコトヲ得サラシメテ公務ノ執行ヲ妨害シタル」旨判示スルノミニシテ被告人等カ荒木正ヲシテ議事ヲ爲ササラシムル目的ヲ有スルヤ否ヤニ付何等判示セス暴行脅迫ト議事ヲ爲ササリシ事實ノミヲ以テ刑法第九十五條ヲ適用シタルハ不法ニ法律ヲ適用シタルモノニシテ擬律ノ點ニ違法アリ破毀サルヘキモノナリト信スト云フニ在リテ刑法第九十五條第二項ノ犯罪ハ犯人カ公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若ハ爲ササラシムル等ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ加フルニ因リテ成立スルコト所論ノ如クナリト雖原判示第二ハ被告人等共謀シテ原判示村會議員荒木正ヲシテ原判示ノ如ク村長選擧ノ爲ニスル村會ニ於テ議事ヲ爲ササラシムル目的ヲ以テ原判示手段方法ニ依リ同人ニ對シ暴行脅迫ヲ爲シタル事實ヲ認メタル趣旨ナルコト判文上疑ヲ容レサルカ故ニ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨理由ナシ

同第四點原判決ハ理由第二判示事實中重大ナル事實誤認アリ原判決理由第二「被告人楢崎ハ毆打スル等暴行脅迫ヲ爲シ遂ニ荒木正ヲシテ云々」ナル事實ヲ判示サレ居レトモ同被告人第一、二審ヲ通シ極力之ノ點ヲ否認セルコトハ一件記錄ニ徵シ明白ニシテ被告人楢崎カ暴行現場ニ在ラサリシコトニ付テハ原審證人吉村忠治ノ證言ニヨリ明白ナリ即チ同證人ノ證言ニ依レハ其ノ際楢崎ハ私ノ反對側即チ自動車ノ南側ノ窓カラ中ヲ覗キ其ノ際荒木ノ持ツテ居マシタ巾着ヲ指シテ荒木ニ對シ君ハ……」「私カ其處へ參リマシテカラハ誰モ暴行ヲ加ヘタ者ハアリマセンテシタ」菊井辯護人ノ問ニ對シ「右八月十三日證人カ荒木ノ乘ツテ居タ自動車ノ所へ行ツタ時既ニ楢崎傳一郎ハ其處へ來テ居タカ「左樣テアリマス楢崎ハ何方ノ方面カラ來タノテアリマシタカ私ハ其處へ行キ荒木ニ對シ荒木君什ウシタカト申シテ居マス時ニ私共ノ反對側即チ南側ノ窓カラ前申シマス樣ニ荒木ノ巾着ヲ指シ巾着ノ話ヲシマシタモノカアリマスカラ結局私ハ同時ニ其處へ行ツタモノト思ヒマス」「然ラハ證人ハ自動車ノ北側ノ窓カラ楢崎ハ自動車ノ南ノ窓カラ各同時ニ覗イタト云フコトニナルノカ先ツ左樣テアリマス」ト陳述セリ即チ暴

行ノ現場ニ吉村忠治ハ居合セス暴行終リテヨリ現場ニ到着シ樋崎モ亦同時ニ到着セシモノニシテ該證言ニ依リ被告人樋崎ノ現場ニ在ラサル證明々白ナリ然ルニ原判決ハ之ノ點ニ於テ審理ヲ盡サス樋崎ハ當初ヨリ現場ニ在リシモノトシテ事實ノ認定ヲ爲シタルモノニシテ自動車カ犯行現場ニ到着シタル際樋崎カ現場ニ居ラス小學校正門前ヲ通リ宗包染吾ヲ誘フヘク赴キ居リタル事實アリト云フニモ不拘犯行當時ノ樋崎ノ所在ニ付審理ヲ爲ササルハ審理不盡ニ基ク事實ノ誤認ニ外ナラス現ニ居村ニ於テ不日眞犯人檢擧サレントシ居ルモノニシテ眞犯人ノ存在ハ居村ノ村民知リ居ルモノノ如ク被告人ヨリモ數日中ニ告發セントシ居レリ如斯被告人ノ犯行トシテ矛盾ヲ來セル本件傷害ノ點ニ付樋崎ノ現場到着ト犯行ノ時點ヲ明白セサルハ審理不盡事實誤認ノ違法アリ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ原審ハ被告人等ハ共同シテ原判示日時場所ニ於テ荒木正ニ對シ暴行脅迫ヲ爲シ因テ傷害ヲ加ヘタル事實ヲ原判決擧示ノ證據ニ依リテ認定シタルモノニ係リ該證據ニ徴スレハ右ノ如キ認定ヲ爲スニ十分ナリトス記錄ノ精査ヲ遂クルモ原判決ニ右ノ點ニ付重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ヲ發見セス加之被告人等間ニ暴行ヲ爲スノ意思ノ連絡アル以上犯人中ノ或者カ犯行ノ現場ニ在リタルト否トヲ問ハス暴行ニヨリテ生シタル結果ニ對シ全部ノ責任ヲ負擔スヘキコト勿論ナルカ故ニ旁以テ論旨ハ理由ナキモノトス

同第五點原審判決ハ被告人樋崎ノ刑ノ量定ニ付不當ナリ即チ原判決ニ於テハ花岡金重二名ニ付テハ孰レモ執行猶豫ノ恩典ニ浴サシメタルニ獨リ樋崎ノミハ之カ恩典ニ浴セス而モ原判決ノ指示セル處ニ依レハ犯罪事實何レモ全然同一ニシテ何等差引ヲ設クヘキ理由存セサルニ被告三名間ノ刑ノ量定ニ付如斯不權衡ヲ來セルハ即チ甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由ナリト信ス此ノ點ニ於テモ原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在レトモ叙上ノ理由ニ依リ原判決ヲ破毀スル以上本論旨ニ對シテハ特ニ説明ヲ爲スノ要ヲ見サルモノトス以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第四百四十七條ニ則リ原判決中被告人傳一郎同悦郎同力ニ關スル部分ヲ破毀シ同被告人等ニ對シ同法第四百四十八條ニ則リ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス被告人傳一郎同悦郎同力ニ關スル原判決ノ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人三名ノ判示第一ノ數人共同シテ脅迫シタル所爲ハ暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項刑法第二百二十二條第一項ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ被告人三名ノ判示第二所爲中公務執行妨害ノ所爲ハ刑法第九十五條第二項ニ傷害ノ所爲ハ同法第六十條第二百四條ニ各該當スルトコロ右公務執行妨害ノ所爲ト傷害ノ所爲トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ傷害罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ右第一ノ數人共同シテ脅迫シタル所爲ト右傷害ノ所爲トハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ則リ重キ傷害罪ノ刑ニ併合罪ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人三名ヲ各懲役三月ニ處スルヲ相當トシ尚同法第二十一條ニ則リ被告人傳一郎ニ對シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ右本件ニ算入スヘク被告人悦郎力ノ兩名ニ對シテハ犯情其ノ他諸般ノ情狀ニ鑑ミ其ノ刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ則リ各三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ主文末項ノ如ク其ノ負擔ヲ定ムヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事武松久吉關與

昭和十一年十一月七日

大審院第三刑事部　裁判長判事　草野豹一郎
判事　植月愛明　判事　日下部義夫
判事　瀬波良讓　判事　稻田馨

●縣會議員選擧違反ト犯罪後ノ法律ニ因ル刑ノ變更

昭和十一年(れ)第一三六七號

判　決

本籍　滋賀縣神崎郡八日市町大字八日市二百二十四番地
住居　同縣同郡同町大字濱野五百七十四番地
債券賣買業　中村太郎
（明治十年二月十一日生）
外十五名

右縣會議員選擧罰則違反被告事件ニ付昭和十一年四月二十日大津地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ各被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】　原判決ヲ破毀ス

被告人中村太郎ヲ禁錮三月ニ、被告人植村清兵衞ヲ罰金百圓ニ、被告人重森文二ヲ罰金三十圓ニ、被告人北村繁太郎ヲ罰金三十圓ニ、被告人高木政治郎ヲ罰金三十圓ニ、被告人野田寅吉ヲ罰金三十圓ニ、被告人竹内正一郎ヲ罰金三十圓ニ、被告人深尾乙次郎ヲ罰金三十圓ニ、被告人渡邊熊治郎ヲ罰金三十圓ニ、被告人奥村鹿藏ヲ罰金二十圓ニ被告人大島泰藏ヲ罰金二十圓ニ、被告人西村源治ヲ罰金七十圓ニ、被告人川戸市太郎ヲ罰金二十圓ニ、被告人河島初治郎ヲ罰金三十圓ニ、被告人珠久與惣吉ヲ罰金百圓ニ、被告人大島惣兵衞ヲ罰金五十圓ニ各處ス

被告人植村清兵衞、重森文二、北村繁太郎、高木政治郎、野田寅吉、竹内正一郎、深尾乙次郎、渡邊熊治郎、奥村鹿藏、大島泰藏、西村源治、川戸市太郎、河島初治郎、珠久與惣吉、大島惣兵衞ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置ス

被告人植村清兵衞、重森文二、北村繁太郎、高木政治郎、野田寅吉、竹内正一郎、深尾乙次郎、渡邊熊治郎、奥村鹿藏、大島泰藏、西村源治、川戸市太郎、河島初治郎、珠久與惣吉ヨリ夫レ夫レ金一圓ヲ追徴ス

被告人重森文二、高木政治郎、野田寅吉、竹内正一郎、深尾乙次郎、渡邊熊治郎、奥村鹿藏、大島泰藏、川戸市太郎ニ對シテハ衆議院議員選擧法第百三十七條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セス

【理由】　被告人中村太郎辯護人一松定吉

赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ其ノ法律理由ニ於テ「被告人中村太郎ノ判示所爲中各饗應接待ヲ爲シタル點ハ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第百十二條第一項第一號ニ立候補屆出前ニ選擧運動ヲ爲シタル點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選擧法第九十五條ノ二第百二十九條ニ各該當スルトコロ右饗應接待ヲ爲シタル各所爲ハ連續犯ニシテ之レト前示立候補屆出前ニ選擧運動ヲ爲シタル點トハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第五十五條第十條ニ則リ結局重キ饗應接待ヲ爲シタル點ニ關スル罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ（中略）被告人ヲ主文揭記ノ各刑ニ量定處斷シ」ト判示シ其ノ主文ニ於テ禁錮三月ヲ宣告シタリ然レトモ其ノ事實理由ニ爲ス處ニ依レハ上告人中村太郎ニ付キ認メラレタル饗應接待ハ其ノ（一）ハ昭和十年四月二十九日其ノ（二）ハ同年五月十日ニシテ何レモ前示法律施行以前ノ事ニ係ル左レハ（一）右饗應接待ノ行爲ニ付キテハ其ノ行爲當時ノ法律ト前示法律トヲ比較シテ其ノ輕キニ從ヲテ處斷セサルヘカラサルモノナリシニ事玆ニ出サリシハ違法ナリ（二）行爲時法ニ依レハ立候補屆出前ノ選擧運動行爲ハ之レヲ處罰セス然ルニ原判決ハ裁判時法タル府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選擧法第九十五條ノ二第百二十九條ヲ適用シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ違法ナリ以上原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

【判決理由】　仍テ昭和十年法律第四十四號（府縣制中改正法律）ノ施行期日ニ付テ按スルニ同法附則第一項ニ依レハ本法中議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムトアリ而シテ昭和十年勅令第百七十四號（府縣制施行令中改正ノ件）附則第一項ニ依レハ本令中議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ其ノ他ノ規定ハ昭和十年七月十五日ヨリ之ヲ施行ストアルノミナラス前記昭和十年法律第四十四號附則第六項ニ依レハ昭和九年法律第四十九號（衆議院議員選擧法中改正法律）ハ本法ノ適用ニ付テハ本法ノ施行ト同時ニ施行セラレタルモノト看做ストアリ故ニ本件被告人等ノ犯行アリタル昭和十年四月二十九日及同年五月十日當時ニ於テハ昭和十年法律第四十四號即チ府縣制中改正法律ハ未タ施行セラレ居ラス隨ツテ同法ニ依リテ準用セラルル衆議院議員選擧法中改正法律モ亦施行セラレ居ラサリシモノト解セサルヘカラス然ラハ被告人カ立候補前タル昭和十年四月二十九日及同年五月十日ノ兩度ニ自己ノ當選ヲ得ルノ目的ヲ以テ爲シタル投票並選擧運動ニ對スル報酬トシテ饗應接待ヲ爲シタル判示行爲中（一）立候補屆出前ニ選擧運動ヲ爲シタル點ハ行爲時法ニ依レハ府縣制第三十九條第四十條舊衆議院議員選擧法第九十六條本文第百二十九條ニ判決時法ニ依レハ府縣制第三十九條第四十條新衆議院議員選擧法第九十五條ノ二第百二十九條ニ該當シ（二）饗應接待ノ點ハ行爲時法ニ依レハ府縣制第四十條舊衆議院議員選擧法第百十二條第一號ニ判決時法ニ依レハ府縣制第四十條新衆議院議員選擧法第百十二條第一項第一號ニ該當スルヲ以テ右各點ニ付テハ新舊兩法ヲ適用シテ刑ニ變更ナキモノニハ舊法ヲ適用シ刑ニ變更アルモノニハ刑法第六條第十條ニ依リ其ノ輕キモノヲ適用スヘキモノトス然ラハ事玆ニ出テサリシ原判決ニハ此ノ點ニ於テ所論ノ如キ違法アリテ論旨前段ハ理由アリ然レトモ立候補屆出前ニ於ケル選擧運動ハ改正前ノ舊衆議院議員選擧法ニ在リテモ之ヲ禁シ其ノ違反行爲ヲ同法第九十六條第百二十九條ニ問擬スヘキモノト爲シタルコトハ夙ニ本院判例ノ存スル所ナルヲ以テ此ノ點ヲ以テスル論旨後段ハ理由ナシ（中略）

以上ノ理由ニ因リ被告人中村太郎辯護人一松定吉、赤井幸夫上告趣意書第一點論旨前段ハ理由アリテ此ノ點ニ於テ原判決ハ被告人ノ利益ノ爲ニ破毀ヲ免レス而モ其ノ破毀ノ理由タルヤ上告ヲ爲シタル共同被告人ニ共通ナルヲ以テ全被告人ニ對シテ原判決ヲ破毀シテ自判スヘキ場合ナリトス仍テ原判決認定ノ事實ヲ法律ニ照スニ被告人中村太郎ノ判示所爲中立候補屆出前ニ選擧運動ヲ爲シタル點ハ行爲時法ニ依レハ府縣制第三十九條第四十條舊衆議院議員選擧法第九十六條本文第百二十九條ニ判決時法ニ依レハ府縣制第三十九條第四十條新衆議院議員選擧法第九十五條ノ二第百二十九條ニ該當スルトコロ犯罪後ノ法律ニ因リ刑ニ變更ナキ場合ナルヲ以テ刑罰法令不遡及ノ原則上右舊法第九十六條本文第百二十九條所定ノ刑ニ從フヘク饗應接待ヲ爲シタル點ト行爲時法ニ依レハ府縣制第四十條舊衆議院議員選擧法第百十二條第一號ニ判決時法ニ依レハ府縣制第四十條新衆議院議員選擧法第百十二條第一項第一號ニ該當スルトコロ犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタル場合ナルヲ以テ刑法第六條第十條ニ依リ新舊兩法ノ刑ヲ比較シテ輕キ舊衆議院議員選擧法第百十二條第一號ノ所定ノ刑ニ依ルヘク右立候補屆出前ノ選擧運動ト饗應接待トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸レ而カモ判示第一ノ一、二ハ連續犯ニ係ルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第五十五條第十條ニ則リ重キ後者ノ罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中ノ禁錮刑ヲ選擇シ被告人植村清兵衞、重森文二、北村繁太郎、高木政治郎、野田寅吉、竹内正一郎、深尾乙次郎、渡邊熊治郎、奥村鹿藏、大島泰藏、西村源治、川戸市太郎、河島初治郎、珠久與惣吉、大島惣兵衞ノ判示各所爲ハ行爲時法ニ依レハ府縣制第四十條舊衆議院議員選擧法第百十二條第四號ニ判決時法ニ依レハ府縣制第四十條新衆議院議員選擧法第百十二條第一項第四號ニ該當スルトコロ犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタル場合ナルヲ以テ刑法第六條第十條ニ依リ新舊兩法ノ刑ヲ比較シテ輕キ舊衆議院議員選擧法第百十二條第四號所定ノ刑ニ依ルヘク尚被告人珠久與惣吉ノ判示第三及第四ノ行爲ハ連續犯ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲモ適用シテ所定刑中罰金刑ヲ選擇シテ各被告人ヲ主文揭記ノ各刑ニ量定處斷シ被告人植村清兵衞、重森文二、北村繁太郎、高木政治郎、野田寅吉、竹内正一郎、深尾乙次郎、渡邊熊治郎、奥村鹿藏、大島泰藏、西村源治、川戸市太郎、河島初治郎、珠久與惣吉、大島惣兵衞ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條

ニ從ヒ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スヘク被告人植村淸兵衞、重森文二、北村粲太郎、高木政治郎、野田寅吉、竹內正一郎、深尾乙次郎、渡邊熊治郎、西村源治、川戸市太郎、奥村鹿藏、大島泰藏、河島初治郎、珠惣吉ノ饗應ニ依リ受ケタル各利益ハ孰レモ沒收スルコト能ハサルヲ以テ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第百十四條ニ依リ金一圓宛ヲ同人等ヨリ各追徵スヘク被告人重森文二高木政治郎、野田寅吉、竹內正一郎、深尾乙次郎、渡邊熊治郎、奥村鹿藏、大島泰藏、川戸市太郎ニ對シテハ情狀ニ因リ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第百三十七條第三項ニ則リ同條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セサルモノトス尙被告人中村太郎ハ投票ヲ得ル目的ヲ以テ昭和十年九月七日滋賀縣神崎郡山上村ノ選擧人ナル被告人奥村鹿藏、珠久與惣吉、大島惣兵衞方ヲ各歷訪シ夫レ夫レ同人等ニ對シ自己ノ爲投票及選擧運動ヲ爲シ呉レ度旨請託シ以テ戸別訪問ニ依ル選擧運動ヲ爲シタリトノ公訴事實ハ其ノ證明ナキモ右ハ判示第一ノ立候補屆出前ニ選擧運動ヲ爲シタル事實ト連續犯ノ關係アルモノトシテ起訴セラレタルヲ以テ此ノ點ニ付テハ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘカラサルモノトス

仍テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百五十一條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事武松久吉關與

昭和十一年十一月十八日

大審院第三刑事部、裁判長判事草野豹一郎
判事　日下部義夫　判事　藤波　良藏
判事　田中　[illegible]　判事　久禮田益喜

●第三者ノ推薦狀ニ供ル選擧運動ト其ノ豫備行爲

第三者ハ推薦狀ニ依ル選擧運動ノ豫備行爲ト目スヘキ推薦狀ニ加名方ヲ求ムル行爲ノ如キハ衆議院議員選擧法施行令第五十七條ノ三ニ定ムル制限ニ反セサル限リ適法行爲ナリ

昭和十一年(れ)第一七七九號

判　決

本籍並住居　香川縣綾歌郡岡田村大字岡田西百六及百八番地
農業　村山芳太郎
（當三十七年）

右衆議院議員選擧法違反被告事件ニ付昭和十一年五月三十日高松地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】　原判決ヲ破毀ス

被告人ハ無罪

【理由】　辯護人淸瀨一郎、北村金太郎上告趣意書第一點ハ原判決ハ衆議院議員選擧法第九十六條第一項ニ所謂選擧運動ノ意義ヲ誤解シタル結果同法ノ適用ニ付キ錯誤ヲ爲シタル違法ノ判決ナリ原判決ノ認メタル事實ハ「被告人ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選擧ニ際シ法定ノ選擧運動者ニ非サル者ナルトコロ香川縣第二區ヨリ立候補シタル矢野庄太郎ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年一月二十日頃同縣仲多度郡善通寺町騎兵聯隊兵營內ニ於テ同郡岡田村ノ選擧人山本淸太郎ニ對シ今度ノ選擧ニ於テモ相共ニ矢野ノ推薦ヲ爲シタキ旨申入レ尋テ同年二月十日頃同村自宅ニ於テ同人ニ對シ相共同シテ矢野ノ推薦狀ヲ出シタキ旨申入レ相面談シテ同人ニ對シ矢野候補ノ爲推薦狀ニ依ル選擧運動ヲ共ニ爲サムコトヲ勸誘シ推薦狀ニ加名方ヲ求メ以テ選擧運動ヲ爲シタルモノナリ」ト謂フニ在リ玆ニ豫メ御留意ヲ請フヘキハ本件ノ推薦狀加名行爲ハ戸別訪問ノ方法ニ依ルニ非ラス又個々面接ノ方法ニ依リタルニアラス連續電話ノ方法ニ依リタルニアラサルコトナリ乃チ衆議院議員選擧法施行令第五十七條ノ三ニ違反シタル行爲ニアラス從テ又御院昭和十一年(れ)第三〇四號事件（同年四月二十七日判決）ノ判例ノ場合ト事案ヲ異ニス辯護人ハ選擧ノ時期ニ際シ舊來ノ友人同志カ相共ニ某候補ヲ援助シ相共ニ推薦狀ヲ發センコトヲ協議スルカ如キハ其ノ方法ニシテ戸別訪問個々面接等施行令ノ制限ニ觸レサル以上犯罪ヲ構成スルモノニアラスト信ス現行法律ニ於テモ二人以上ノ者カ連名シテ人ヲ推薦スルコトハ之ヲ禁スルモノニアラス又選擧界ノ實際ヨリスルモ政黨幹部ヤ地方有志カ數名集リテ連名推薦狀ヲ發スルコトハ比トシテ是ナリ之ヲ違法ト爲スヘキヤ共同推薦ヲ爲スニ必ス先ツ同志相謀リ推薦者タルヘキ者ヲ確定シ然ル後推薦狀ヲ作成シ以テ其ノ運動ヲ爲スニ至ルコト普通ノ順序方法トシテ法ノ禁スル處ニ非ラス昭和三年(れ)第三四九號事件ノ判示ハ戸別訪問個々面接ニ依ラサル共同推薦ニ付テハ今猶適切ナルモノナリト考フ本件ニ於ケル被告村山ノ行爲ハ右判例ニ所謂同志（村山ト山本カ同志ナルコトハ記錄ニ明ナリ）相謀リ推薦者タルヘキモノヲ確定セントシタル共同推薦ノ準備行爲ナルコトハ村山及山本ノ陳述「矢野ヲ押サウテハナイカ」ノ言葉ニ依リ明白ナリ「押サウテハナイカ」ノ言葉カ投票勸誘ナリトシテ禁止事項ナリトセンカ他ニ如何ナル方法ニ依リ所謂同志相謀ルコトヲ得ルヤ文書以外ニ於テ絕對言語ヲ以テ共謀スルコトヲ得サルコトトナリ施行令第五十七條ノ三ハ推薦狀ニ依ル選擧運動方法ニ關シ戸別訪問又ハ連續面接運動ヲ禁シタルモノニシテ本條ニ抵觸セサル限リ言語ニ依ル共謀ヲ絕對的ニ禁止シタルモノニアラサルコト明白ナリ故ニ村山ノ行爲ハ投票並應接運動ヲ依賴シタル選擧運動ニアラスシテ判例ニ所謂共同推薦ノ準備タルコト明白ナリ施行令第五十七條ノ三ノ新規定ヲ見ルニ至リタル爲前記判例ノ共謀ニ關シ自ラ制限ヲ受クルコト明白ナルモ被告村山ノ本件行爲ハ同條ニ抵觸セス何トナレハ關係者山本淸太郎トハ度々共同推薦方ニ關シ會談共謀シ居レルモ其ノ他ノ者ニハ何人ニモ面接共謀シ居ラサルコト記錄上明白ナレハナリ本件ノ如キヲ犯罪ト爲サハ國民ハ選擧中殆ント口ヲ緘セサルヲ得サルニ至ラン要スルニ原判決ハ判示事實自體ニ於テ本來罪ヲ構成セサル事件ニ付刑ヲ適用シタルモノニシテ其ノ違法ナルコト勿論ナリト云フニ在リ

【判決理由】　按スルニ原判決ハ被告人ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選擧ニ際シ法定ノ選擧運動者ニ非サル者ナルトコロ香川縣第二區ヨリ立候補シタル矢野庄太郎ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年一月三十日頃善通寺町騎兵聯隊內ニ於テ選擧人山本淸太郎ニ對シ今度ノ選擧ニ於テモ相共ニ矢野ノ推薦ヲ爲シ度キ旨申入レ尋イテ同年二月十日頃自宅ニ於テ同人ニ對シ相共同シテ矢野ノ推薦狀ヲ出シ度キ旨申入レ相面談シテ同人ニ對シ矢野候補者ノ爲メ推薦狀ニ依ル選擧運動ヲ共ニ爲サムコトヲ勸誘シ推薦狀ニ加名方ヲ求メ以テ選擧運動ヲ爲シタルモノナリト認定シ衆議院議員選擧法第九十六條第一項本文第百二十九條ヲ適用處斷シタリ然レトモ法定ノ選擧運動者ニ非サル所謂第三者カ推薦狀ニ依ル選擧運動ヲ爲スコトハ該運動ニ際シテ選擧人ニ對シ戸別訪問ヲ爲シ又ハ連續シテ個々ノ選擧人ニ面接シ若ハ電話ニ依リ通話ヲ爲スニ非サル限リ適法ニ認容セラレタル行爲ナルコト衆議院議員選擧法第九十六條第一項但書並ニ同法施行令第五十七條ノ三ノ規定ニ徵シ疑ノ存セサル所ナレハ之カ準備行爲ト目セラルヘキ推薦狀ニ加名方ヲ求ムル行爲ノ如キモ右施行令ノ定ムル制限ニ從ヒタル限リ適法ナル行爲ナルコト勿論ナリト謂ハサルヘカラス然レハ原判示ノ被告人ノ本件行爲ハ何等前記選擧法則第九十六條第一項本文ニ違反スル所ナク被告事件罪トナラサルモノニシテ論旨ハ理由アルモノトス

仍テ爾餘ノ上告論旨ニ對スル說明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事黑川涉關與

昭和十一年十一月二十六日

大審院第二刑事部、裁判長判事遠藤　誠
判事　尾佐竹猛　判事　山内揆一
判事　田中　[illegible]　判事　佐伯顯二

●虚無證據ニ依ル事實認定

昭和十一年(れ)第一五八六號

決　定

本籍並住居　富山縣西礪波郡西野尻村岩木二千四百六十二番地
農業　西田次平
（明治二十六年三月二十七日生）

右縣會議員選擧罰則違反被告事件ニ付昭和十一年五月六日富山地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事池田克ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】　本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】　辯護人沼田男三郎上告趣意書第一點一原判決ハ「第一被告西田次平ハ（一）昭和十年九月十四日居村石島小一郎ノ瓦工場ニ於テ同候補者ノ爲メ投票並ニ投票取纏方依賴ヲ受ケ後日報酬トシテ金錢ヲ供與スヘキ旨申込ヲ受ケ之ヲ承諾シ（三）同年同月十八日頃居村山田要太郎瓦工場ニ於テ同村選擧人澤田庄平ニ對シ同候補ノ爲投票並ニ投票取纏方ヲ依賴シ後日其ノ報酬トシテ酒食ノ饗應ヲ爲スヘキ旨約束ヲ爲シ」云々ト認定シ其證據トシテ被告人西田次平ノ當公廷ニ於ケル金錢供與ノ申込ヲ受ケテ承諾シタル點並ニ酒食ノ饗應ノ約束ヲ爲シタル點ヲ除ク判決同趣旨ノ供述ト原審公判調書中被告人次平ノ判決同趣旨ノ供述記載トニヨル旨判示セリ然レトモ原審公判調書ニハ金錢供與ノ申込ヲ受ケテ承諾シタル點並ニ酒食ノ饗應ノ約束ヲ爲シタル趣旨ノ供述ナシ公判調書ヲ詳細ニ吟味スルニ問、九月十四日ニモ石島方テ何カ選擧ノ話カアツタカ答、私カ……石島ハオ前ノ手テ岩木部落ノ方ヲ世話シテクレト云ヒマシタカラ……蓑島ハ少シ遠イ人テアルカラ世話ハ出來ヌ……夫レテハ又何時モノ通リ兵九郎サンテモ賴ンテ置クト云フノテ……同人ハオ前モ道テ會ツタリシテ出來ル人カアレハ世話シテ置イテクレト云ハレマシタノテ私ハ夫レヲ承知シテ居リマシタ而シテ「石島ノ腹ハ判リマセヌカ前回通リト謂フ意味テ聞イテ居リマシタ然シ或ハソウテナカツタカモ知リマセヌ」ト答辯シタルニ過キス凡ソ契約ハ申込アリ之ニ對スル承諾アルニ非サレハ成立スヘキモノニアラス石島ノ談話ハ今迄通リ兵九郎サンニテモ賴ンテ置クト云ヘシト云フニ過キス被告西田ニ對スルモノニ非サルハ勿論又金錢供與ナル內容アルモノニ非ス而シテ西田次平カ之ヲ如何ニ解釋シ承諾スルモ意思合致アルコトナケレハ從テ約束ノ成立アルコトナシ又「九月十八日ノ晩方……澤田庄平ニ會ヒ……石島小一郎カラ今マテ通リニスル樣兵九郎ニ話シテアルカラ今マテ通リテアラウト云フタ處澤田ハサウカ……」トテ是亦酒食饗應ヲ爲スヘキ約束シタル陳述ニアラス要スルニ證據ニ據ラスシテ犯罪事實ヲ認定シタル不法アリト云ヒ

辯護人赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ其事實理由第一ニ於テ「被告人次平ハ昭和十年九月十四日頃居村石島小一郎ノ瓦工場ニ於テ同人ヨリ同候補者（蓑島候補者）ノ爲メ投票並ニ投票取纏方依賴ヲ受ケ後日報酬トシテ金錢ヲ供與スヘキ旨ノ申込ヲ受ケテ之ヲ承諾シ」ト判示シ其證據說明中第一審公判調書ニ被告人次平ノ供述トシテ判示同趣旨ノ記載アリト說示シタリ仍テ同公判調書ヲ閱スルニ「問、九月十四日ニモ石島方テ何カ選擧ノ話カアツタテハナイカ答、私ハ先日ノ石島ノ話カ決マツタカドウカト思ツテ十四日ノ午後五時頃ニ同人ノ宅ヘ行クヨリモ同人ノ瓦工場ヘ行ツタ方カ近イノテ其處ヘ行キマスト石島カ居リマシタノテ私ハ石島ニ此ノ頃ノ話ハ何ウナツタカト訊ネタ處自分ハ立候補セナイ事ニシタト云フノテ私ハ夫レテハ西野尻村ノ政友系ノ投票ハ誰ニ入レルノカト問フト蓑島ノ方ヘ入レネハナルマイト云ツタカラ私ハソレカヨロシカラウト云フト石島ハオ前ノ手テ岩木部落ノ方ヲ世話シテ呉レト云ヒマシタカラ私ハ選擧肅正委員ニナツテ居ルカラ其ノ世話ハ困ル貴方カ立ツナラ世話スルカ蓑島ハ少シ遠イ人テアルカラ世話ハ出來ヌ自分ノ投票ハ蓑島ノ方ヘ入レ樣ト申シタ處同人ハ夫レテハ岩木部落ノ世話ハ誰ニ賴メハヨイカト問ヒマシタカラ私ハ貴方ノ眼鏡テ誰ニテモ云フテ呉レト云フト夫レテハ又何時モノ通リ兵九郎サンニテモ賴ンテモラウト云フノテ私ハ夫レカヨカラウト云ヒマシタ處同人ハオ前モ道テ會ツタリシテ出來ル人カアレハ世話シテ置イテ呉レト云ハレマシタノテ私ハ夫レヲ承知シテ居リマシタ」ナル問答ノ記載アリテ是ニ由レハ同人ハ石島小一郎ヨリ投票並ニ投票取纏ノ依賴ヲ受ケタル旨ノ供述ヲ爲シタルニ過キスシテ後日其ノ報酬トシテ金錢ヲ供與スヘキ旨ノ申込ヲ受ケテ之ヲ承諾シタリトノ供述ハ之ヲ爲シタルモノニアラサルコト明ナリ

トス果シテ然ラハ原判決ハ所謂虛無ノ證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノナリト云フニ在リ

【決定理由】仍テ第一審公判調書ヲ閱スルニ被告人次平ノ供述トシテ同被告人カ昭和十年九月十四日居村石畠小一郎ノ瓦工場ニ於テ同人ヨリ判示候補者ノ爲投票並ニ投票取纏方ノ依賴ヲ受ケタル旨ノ記載アレトモ同被告人カ小一郎ヨリ該報酬トシテ後日金錢ヲ供與スヘキ旨ノ申込ヲ受ケ之ヲ承諾シタル旨ノ記載ナキコト明カナルヲ以テ該供述ニ依リテハ原判示第一ノ（一）事實ヲ認定スルニ足ラス他ニ此點ニ關スル證據ヲ擧示セサル原判決ハ結局虛無ノ證據ニ依リ事實ヲ認定シタル違法アルモノニシテ原判決中被告人次平ニ關スル部分ハ破毀ヲ免レス論旨理由アリ

而シテ此ノ違法ハ事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキモノナレハ其他ノ上告論旨ニ對スル說明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十一年十月二十二日

大審院第二刑事部、裁判長判事　遠藤　誠
判事　尾佐竹　猛　判事　岸　達也
判事　山內　揆一　判事　田中　[illegible]

昭和十一年(れ)第一五八六號

判　決

本籍並住居　富山縣西礪波郡西野尻村岩木二千四百六十二番地
農業　西田次平
（明治二十六年三月二十七日生）

右縣會議員選擧罰則違反被告事件ニ付昭和十一年五月六日富山地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シ當院ハ昭和十一年十月二十二日事實審理ヲ爲スヘキ旨ノ決定ヲ爲シタルニヨリ更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

【主文】原判決ヲ破毀ス

被告人ヲ懲役一月ニ處ス

【理由】辯護人沼田勇三郎上告趣意書第一點及辯護人赤井幸夫上告趣意書第一點ハ孰レモ其ノ理由アルコト前示決定ニ說明シタルカ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十四條第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ更ニ被告事件ヲ審按スルニ被告人ハ昭和十年九月二十五日施行ノ富山縣會議員選擧ニ際シ選擧人ナルモ法定ノ選擧運動者ニ非サリシニ拘ラス同議員候補者島宗平ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ犯意ヲ繼續シ第一、同年九月十四日頃居村石畠小一郎ノ瓦工場ニ於テ同人ヨリ同候補者ノ爲投票並投票取纏方依賴ヲ受ケ後日其ノ報酬トシテ酒食ノ饗應ヲ爲スヘキ旨申込ヲ受ケテ之ヲ承諾シ第二、同月十八日頃居村山田要太郎瓦工場ニ於テ同村選擧人澤田庄平ニ對シ同候補者ノ爲投票並投票取纏方ヲ依賴シ後日其ノ報酬トシテ酒食ノ饗應ヲ爲スヘキ旨ノ約束ヲ爲シタルモノナリ（證據略）法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中無資格選擧運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選擧法第九十六條第一項第百二十九條ニ饗應ノ申込ヲ承諾シタル點ハ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第百十二條第一項第四號第一號ニ饗應ノ約束ヲ爲シタル點ハ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第百十二條第一項第一號ニ各該當スルトコロ右無資格運動ト饗應ノ約束トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第十條ヲ適用シ重キ饗應ノ約束罪ノ刑ニ從ヒ之ト饗應ノ申込ヲ承諾シタル所爲トハ連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ其ノ所定刑中懲役刑ヲ選擇シテ被告人ヲ懲役一年ニ處スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事池田克關與

昭和十一年十一月三十日

大審院第二刑事部、裁判長判事　遠藤　誠
判事　尾佐竹　猛　判事　山內　揆一
判事　田中　[illegible]　判事　佐伯　顯二

●無效ノ檢事聽取書謄本ヲ證據トシタル違法

昭和十一年(れ)第一七四五號

裁　判

本籍並住居　栃木縣鹽谷郡氏家町大字蒲須坂五百九十六番地
農業　大澤林平
（明治二十九年六月十六日生）
外一名

右衆議院議員選擧法違反被告事件ニ付昭和十一年五月十八日宇都宮地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ各被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ裁判スルコト左ノ如シ

【主文】被告人大澤林平ノ本件上告ハ之ヲ棄却ス

被告人山野義ニ對スル本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】各被告人辯護人乘竹咲一上告趣意書原審判示事實タル被告人大澤林平カ昭和十一平一月三十日料理店壽ニ於テ櫻井選ヨリ深澤候補ノ爲投票並投票取纏ヲ依賴スル趣意ニテ饗應セラルルコトノ情ヲ知リナカラ金二圓相當ノ被告人山野義カ同日同人ヨリ料理店土屋ニ於テ右同趣旨ニテ金一圓六十錢相當ノ酒食ノ饗應ヲ受ケタルコトハ檢事聽取書及其ノ謄本ニ於テ自認セルモ其ノ犯情ニ到リテハ左記列擧ノ如ク何レモ憫諒ニ値スルニ拘ラス原審ハ何等顧慮セラルルコトナク殊ニ被告人山野カ饗應ヲ受クルニ到レル犯情ヲ明確ナラシムヘキ檢事聽取書中ノ供述記載ヲ脫落セル同聽取書謄本ヲ斷罪ノ資料ニ供セラレ各罰金五十圓ニ處セラレタルハ審理不盡ニシテ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト云ハサルヲ得ス（一）被告人大澤林平ハ（イ）一月三十日夜壽ニ於テ櫻井ノ饗應ヲ受クルマテニ廣野宅ニ於テ少ナクモ一時間以上ノ間櫻井ト共ニ舊正月酒ノ御馳走ニナリ櫻井カ一杯ヤリナカラ話サウト云ヒ出スヤ直ニ廣野ノ馴染藝者ノ居ル壽ニ行カント贊成スルマテニ醉ヒ來レルコトハ記錄上（櫻井ノ昭和十一年(れ)第一七四四號ニ對スル上告趣意書中理由說明ノ（一）項及（二）項參照）明白ナルノミナラス二月二日又モヤ夕刻廣野宅ニ於テ酒二、三本ノ御馳走ヲ受ケタル後廣野ト壽ニ於テ夜十一時過マテ遊興セルコトモ亦被告人ニ對スル第一回司法警察官聽取書第十二項（櫻井ノ記錄第一八丁）ニ明白ナルヲ以テ三人中ノ最年少者タル被告人カ違反ニ問ハルルニ到レルハ最年長者タル廣野ト舊正月トニ負フトコロ鮮少ナラサリシヲ知ルヲ得（ロ）斷罪ノ資料ニ供セラレタル被告人ニ對スル第一回檢事聽取書ノ謄本中ニ「櫻井君ハ一

人前二圓ノ割合テ飲マウト云ヒナカラ自分等ニ勘定ヲ出サシメス櫻井一人テ支拂ヒタルヲ以テ投票並投票取纏ノ依賴ノ御馳走ノ趣旨ニテ饗應セルモノト思ヒマシタ」旨ノ供述記載ト一月三十一日太田原町ノ選擧事務所ヨリノ歸途櫻井廣野ト壽ニテ飲酒セル勘定ヲ廣野カ全部支拂ヘルヲ被告人ハ一足先ニ歸宅（註汽車時間ノ都合上）シテ知ラサリシ爲第二回檢事聽取書第二項中「三人テ負擔スル譯テ誰カ御馳走ト云フ譯ニアラサル」旨ノ供述記載トヲ對照セムカ被告人ハ饗應ト否トノ別ヲ其ノ場合ニ於テ拂フヤ否ヤニ求メ勘定ヲ拂ヘル者ノ意思其ノ他ヲ毫モ考ヘサル頭腦即チ性格ノ持主タルコトヲ知ルヲ得（二）被告人山野義ハ（イ）舊正月七日氏家町ノ初市ノ夕食ヲ家族ト共ニシ寢ニ就キ居ル處十時過ニ平素懇意ナル櫻井ニ叩キ起サレ「小池君カ飲マウト云ツテ待ツテ居ルカラ一緒ニ行カウ」ト申シテ連レ出サレ（被告人檢事聽取書謄本記錄第一二丁一三丁參照）既ニ酩酊セル櫻井カ「婿ハ俺等ノ方テハ深澤サンニ定ツタカラ御互ニヤラウテハナイカ」ト管ヲ卷クヤ「ソンナ話ハ止ソウテハナイカ」ト輕ク受ケ流シテ藝者相手ニ馬鹿話ヲ爲シ酩酊セル櫻井ヲ機嫌ヨク歸ヘシ醉ヒ潰レタル小池ヲ殘シテ十二時過ニ歸宅セル事實（同謄本第七項記錄第一六丁乃至一八丁參照）ト（ロ）被告人ハ櫻井小池ト平素酒食ヲ共ニスル懇意ノ間柄ナルモ其ノ收入一ケ月三十圓位ニ過キサル周旋業者ナルニ反シ櫻井ハ小作米ノミニテモ三百俵小池ハ借金モアルカ自作兼小作ノ有力者ナルコトヲ明ニスル被告人ノ供述記載（右謄本第一項第六項第十項參照）トヲ綜合考察セムカ夜半櫻井ニ混キ夢ヲ破ラレナカラ小池ノ御馳走ト信シ出カクルニ到レル被告人ノ境遇又憫諒ニ値セム（三）然ルニ被告人兩名ハ公判廷ニ於テ檢事廷ノ陳述ヲ覆セルハ其ノ心事惡ムヘク犯後ノ情狀酌量ニ値セストセラルル廉アラムモ其ノ饗應ヲ受クルニ到レル犯情ハ前揭（一）項及（二）項ノ如ク又選擧カ舊正月中心ニ施行セラレタルコトモ亦本件ヲ惹起セシメタル一原因タリシコトハ記錄上推知スルニ難カラス廣野小池カ處セラレサルハ夫レ丈ケノ事由アラムモ櫻井カ遊廓ニ登樓スルヲ得サリシ爲山野ハ被告人タル運命ニ舊正月早々逢會セルカ如キハ憐憫ニ堪ヘサルナリ（四）原審公判調書中被告人山野ニ對スル部分（記錄第六〇丁裏）「被告人ハ櫻井ト共ニ飲ム前ニ小池カ罰金ノ刑ヲ受ケタ其ノ金ヲ納メルニ差支ヘタ爲櫻井ニ對シ金ヲ小池ニ貸シテ吳レト云フコトヲ話シテヤツタコトカアツタカ」ノ問ニ對シ「左樣ナコトカアリマシタ」ト答ヘ「右ノ樣ナコトカアツタ爲櫻井（小池ト記シタル後櫻井ト訂正シ欄外ニ其ノ旨記ス）カ右ノ場合ニ馳走シテ吳レタト思ハナカツタカ櫻井ハ其ノ樣ニ云ツテ居ルカ」ノ問ニ對シテハ「左樣ニハ思ヒマセヌテシタ」ト供述記載アルモ櫻井ニ對スル記錄中ニハ公判調書（櫻井ノ記錄第四〇三丁）以外ニハ斯ノ如キ供述記載ナク訊問調書（櫻井ノ記錄第三二四丁參照）ニハ「小池カ山野ニ對シ感謝ノ意味テ一杯飲マウト云フコトテ土屋料理店ニ行キ山野ヲ小池カ連レテ來テ吳レト申シマシタ故私カ行キ連レテ來タノテアリマス」トアリテ被告人ニ對スル檢事聽取書ノ謄本中ニモ「櫻井君カ外ニ立ツテ居リ小池君カ飲マウト云フテ待ツテ居ルカラ一緒ニ行カウト申シマシタ」トアルニ徵シテモ被告人ノ右ノ答辯ニハ何等ノ虛構ナク事實アリノ儘ノモノニシテ所謂ブローカー稼業ノ被告人ノ性格カ正直ナルコトヲ證スト云フヘキナリ（五）被告人山野ニ對スル右謄本中（記錄第一六丁乃至第一八丁參照）ニハ原本タル第一回檢事聽取書第一項（櫻井ノ記錄第二一五丁裏七行目以下）中ノ「私ハ櫻井君カラ其ノ言葉ヲ聞クマテハ豫テ櫻井君ヤ小池君カ舊正月ニハ一杯飲マウト云ツテ居ツタノテ交際ニハ一杯飲ムノタト思ツテ居リマシタカ只今申シタ樣ニ櫻井君カ私ニ向ヒ婿ハ深澤サンニ定ツタカラ御互ニヤラウテハナイカト云ツタノヲ聞キ「ハツト」思ヒ」ノ供述記載ヲ脫落スト云フニ在リ

【判決理由】仍テ査スルニ被告人山野義ニ對スル所論檢事聽取書謄本ニ所論ノ如ク其ノ原本記載內容ノ一部ノ謄寫ヲ遺脫セルコト右兩者ヲ對照スルコトニ依リ明白ナルヲ以テ右所謂謄本ハ謄本トシテノ效力アルコトナシ然レハ原判決カ謄本トシテノ效力ナキ右ノ書類ヲ謄本トシテ證據ニ援用シタルハ違法タルヲ免レス而シテ右ノ違法ハ被告人山野義ニ對シテハ其ノ判決ニ影響ヲ及ホス法令ノ違反ナルヲ以テ同被告人ニ對シテハ原判決ヲ破毀スヘキ理由ト爲リ從テ此ノ點ニ關スル論旨ハ其ノ理由アリ被告人大澤林平ニ對シテハ右所謂謄本中ノ供述記載ヲ除外シタル爾餘ノ證據ニ依ルモ優ニ同被告人ニ對スル原判示事實ヲ證明シ得ルヲ以テ右採證上ノ違反ハ同被告人ニ對スル原判決ニ何等ノ影響アルコトナキニヨリ右法令ノ違反ハ同被告人ニ對スル原判決ヲ破毀スヘキ理由ト爲ラス而モ記錄上同被告人ニ對スル原判決ノ事實認定ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由及審理不盡ノ違法アルコトナク同被告人ニ對スル科刑亦甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルコトナケレハ同被告人ニ關スル論旨ハ其ノ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ被告人大澤林平ニ對シテハ刑事訴訟法第四百四十六條被告人山野義ニ對シテハ同法第四百四十條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事德江治之助關與

昭和十一年十一月十日

大審院第四刑事部、裁判長判事　沼　義雄
判事　尾佐竹　猛　判事　駒田　重義
判事　日下　巖　判事　吉田常次郎

昭和十一年(れ)第一七四五號

判　決

本籍　栃木縣鹽谷郡氏家町大字氏家二千三百五十五番地
住居　同縣同郡同町同大字氏家千八百十五一番地
土地建物賣買周旋業　山野義
（明治二十六年七月二十八日生）

右衆議院議員選擧法違反被告事件ニ付昭和十一年五月十八日宇都宮地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シ當院ハ同年十一月十日事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ノ決定ヲ爲シタリ因

テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】原判決ヲ破毀ス

被告人ヲ無罪トス

【理由】辯護人乘竹喚一上告趣意書ノ論旨理由アルコトハ前掲當院ノ決定ニ於テ説明スル如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ基キ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ審按スルニ本件公訴事實ハ被告人ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選擧ニ際シ栃木縣第一區ノ選擧人ナルトコロ被告人ハ同年一月三十日右選擧ニ際シ同區ヨリ立候補セル議員候補者深澤巳代吉ヲ應援セル櫻井選ヨリ同縣鹽谷郡氏家町料理店土屋ちか方ニ於テ同候補者ニ投票並投票取纒メ方ノ選擧運動アリ度キ旨ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ選カ其ノ謝禮トシテ饗應スルモノナルノ趣旨ヲ諒承シテ同料理店ニ於テ金一圓六十錢相當ノ酒肴ノ饗應ヲ受ケタルモノナリト云フニ在レトモ

【判決理由】之ヲ認ムヘキ證明ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

依テ主文ノ如ク判決ス

檢事徳江治之助關與

昭和十一年十二月八日

大審院第四刑事部、裁判長判事宇野要三郎
判事 沼 義雄　判事 駒田 重義
判事 吉田常次郎　判事 十川寛之助

●犯罪事實ニ對スル擬律遺脱

昭和十一年(れ)第二〇八六號

判決

本籍並住居 堺市材木町東二丁二十九番地
休職伯太郵便局長
杉本 日出吉
（明治二十九年一月十一日生）
外十一名

右瀆職被告事件ニ付昭和十一年四月二十七日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】被告人杉本日出吉、江見壽男、柳澤光雄、村上金兵衛、菅田岩雄、岸本慶記、今井勝三郎、松森正一郎、橘藤二、東計茂及秋葉義祐ノ本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

原判決中被告人池田興文ニ關スル部分ヲ破毀ス

被告人池田興文ヲ懲役三月ニ處ス被告人池田興文ニ對シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入ス

【理由】（中略）被告人池田興文辯護人岡上晴重、山口貞昌上告趣意書第一點原判決ハ本件犯罪ニ對スル法律ノ適用ニ方リ被告人岸本慶記今井勝三郎（（イ）事實）云々判示賭博ノ所爲ハ各同法第百九十八條第一項被告人柳澤光雄、池田興文西馬實、村上金兵衛、菅田岩雄、今井勝三郎（（ロ）事實）云々判示共謀賭博ノ所爲ニハ各同法第六十條第百九十八條第一項ニ該當スルトコロ云々各被告賭博ノ所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルヲ以テ各同法第五十五條ヲ適用シ一罪ト爲シ處斷スヘキ旨ヲ說示セリ是ニ依レハ原審ノ趣旨ハ賭博者カ單獨ニテ罪ヲ犯シタル場合（今井勝三郎（イ）ノ事實是ニ該ル）ト數名共謀シテ賭博シタル場合（今井勝三郎（ロ）ノ事實是ニ該ル）トヲ區分シテ其ノ擬律ヲ爲シタルコト明白ナリト謂フヘシ而シテ原審判決ニ依レハ被告興文ノ犯罪行爲ハ五個アリ此ノ内（イ）ノ罪ハ村上金兵衛及菅田岩雄（ロ）ノ罪ハ秋葉義祐トノ各共謀ニ出ツト雖（ハ）江見壽男饗應ノ所爲（ニ）及（ホ）今中常三郎金品贈與ノ所爲ハ孰レモ同被告單獨ノ犯行ニ係ル然ラハ原判決ハ前掲記ノ如ク被告興文ノ犯罪中共謀ニ出ツル（イ）及（ロ）ノ罪ニ對シテハ相當ノ處斷法條ヲ適用シタルモ（ハ）以下其ノ單獨犯行ニ付テハ遂ニ全然擬律ヲ遺脱シタルモノニシテ正シク破毀ヲ免レサル違法アリト信スト云フニ在リ

【決定理由】仍テ原判決ノ法律適用ノ點ヲ審査スルニ原判決ノ確定シタル被告人池田興文ノ犯罪事實ハ判示第十六（イ）（ロ）ノ他人ト共謀シテ贈賄シタル所爲並同（ハ）（ニ）（ホ）ノ孰レモ單獨ニテ贈賄シタル所爲ナリトスルモノニ拘ラス原判決ノ法律適用ノ部分ニ於テハ右共謀贈賄ノ所爲ニ付刑法第六十條同法第百九十八條第一項及同法第五十五條ヲ適用シタルニ止マリ右判示ノ單獨贈賄ノ所爲ニ付テハ全然之カ法律ノ適用ヲ爲スコトナキヲ以テ原判決ハ罪ト爲ルヘキ事實ニ對シ其ノ擬律ヲ遺脱シタル理由不備ノ不法アルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レス論旨理由アルモノトス

以上ノ理由ナルニ依リ被告人池田興文ノ上告理由アルヲ以テ原判決中同被告人ニ關スル部分ハ刑事訴訟法第四百四十七條ニ則リ之ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ則リ當院ニ於テ直ニ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ原判決ノ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ同被告人ノ判示所爲中他人ト共謀シテ贈賄シタル點ハ各刑法第六十條第百九十八條第一項ニ單獨ニテ贈賄シタル點ハ各同法第百九十八條第一項ニ該當スルトコロ以上ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シテ一罪トシ所定刑中懲役刑ヲ選擇シテ其ノ刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役三月ニ處シ同法第二十一條ニ則リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス爾餘ノ各被告人ニ對シテハ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ孰レモ上告ヲ棄却スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

昭和十一年十二月十一日

大審院第四刑事部、裁判長判事宇野要三郎
判事 沼 義雄　判事 駒田 重義
判事 吉田常次郎　判事 十川寛之助

●間接ノ利害問題ト政見發表ノ妥當性

縣會議員選擧運動ニ當リ主トシテ國家又ハ府縣一般ノ政策ニ關スル問題論議シタルニ止ルトキハ縱令延テ市町村等ノ地方的若ハ個人的利害ニ影響ヲ及ホスコトアルモ違法性ナシ

昭和十一年(れ)第一〇三五號

決定

本籍並住居 神戸市兵庫區三川口町一丁目官有地
範國寺内
僧侶 中野 文門
（明治三十四年三月三十日生）

右縣會議員選擧罰則違反被告事件ニ付昭和十一年三月二十四日神戸地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ當院ハ檢事秋山要ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】辯護人藤村和夫上告趣意書第一點本件ハ罪トナラサル事實ニ不法ニ法ヲ適用シタル違法アリ原判決ハ被告人ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル兵庫縣會議員選擧ニ際シ同月六日神戸市兵庫區ヨリ立候補シタル者ナル所自己ノ選擧演說會場ニ於テ聽衆ニ對シ神戸市ノ兒童ハ一人ニ付一ケ月四十錢ノ授業料ヲ收メ居ルカ授業料ヲ改ムル事能ハサル貧困者ノ兒童ノ童心ニ及ホス影響ヲ考フル時ハ寒心ニ堪ヘス縣知事ニ嘆願シテ他ノ稅金ヲ取ルモ授業料ノ徵收ヲ認可セサル樣努力スヘキヲ以テ後援及同情サレ度キ旨演說シタル事實カ聽衆タル選擧人ニ對スル特殊直接ノ利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルモノナリトシ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第百十二條第一項第二號ニ該當スルモノナリト判示ス然レトモ右事實ハ左ノ理由ニヨリ該規定ニ該當セスシテ何等罪トナラサル行爲ナリト信ス第一先ツ該規定ニヨル選擧人トハ本件ニ於テ何人ヲ指稱スルヤ考フルニ三部制ノ布カレアル兵庫縣ニ於テ而モ市内ヲ更ニ八區ノ選擧區ニ分チアル神戸市ニ於テ縣會議員選擧ニ當リ其ノ選擧人トハ兵庫縣全部ノ選擧人又ハ神戸市全部ノ選擧人ヲ指稱スルニ非スシテ只被告ノ立候補シタル兵庫區ノ選擧人ヲ指稱スルモノニ外ナラス即チ選擧人トハ一定ノ選擧區間ニ生活ノ本據ヲ有シ選擧權ヲ有スル者ヲ指稱スル事ハ御院昭和五年一月十八日御判決（昭和四年(オ)第七六六號）ニヨリテモ明カナリ而シテ神戸市ハ昭和十年四月二十日勅令第八十七號ニヨリ府縣制第四條ニ云フ市ニ指定セラレタルヲ以テ神戸市選擧區ハ區ノ區域ニヨルモノニシテ現在神戸市ハ八區ニ分レ（市制第八十二條第三項）八選擧區アルモノニシテ本件ニ於テモ被告ノ選擧區ハ右八區内ノ兵庫區ナル事明示セラレ居ル所ナルヲ以テ本件ニ於ケル選擧人トハ兵庫縣又ハ神戸市全部ノ選擧人ヲ指稱スルモノニ非スシテ兵庫區ノ選擧人ノミヲ指稱スルコト之又極メテ明白ナリ果シテ然ラハ神戸市ノ尋常小學校ノ授業料ノ免除カ神戸市全區ノ選擧人ニ特殊直接ノ利害關係アリト假定スルモ未タ以テ被告ノ選擧區タル兵庫區ノ選擧人ニ特殊直接ノ利害アリト云フヲ得ス即チ神戸市ニハ五十六ノ尋常小學校アルモ被告ノ選擧區タル兵庫區ニハ其ノ中ノ九校存置セラルルノミニテ且神戸市ノ尋常小學校兒童數ハ十萬七百七十五人ナルニ被告ノ選擧區タル兵庫區ノ兒童數ハ其ノ中一萬七千九十七人ニ過キサレハナリ第二、原判決援用ノ規定ハ主トシテ各選擧人個人的ニ特殊直接ノ利害關係ヲ利用スル行爲ヲ罰スルモノニシテ本件ノ如ク演說ニヨリ稅金或ハ授業料ノ如キ性質ノモノニ對シ自己ノ信念ヲ述ヘ其ノ徵收ノ撤廢ヲ主張スル所謂純然タル政見ニ之ヲ該當セシムル事ハ特殊ノ場合ヲ除ク外極メテ不當ナリトス況ンヤ尋常小學校ニ於ケル授業料ノ徵收ハ小學校令第五十七條ニ於テ原則的ニ之ヲ否定シ授業料其ノモノノ本質ハ往昔ノ束修ノ如キ道德的意義ヲ失ヒ自治體ニ於ケル財源トシテ一種ノ間接稅化シタルモノナレハ被告ノ本件演說ノ要旨即チ「他稅ヲ取ルモ授業料ハ撤廢スヘシ」トノ主張ハ政策的ニ之ヲ見レハ一種ノ稅制改廢案ニシテ各種議員選擧ニ於テ各候補者カ發表スヘキ事ヲ許サレ居ル純然タル所謂政見ニ外ナラス而モ被告ハ其ノ選擧區タル兵庫區ノ小學校ノ授業料撤廢ヲ主張シタルモノニ非スシテ全神戸市並兵庫縣全部ニ亘ル尋常小學校ノ授業料撤廢ヲ主張シタルモノナレハ其ノ選擧區並選擧民ニ特殊直接ノ利害關係ヲ利用シタル事實毫モ無之次第ナリ若シ本件ノ如キ國民全般若クハ縣民乃至市民ニ對シ一般的利害關係アル政策演說ヲ特殊直接ノ利益誘導ニ該當スルモノトセハ政見發表ハ全ク無意義トナリ單ナル空漠ナル抽象論ト投票ノ依頼ノ辭ニ終ルヘシ又斯ル政見ノ發表ニ臨ミ演說ヲ聽取シテ投票ヲ爲シタル選擧人ハ同條第四號ノ所謂誘導ニ應シタルモノトシテ處刑セラルル事トナリ非常ナル不合理ノ結果ヲ招來スル事ヲ虞ルルモノナリト云ヒ

辯護人野田文一郎野田實治上告趣意書第二點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存スルモノト思料ス即チ原判決ハ上告人カ判示ノ如キ神戸市小學校授業料撤廢ニ關スル演說ヲ爲シタル事實ヲ認定シ之ヲ目シテ特殊且直接ノ利害關係ヲ利用シテ選擧人ヲ誘導シタリト爲シ利害關係利益誘導ノ罪ニ問擬シタリ然レトモ上告人ハ單ニ神戸市ノミノ小學校ノ授業料ノ撤廢ヲ主張シタルモノニ非スシテ兵庫縣下一般ノ小學校ノ授業料撤廢ヲ主張シタルモノナルコトハ一、司法警察官代理巡査部長益崎源二作成ノ上告人ニ對スル聽取書中演說ノ要旨トシテ「兵庫縣ハ裏ハ日本海ニ面シ東ハ鳴門海峽ヲ控ヘ太平洋ニ接スル五市十五郡ヲ有スル大縣ニシテ社會ノ爲ニ盡ササル可カラサル大縣ナレハ種々ナル問題アリ貿易輸出入ニ關スル問題港灣問題及之ニ關スル治水問題國立公園問題等アリ就中私ノ最モ重要視スルハ縣下二十萬ノ兒童ノ義務教育ニ關スル問題即チ兒童ノ義務教育ニ對スル月謝撤廢問題ナリ」トノ記載一、司法警察官代理巡査部長佐々木動作成ノ聽取書中私ハ國民全般ニ亘ル小學兒童ノ義務教育ヲ考ヘタルモノニシテ神戸市ノ學童ノミノ利益ヲ考ヘタルモノテハナク授業料撤廢ニ依リ國民ノ精神ヲ擁護シ全國兒童ノ精神教育ヲ主張シ精神教育ノ上ニ（中略）ノ目的ナリシ旨ノ記載一、第一審第一回公判調書中上告人ノ供述トシテ私ハ市會議員選擧ノ時ハ神戸市ニ關スル事ヲ演說シタルモ縣會議員選擧ノ時ハ縣下全般ノ事ヲ演說シタル旨ノ記載一、同第二回公判調書中上告人ノ供述トシテ私ハ小學兒童ノ授業料撤廢ノ演說ヲ爲シタルコトハ相違ナキモ小學兒童ノ精神教育ヲ主眼トシテ置キタルモノニシテ右授業料撤廢ヲ主張シテ自己ノ投票ヲ得ルカ如キ意思ハナカリシ旨ノ記載一、第二審第一回公判調書中上告人ノ供述トシテ神戸市ノミノ小學校ノ授業料撤廢ヲ叫ヒタルモノニ非スシテ縣下二、三ノ小學校ノ例ヲ引キ縣下ノ小學校ノ授業料全廢ヲ叫ヒタルモノナル旨ノ記載一、別紙附屬書類第一

ノ「縣民各位謹んで立候補の御挨拶を申上ます」ト題スル上告人ノ立候補ノ挨拶狀中「主張」ナル見出ノ下ニ「國家非常の秋兵庫縣政亦多事多難（中略）特に縣民生活權の擁護治水事業の根本策樹立教育界の綱紀振肅小學校授業料の全廢（中略）縣治の上に改廢促進を要す可き事實に多し小生縣民各位の平素の主張を主張として明朗なる縣政の樹立云云」ナル記載等ヲ綜合スレハ極メテ明白ナリ尤モ原判決擧示ノ證據ニ依レハ上告人カ神戸市ノミノ小學校ノ授業料撤廢ヲ主張シタル事實ヲ認定スルニ難カラス且證據ノ取捨判斷ハ原審ノ職權ニ屬スル所ナリト雖前示第一點ニ於テ叙述シタルカ如ク衆議院議員選擧法ニ所謂特殊且直接ノ利害關係アリヤ否ヤハ客觀的ニ斷定セラルヘキモノニシテ單ニ被告人ノ供述乃至演說ノ趣旨ノミニ依リ決セラルヘキモノニ非ス況ンヤ右小學校授業料撤廢問題ハ殆ント兵庫縣下ノ全市町村ニ關スルモノニシテ一神戸市乃至兵庫區ノミノ問題ニ非サルコト叙上說示ノ如キ本件ニ在リテハ單ニ上告人カ神戸市ノ小學校ノ授業料撤廢ノ演說ヲ爲シタリトノ事實ノミニテ直ニ特殊且直接ノ利害關係アリト爲スヲ得サルコト勿論ナリ然ルニ原判決ハ叙上ノ如キ有力ナル證據ヲ無視シ其ノ擧示ノ如ク上告人ノ供述乃至演說ノ趣旨ニ關スル證據ノミニ依リ上告人ハ神戸市小學校授業料ノ撤廢ヲ演說シタリト認定シ直ニ特殊直接ノ利害關係利用誘導ノ罪ニ問擬シタルハ畢竟市制第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選擧法第百十二條第二號ノ解釋ヲ誤リ重大ナル事實ノ誤認ヲ爲シ且擬律錯誤ノ違法アルヲ以テ破毀セラルヘキモノト思料スト云ヒ

辯護人金光邦三上告趣意書第一點原審判決ニヨレハ被告ハ昭和十年九月二十五日施行ノ兵庫縣會議員選擧ニ神戸市兵庫區ヨリ立候補シ同市同區中道通九丁目西林寺ニ於テ開催シタル自己ノ選擧演說會場ニ於テ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ同區ノ選擧人田中德一郎外有權者多數ヲ混ヘタル數十名ノ聽衆ニ對シ又同日同區上澤通六丁目千光寺ニ於テ開催セラレタル自己ノ選擧演說會場ニ於テ前同樣ノ目的ヲ以テ同區ノ選擧人渡邊幸作外有權者多數ヲ混ヘタル聽衆ニ對シ神戸市內兒童ノ授業料ノ徵收ニ關スル知事ノ認可ヲ爲サシメサル趣旨ノ演說ヲ爲シタリトシ右授業料ヲ徵收セシメサル樣努力スル旨ノ演說ハ前記田中德一郎渡邊幸作等選擧人ニ對スル特殊直接ノ利害關係ヲ誘導シタルモノナリト判示セラレタルモ田中德一郎渡邊幸作其ノ他ノ聽衆タル選擧人カ神戸市內ノ小學校ヘ自己ノ子弟ヲ通學セシメ現ニ授業料ヲ納付セシメラレツツアル者ナルトキハ授業料徵收ヲ免ルルコトニヨリテ初メテ同人等ニ於テ之ヲ特殊直接ノ利害關係ト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ果シテ然ラハ右選擧人等カ小學校兒童タル子弟ヲ有スル父兄ナルコトヲ要シ且被告カ之ヲ認識シタルモノニ非サレハ彼等ノ特殊直接ノ利害關係ヲ利用シテ誘導シタルモノナリトノ犯意ヲ缺クモノニシテ罪トナラサルモノト謂ハサルヘカラス原判決ハ此ノ點ニ關スル被告ノ認識アリシヤ否ヤヲ問ハサリシハ明カニ重大ナル事實ノ誤認アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノナリト云フニ在リ

【判決理由】仍テ記錄ヲ精査スルニ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトヲ認ム

仍テ爾餘ノ論旨及其ノ他ノ辯護人ノ論旨ニ付テハ其ノ說明ヲ須ヒス

以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十一年九月十八日

大審院第四刑事部、裁判長判事宇野要三郎
判事 江崎定次郎　判事 沼 義雄
判事 駒田 重義　判事 日下 巖

昭和十一年（れ）第一〇三五號

判決

本籍並住居 神戸市兵庫區三川口町一丁目官有地
範圍寺內僧侶
中野文門
（明治三十四年三月三十日生）

右縣會議員選擧罰則違反被告事件ニ付昭和十一年三月二十四日神戸地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シ當院ハ同年九月十八日事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ノ決定ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】原判決ヲ破毀ス

被告人ヲ無罪トス

【理由】辯護人藤林和夫上告趣意書第一點辯護人野田文一郎、野田實治上告趣意書第二點辯護人金光邦三上告趣意書第一點ノ論旨理由アルコトハ前揭當院ノ決定ニ於テ說明スル如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ基キ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ審按スルニ本件公訴事實ハ被告人中野文門ハ昭和十年九月二十五日施行ノ兵庫縣會議員選擧ニ際シ同月六日神戸市兵庫區ヨリ立候補シタルモノナルカ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ犯意繼續ノ上同月十四日同區中道通九丁目西林寺並區上澤通六丁目千光寺ニ於テ各選擧演說會ヲ開催シ西林寺ニ於テハ同區ノ選擧人田中德一郎外六十名千光寺ニ於テハ同渡邊幸作外約六十名ノ各聽衆ニ對シ「神戸市內ノ小學校兒童ハ每月四十錢ノ授業料ヲ徵收セラレ居ルトコロ元來小學校令第五十七條ハ授業料ヲ徵收セサル原則ヲ規定シ居ルカ例外トシテ特別ノ事情アルトキハ市ニ於テ每月二十錢ヲ限度トシテ之ヲ徵收シ得更ニ尙特別ノ事情アルトキハ市ハ一年ヲ限度トシ縣知事ノ認可ヲ得テ二十錢以上ヲ徵收スルコトヲ得ル旨ノ規定アルヲ以テ神戸市ハ每年此ノ超特別ノ理由ノ下ニ知事ノ認可ヲ得テ右四十錢ノ授業料ヲ徵收シ居ルモノナルモ同市ハ他ノ五大都市ニ比シ經濟カ著シク劣レルモノニ非サルニヨリ他稅ヲ取ルトモ小學兒童ノ精神教育ノ意味ヨリスルモ右授業料ヲ全廢スヘキモノナレハ自己カ當選ノ曉ニ於テハ縣知事ニ嘆願シテ之カ全廢ヲ期スヘキヲ以テ選擧期日ニハ自己ノ爲絕大ナル御後援ヲ賜リ度キ」旨演說シ以テ前記田中德一郎等聽衆ノ關係アル小學校ニ對スル特殊直接ノ利害關係ヲ利用シテ同人等ヲ誘導シタルモノナリト云フニ在レトモ

【判決理由】審理ノ結果ニ依レハ被告人カ昭和十年九月二十五日施行セラレタル兵庫縣會議員選擧ニ際シ同月六日神戸市兵庫區ヨリ立候補シ同月十四日同市同區中道通九丁目西林寺及同區上澤通六丁目千光寺ニ於テ各開催セラレタル自己ノ選擧演說會場ニ於テ孰レモ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ夫々同區ノ有權者多數ヲ混ヘタル聽衆ニ對シ演說ヲ爲シタルコトハ其ノ證明アルモ右演說ノ趣旨ハ候補者タル被告人カ其ノ主義政見ヲ發表スルニ當リ國家若ハ兵庫縣全般ノ政策ニ關スル小學校授業料ノ全部撤廢ヲ主張論議シタルモノニシテ單ニ神戸市ノミノ小學校授業料ノ廢止ヲ論議シタルモノニ非サルコトヲ推認シ得ヘク從テ斯ハ如ク被告人カ其ノ主義政見ヲ發表スルニ當リ主トシテ國家若ハ府縣一般ノ政策ニ關スル問題ヲ論議シタルモノナル以上縱令延テ市町村等ノ地方的若ハ個人的利害ニ影響ヲ及ホスコトアリトスルモ之カ爲ニ縣會議員選擧罰則違反ヲ以テ論スヘキモノハニ非サルハ固ヨリ當然ナリ要スルニ本件ニ於テハ被告人カ前記兵庫縣會議員選擧ニ際シ其ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ其ノ選擧區內ノ選擧人等ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル學校ニ對シ特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタル事實ハ之ヲ認ムヘキ證明ナキニ歸ス

仍テ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事秋山要關與

昭和十二年十二月十八日

大審院第四刑事部、裁判長判事宇野要三郎
判事 沼 義雄　判事 駒田 重義
判事 吉田常次郎　判事 十川寬之助

●授業料撤廢問題ト政見發表ノ妥當性

縣會議員選擧ニ於テ管內市ノ小學校授業料撤廢問題ヲ論シ其ノ政見カ偶其ノ地方ニ於ケル利害又ハ個人的利害ニ關係スル結果トナル場合アリトスルモ之ヲ以テ衆議院議員選擧法第百十二條第一項第二號ニ該當スルモノト爲スヲ得ス

昭和十一年（れ）第一一五八號

決定

本籍 神戸市林田區吉田町三丁目五番地
住居 同市兵庫區中之島埋立地
會社員 鹽住眞太郎
（明治三十五年十二月十日生）

右縣會議員選擧罰則違反被告事件ニ付昭和十一年四月六日神戸地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ當院ハ檢事平井彥三郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】辯護人赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ罪ト爲ラサル所爲ニ對シテ刑ヲ科シタル違法アルモノナリ原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ「被告人ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル兵庫縣會議員選擧ニ際シ同月四日神戸市兵庫區ヨリ立候補シタル者ナルトコロ同月十八日兵庫區內水木尋常小學校竝十九日同區內大開尋常小學校ニ於テ開催シタル右演說會ニ於テ犯意繼續ノ上自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ孰レモ同區ノ選擧人多數ヲ混ヘタル聽衆ニ對シ小學兒童ノ義務教育ニ授業料ヲ徵收セル都市ハ神戸市以外ニハ關東大震災直後復興費ニ窮シテ每月金二十錢ヲ徵收セル橫濱市アルノミニシテ神戸市ハ義務教育國庫負擔ノ輿論ニ逆ヒ每月金四十錢ノ多クヲ徵收シ縣當局カ之ニ認可ヲ與ヘ居ルハ大ナル誤ニシテ同市ハ財政狀態ヨリスルモ右授業料ハ絕對ニ撤廢スヘキモノト信ス自分ノ縣會議員在任中會テ此ノ問題カ縣會ニ於テ論議セラレタルコトアリ自分カ再ヒ縣政ニ參與スルコトヲ得レハ從前ノ經驗ニ基キ愈々皆樣ノ爲盡力シ度キ希望ナルニ付御聲援ヲ乞フ趣旨ノ演說ヲ爲シ以テ前記選擧人ニ對スル特殊且直接ノ利害關係ヲ利用シ同人等ヲ誘導シタルモノナリ」ト判示シ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第百十二條第一項第二號刑法第五十五條ヲ適用シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタリ然レトモ小學教育ハ國ノ事務ニ屬シ判示授業料徵收ノ認可權ハ府縣知事ニ委セラル次第ナルヲ以テ右授業料徵收認可ノ當不當ヲ論スルハ府縣知事ニ委セラレタル國政ノ當否ヲ論スルモノニシテ決シテ判示選擧ニ於ケル選擧人ノ特殊ノ直接利害關係ヲ利用スルモノトハ云フヘカラス若シ斯ル如キ事項ヲ以テ判示罰條ニ該當スルモノトセンカ衆議院議員選擧ニ於テ商工業者ノ如キ都市ニ於テ營業稅ノ撤廢ヲ主張シ農民ノ多キ地方ニ於テ地租ノ輕減ヲ論スルカ如キ皆以テ右罰條ニ該當スルモノト謂ハサルヲ得サルヘシ尙上告人ノ主張セル授業料徵收ハ獨リ上告人ノ選擧區ニ於ケルノミノ問題ニアラス神戸市全般ヲ其ノ論議ノ對照トセルモノナルヲヤ然ルニ原判決カ右上告人ノ所爲ニ對シ前示法條ヲ適用シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ違法ニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云ヒ

第二點上告人ノ所爲假リニ判示罰條ニ該當スルモノナリトスルモ上告人ノ演說ハ上告人カ過去ニ於テ縣會議員トシテ其ノ議場ニ於テ論議シタル問題ヲ報告シ之ニ關聯シテ爾後該主張ヲ維持スヘキ旨演說セルモノニ係リ且其ノ主張內容モ洵ニ正論ニシテ而モ普通當然ノ事項ニ屬シ毫モ惡ムヘキ處ナク唯演說ノ內容ニ注意ノ足ラサリシ點アリト云フヘキニ過キサルモノナリ加之上告人ハ前途アル少壯有爲ノ士ニシテ之ニ對シ五年ノ永キ各種選擧ニ於ケル選擧權被選擧權ヲ奪フカ如キハ甚タ酷ニ失スルモノニシテ原判決ハ此ノ點ニ於テ量刑過重ノ違法アリ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

【決定理由】仍テ審按スルニ原判決ハ被告人カ兵庫縣會議員選擧ニ際シ神戸市兵庫區候補者トシテ其ノ政見發表演說會ニ於テ小學兒童ノ義務教育ニ付神戸市ハ每月四十錢ノ授業料ヲ徵收スルモ斯ノ如キハ義務教育費國庫負擔ノ輿論ニ逆フモノニシテ授業料ハ絕對ニ撤廢スヘキモノナリト信スル旨ノ演說ヲ爲シタルヲ目シテ特種且直接ノ利害關係ヲ以テ選擧人ヲ誘導シタルモノト爲シタルモ右事實認定ニハ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認ム仍テ刑事訴訟法第四百三十四條第三項第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十一年九月十八日

大審院第四刑事部、裁判長判事宇野要三郎
判事 江崎定次郎　判事 沼 義雄
判事 駒田 重義　判事 日下 巖

昭和十一年（れ）第一一五八號

判決

本籍 神戸市林田區吉田町三丁目四一番地
住居 同市兵庫區中之島埋立地三號
會社員 鹽 住 眞太郎
（明治三十五年十二月十日生）

右縣會議員選擧罰則違反被告事件ニ付昭和十一年四月六日神戸地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シ當院ハ同年九月十八日事實審理ノ決定ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス
被告人ハ無罪

【理由】 本件上告ノ理由アルコト前掲當院ノ決定ニ於テ説明シタルカ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ則リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ依リ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス

仍テ審按スルニ本件公訴事實ハ被告人ハ昭和十年九月二十五日施行ノ兵庫縣會議員選擧ニ際シ同月四日神戸市兵庫區ヨリ立候補シタルモノナルカ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ犯意繼續ノ上同月十八日同區水木通九丁目水木尋常小學校同月十九日同區大開通四丁目大開尋常小學校ニ於テ各選擧演説會ヲ開催シ水木尋常小學校ニ於テハ同區ノ選擧人鷲尾象松外約六十名大開尋常小學校ニ於テハ同渡邊幸作外約三十名ノ各聽衆ニ對シ「小學兒童ノ義務教育ニ授業料ヲ徵收セル所ハ神戸市以外ニハ關東大震災直後復興費ニ窮シテ毎月二十錢ヲ徵收セル横濱市アルノミニテ神戸市ハ義務教育費ハ國庫負擔トノ輿論ニ逆行シテマテモ毎月四十錢ノ多クヲ徵收セルカ縣當局カ之ヲ認可セルハ大ナル過誤ナリ殊ニ貧民階級程兒童多キモノニテ國民ノ義務ヲ果サシメル爲之ニ無謀ナル負擔ヲ強ヒルハ社會問題ナレハ曾テ縣會ニ於テモ當局者トノ間ニ質疑應答アリタル位ナルヲ以テ市ノ財政行詰レリトハ云ヘ之位ノ事ハ如何樣ニモナルモノナレハ此ノ授業料ハ絶對ニ撤廢スヘキモノト信ス自己ハ過去四ケ年縣會議員トシテ縣政ニ參與シ經驗ヲ得タレハ之ニ基キ將來自己ノ宿望ヲ達スヘク善處致シ度キニ付絶大ナル御聲援ヲ得度キ」旨演説シ以テ前記鷲尾象松等聽衆ノ關係アル小學校ニ對スル特殊直接ノ利害關係ヲ利用シテ同人等ヲ誘導シタルモノナリト謂フニ在レトモ

【判決理由】 審理ノ結果ニ依レハ被告人カ公判請求書記載ノ選擧ニ際リ議員候補者トシテ同記載ノ日時場所ニ於テ選擧人ヲ包含セル聽衆ニ對シ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ演説ヲ爲シタルコトヲ認メ得ヘキモ右演説ノ趣旨ハ義務教育費問題ニ關シ神戸市其ノ他ニ於ケル小學校授業料徵收ノ制度ヲ不當ナリトシ之カ撤廢ヲ期セントスル自己ノ政見ヲ發表シタルニ外ナラサルモノト認ムヘク且兵庫縣下ニ在リテモ小學校ノ授業料ヲ徵收スルハ單リ神戸市ノミニ止ラス姫路市其ノ他ノ市及町ニ於テモ行ハレ居レルコト明ナルカ故ニ該授業料撤廢問題ハ必スシモ神戸市ニ於ケル選擧人又ハ其ノ者ノ關係アル學校ニ對スル特殊直接ナル利害關係ト謂フヲ得サルモノト認ムヘク從テ右政見ノ發表カ偶其ノ地方ニ於ケル利害又ハ個人的利害ニ關係スル結果トナル場合アリトスルモ之ヲ以テ衆議院議員選擧法第百十二條第一項第二號ニ該當スルモノトスルヲ得サルハ當然トス結局本件ニ於テ被告人カ右演説ニ依リ特殊直接ナル利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタリトノ公訴事實ハ之ヲ認ムヘキ證明ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第四百七條第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彥三郎關與
昭和十一年十二月十八日
大審院第四刑事部、 裁判長判事 宇野要三郎
判事 沼 義雄　判事 駒田重義
判事 吉田常次郎　判事 十川寛之助

●福岡縣令第三十八號青果市場類似ノ營業

昭和五年福岡縣令第三十八號青果市場規則第一條第二項ニ所謂市場類似ノ營業トハ單ニ卸賣取引ヲ爲スコトヲ指スニ非ス少クトモ販賣人購買人カ一定ノ場所ニ集合スルコトヲ以テ必須ノ要件ト爲スモノト解スヘシ

昭和十一年（れ）第二七九號

決定

本籍 島根縣美濃郡吉田町大字久城七百三十九番地
住居 福岡縣嘉穂郡山田町大字上山田九百三十四番地ノ三
青果卸商 福原龜市
（明治三十四年七月六日生）

右福岡縣令青果市場規則違反被告事件ニ付昭和十年十一月三十日福岡地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事秋山要ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人品川英一、金原藤一上告趣意書原判決ハ被告人ノ青果卸賣營業行爲ヲ以テ福岡縣令昭和五年第三十八號（昭和六年十二月十七日同縣令第五十九號ヲ以テ第一條改正）青果市場規則第一條第二項後段ニ所謂類似營業ナリト斷シ其ノ第十四條ヲ適用科料刑ヲ以テ處斷シタリト雖右規則ニ於テハ如何ナルモノヲ市場ト云ヒ又如何ナル營業ヲ類似營業ト云フカニ付テハ何等ノ説明ヲ與ヘサレハ所謂市場ナル觀念及類似營業ナルモノノ觀念ハ學說並ニ實驗法則ニ徵シ究明スルノ外ナシ而シテ今學者ノ所設ヲ見ルニ市場ナル語ニ廣狹二義アリ狹義ニ於テハ一定ノ時一定ノ場所ニ賣主買主集合シテ貨物ノ賣買ヲ爲ス時其ノ具體的組織ヲ指シテ市場ト云フモノニシテ廣義ニ於テハカカル具體的組織ノミナラス又賣買ノ行ハルル總テノ社會關係ヲ指稱スルモノナリ（國際市場金融市場生糸市場ノ如シ）（岩波版法律學辭典第二卷一一〇四頁以下東大田中助教授所設參照）ト說明シ經濟學者モ亦同一ノ見解ヲ支持シ前者ヲ具體的（組織的持續的地方的）市場後者ヲ抽象的市場ナル語ヲ以テ表現シ居ルモノナリ（福田敬太郎著市場論一頁二頁參照）而シテ福岡縣令ニ所謂市場モ亦前者即チ具體的市場ヲ指スモノタルコトハ明白ナルヲ以テ今此定義ニ從ヒ市場タルノ構成要素ヲ分說スレハ（一）一定ノ場所ニ於テ賣買取引ノ行ハルルコト一定ノ場所カ市場構成要件ノ一タルコトハ學者ノ等シク認ムルトコロタルノミナラス市場ニ關スル諸法令又總テ然リ例ヘハ中央卸賣市場法（大正十二年法律第三二號）正米市場規則（昭和五年商工省令第四號）等ノ中央法令ハ總テ一定ノ場所タル前提ノモトニ市場ヲ規定シ福岡縣令類似ノ長崎縣令市場取締規則（大正七年十二月六日縣令第四十七號）ノ如キハ明白ニ第一條ニ於テ「本令ニ於テ市場ト稱スルハ多數ノ賣方及買方カ水産物（製造品ヲ除ク）蔬菜又ハ果實ノ取引ヲ爲スニ要スル一定ノ場所ヲ云フ」ト規定シ山口縣令青物市場取締規則（昭和五年山口縣令第三六號）モ亦第一條ニ於テ「本則ニ於テ青場市場ト稱スルハ一定ノ場所ニ於テ毎日又ハ定期ニ蔬菜果物及其ノ加工品ノ賣買取引ヲ行フ市場ヲ云フ」ト定メ其立言ノ方法皆相等シ而シテ經濟學者ノ所設モ同樣ニシテ「市場ニハ一ツノ市場中心トソレカ支配スルトコロノ一定ノ市場範圍トカ市場中心カ活動スルトコロノ一定ノ市場時間トカアル市場中心トハシエボンズノ所謂「市場ノ中心點」(THE CENTRALPOINT OE MARKET)ノコトテアル市場中心ハ細胞ニ於ケル核ノ樣ナモノテソレカナケレハ市場カ市場トシテノ生命ヲ有シナイ」ト說明セリ福岡縣令（昭和五年青果市場規則第三十八條第一條）青果市場ノ如何ナルカヲ示スニ方リ直接之ヲ明示セサルト雖道ハ場所ノ不定ヲ容認タルカ故ニアラス此コトタルヤ市場ノ觀念上當然ナルカ故ニ殊更ニ之ヲ明示スル必要ナカリシカ爲ナリ蓋同規則第三條中「市場ノ名稱及位置」「市場內ノ秩序維持及淸潔保持ノ方法」ニ關スル事項」第七條中「市場ノ設備竣工シタルトキ」第八條中市場ヲ讓渡セムトスルトキ云々」第十二條「市場ノ構造設備云々」及各條ニ於テ市場開設云々ト規定スルニ徵スルモ一定ノ場所ヲ以テ市場構成ノ一要件トシ之ヲ前提ト爲シタルコトヲ窺知スルニ十分ナリトス（二）一定ノ時タルコト福岡縣令ニ依レハ「毎日又ハ定期」ナル語ヲ以テ一定ノ時タルコトヲ表示スルコト前述山口縣令又ハ兵庫縣市場取締規則第一條（福田教授前掲市場論一頁參照）等ト同シク經濟學者ノ所謂具體的市場ニツキ其ノ發達ノ過程ニ從ヒ年市週市日限等ノ別名ヲ與ヘ居レルト相一致スルモノニシテ市場本來ノ性質タルコト明カナルヘシ由來市場ナルモノハ我國ニ於テハ所謂「市」ヨリ西歐諸國ニ於テハ所謂「會所」ヨリ發達シ來リタルモノニシテ「市」ト云ヒ「會所」ト云フモ孰レモ一定ノ時一定ノ場所ニ多數集合シテ賣買ノ行ハレタルモノニシテ一定ノ時タルヲ要スルハ「市」又「會所」成立ノ必須條件タリシモノナリ（前掲市場論一二頁以下並同教授著市場研究第一卷三八一頁以下參照）（三）多數集合スルコト福岡縣令第一條二項ニハ「販賣人又ハ購買人集合シテ」云々ト規定セリ凡ソ集合ナル語ハ多數不足ノ人々カ相接觸スルコトヲ意味シ賣方一人買方一人相對峙スルモ之ヲ目シテ集合ナリト云フヘカラサルコトハ多ク言ヲ須ユルノ要ナシ而シテ市場ノ性質上多數不定ノ賣方買方カ一定ノ場所ニ集合シテ賣買取引ヲ爲スニアラサレハ市場行爲タルヲ得サルハ勿論ニシテ即チ多數集合スルコトハ市場行爲成立ノ一要件ニシテ所謂多數トハ如何ナル人員ヲ指稱スルヤ其ノ意必ラスシモ明確ナリト云フコトヲ得サレトモ二人若シクハ三人カ寄合フトモ之ヲ目シテ多數集合ナリト云ヒ得サルハ洵ニ明白ナリ福岡縣令第一條ハ前段ニ於テ多數集合ト云ヒ後段ニ於テハ「販賣人又ハ購買人集合シテ云々公衆ニ對シ青果ノ卸賣取引ヲ爲スモノ及此等類似營業ヲ爲スモノハ」ナル語ヲ用ヒ居ルニ徵セハ偶々二人若シクハ三人カ寄合フコトアリト雖右規則ニ所謂多數集合ト云フコトヲ得サルヤ明白ナリ（四）競賣ノ方法ニヨルコト福岡縣令ハ「競賣方法ニヨリ」ナル條件ヲ明白ニ規定シアルヲ以テ競賣ノ方法カ市場ノ一構成要件ナルコトハ敢テ論スル迄モナカル以上市場構成ノ四要素ニ付究明シタル結果市場ノ本質果シテ右ノ如シトセハ市場類似行爲トハ如何ナルモノヲ指スヲ妥當トスルヤ理想的ニ考察スレハ市場ノ本質中一要素ヲ具備スレハ直ニ以テ市場類似行爲ト云フヲ得ヘキカ如キモ右四要素ハ孰レモ互ニ索連シ不可分ノ關係ニアルモノト云フノ外ナシ即チ一定ノ時ニ非サレハ多數集合ナル觀念ヲ容ルル餘地ナク多數集合ナル觀念ヲ想定スルニハ必ラス二定ノ場所タルヲ要スヘク多數集合スルニ非サレハ糶又ハ競賣ヲ行フコト能ハサルモノナレハ右四要素中一要素ノミヲ具ヘタリト雖未タ以テ市場類似行爲ト目スヘキニ非ス然ラハ市場類似行爲ナル觀念ハ如何ニシテ之ヲ限定スルカ所謂類似行爲カ市場本來ノ職能ヲ阻害スルヤ否ヤ並ニ福岡縣令ノ取締ラントスル目的如何ニヨツテ判斷スルノ外ナシ然リ而シテ福岡縣令第一條第二項ハ「販賣人又ハ購買人集合シテ豫メ定メタル價格又ハ相對賣買其ノ他ノ方法ニヨリ相互間又ハ公衆ニ對シ青果ノ卸賣ヲ爲スモノ及此等類似ノ營業ヲ爲スモノハ青果市場ト看做シ本則ヲ適用ス」ト規定スコレニ依レハ本項前段ハ市場本來ノ職能ヲ阻害スヘキ類似行爲ノ例示トシテ掲ケラレタルモノト云フヘク市場本來ノ要素中「多數集合」ナル要素ヲ含ムノミナリ（第一條第二項前段カ類似行爲ノ例示トシテ掲ケラレタルモノナルハ昭和六年十二月十七日福岡縣令第五九號ヲ以テ第一條改正前ノ昭和五年七月一日附ノ第一條ニハ「本則ニ於テハ青果市場トハ左記各號ノ一ニヨリ蔬菜果實ヲ賣買取引スル爲開設スル市場ヲ云フ（中略）一、毎日又ハ定期ニ多數集合シテ競賣ノ方法ニヨリ青果ノ賣買取引ヲ爲スコト二、販賣人集合シテ豫メ定メタル價格又ハ相對賣買其ノ他ノ方法ニ依リ相互間又ハ公衆ニ對シ青果ノ卸賣取引ヲ爲スコト」ト規定セラレ第二項モ當然ノ市場行爲トナサレ居リタルモ市場本來ノ概念上當然ノ市場ト稱シ難キヲ以テ改正後市場ト看做ス旨規定シ類似行爲ノ一タルコトヲ明カニスルト共ニ初メテ「此等類似ノ營業ヲ爲スモノ」ナル文言ヲ挿入シタルニ徵シテモ明カナリ）而シテ多數集合スルカ故ニ保安衛生上ノ見地ヨリシテ之カ放任ヲ許ササルヲ以テ福岡縣令ノ主トシテ取締ラントスル警察上ノ見地ニ重點ヲ置キ第一條第二項後段「此等類似ノ營業」ナル語ハ直接ニ其ノ先行詞タル「卸賣取引ヲ爲スモノ」ノミヲ指スモノニ非スシテ前段公部即チ一例トシテ掲クレハ販賣人又ハ

購買人集合シテ豫メ定メタル價格又ハ相對賣買其ノ他ノ方法ニヨリ相互間又ハ公衆ニ對シ青果ノ卸賣取引ヲ爲スモノ換言スレハ即チ市場類似行爲ヲ指スモノト解スヘキモノナリト信ス文理解釋ヨリスルモ卸賣取引ノミヲ切離スヘキニ非スシテ販賣人又ハ購買人集合シテ卸賣取引ヲ爲スモノト解スヘキモノニシテ斯ク解セサルニ於テハ市場ノ意義ヲ全然沒却スルニ至ルヘシ何トナレハ卸賣行爲即チ市場類似行爲ナリト假定スレハ市場ノ本質タルヘキ一定ノ時一定ノ場所ニ於テ多數集合シ競賣又ハ糶ヲ行フト云フ觀念ヲ容ルル餘地全然ナシ即チ生産者カ自己ノ生産シタル物品ヲ大量ニ問屋ニ賣渡ス行爲ノ如キ所謂卸賣ニ外ナラサレハ直ニ市場類似行爲トシテ福岡縣令違反タルヘク問屋カ買付品ノ販賣タルト委託販賣タルトヲ問ハス既ニ價格決定シタル物品ヲ個別的ニ仲買人又ハ小賣人ニ賣渡ス行爲モ亦所謂卸賣行爲ナレハ總テ福岡縣令違反ト云ハサルヲ得サルニ至リ生鮮食料品ノ出荷又ハ配給ノ途ハ杜絶スルノ外ナシ而シテ本件ト相似タル山口縣令青物市場取締規則違反事件（御院刑事判例集第十二卷二二四九頁）並香川縣令食料品販賣市場規則違反（御院刑事判例集第十三卷九三頁）ニ付市場類似行爲トシテ判示セラレタル所孰モ卸賣行爲自體ヲ市場類似行爲トセラレタルニ非スシテ多數集合シ賣買値段ヲ連呼シ値段ヲ定メ糶又ハ競賣ノ方法ニヨル卸賣行爲ヲ以テ市場類似行爲ト判示セラレタルモノナリ只香川縣令食料品卸賣市場規則違反事件ニ於テハ昭和四年香川縣令第五五號同規則第十二條ニヨリ糶賣ヲ以テ絶體ノ要件トナササル旨規定セラレアルヲ以テ御院判示モ亦昭和四年香川縣令第五十五號食料品卸賣市場規則第三條ニ所謂市場ハ糶賣ノ方法ニ依ル賣買ヲ爲スコトヲ以テ其ノ絶體要件ト爲スモノニ非ス（前掲御院刑事判例集第十三卷九三頁參照）トセラレタルモノニシテソハ福岡縣令第一條第二項ニ「（前略）多數集合シ豫メ定メタル價格又ハ相對賣買其ノ他ノ方法ニヨリ」ト規定スルト全ク相等シ之市場ノ一要素タル多數集合ナル事實ナラハ他ノ市場要素タル競賣又ハ糶ノ方法ニ依ラサルモ市場類似行爲トシテ取締ラントスルモノニシテ半面各縣令ハ保安衞生等ノ見地ヲ重視スル結果多數集合ナル事實ニ特ニ着眼シ居レルヲ知ルニ足ルモノナリ翻テ本件被告人ノ行爲如何ヲ覈フルニ被告人ハ小賣商人ニ對シ其ノ注文ニ依リ小型自動車及リヤカーヲ以テ戸別ニ配達シ以テ青果ノ卸賣ヲ爲シ來ルモノニシテ偶々注文品ノ配達カ遲延シタルトキ或ハ注文品ノ品切等ノ場合ニ買主カ被告人方ニ來リ買受クルコトアルニ過キスシテ多數ヲ集合セシメ又ハ公衆ニ向テ青果ノ卸賣取引ヲ爲シタルニ非サルコトハ本件記録上容易ニ證明シ得ルトコロナリ即チ被告人カ高野警部補ノ取調ニ對シ「山田町警部補派出所ニ呼ハレマシテ古田警部補サンカラ御取調ヲ受ケマシタ其ノ時私ハ人ヲ集メテ商賣ハ致シテ居リマセヌ仕入レマシタ青果ヲ全部小賣商店ヘ配達シテ卸賣ヲ遣ツテ居ルノテアリマスト申述ヘテアリマス又實際其ノ通リ遣ツテ居ツタノテアリマス尚其ノ後トモ其ノ通リテアリマス處カ其ノ際警部補サンカラ斯樣ナ卸賣ノ仕方テ人ヲ集メヌノナラハ卸賣シテモ宜シカロウトノコトテアリマシタカラ其ノ後今日マテ青果ノ卸賣ヲ續ケテ居ルノテアリマス」ト述ヘ（記錄三〇丁以下）又森藤警部補ノ取調ニ對シ「三、卸賣ハ主トシテ小型動自車トリヤカーテ配達シマスカ私ノ店頭ニ買ニ參リマシタモノニモ賣リマス四、九分九厘迄ハ配達テ私ノ店頭ニ買ニ來ルモノハ僅カハカリテアリマス」ト述ヘ更ニ「其ノ許ハ市場類似ノ行爲テ縣令ニ違背スルト思ツタカ」トノ問ニ對シ「ハイ私ハ一定ノ仲買人ヤ定マツタ時間ニ取引ヲセナイ事ト店頭ニ多衆集合スルノテアリマセヌカラ縣令ノ市場類似行爲テナイト思ヒマス」ト答ヘ（記錄三七丁以下）又第一審第一回公判ニ於テ「買入レタ品物ハ如何ナル方法テ販賣シテ居ルカ」トノ問ニ對シ「私ノ方ニハ得意ト云フ風ナ家カアリマスカラ私ハ店員ヲシテ其ノ得意ノ家ヲ廻ラシメ今日ハ斯樣ナ品物カアルカ如何テス何々ノ品ノ値ハ如何程タト云フ風ニ云ツテ注文ヲ取ツテ歩クノテスソレテ相當ノ品ヲ定メテ注文ヲ致シマスカラ注文ヲ聞イタラ店員カ當該注文品ヲ配達スル事ニ致シテ居リマス」ト答ヘ（記錄一一六丁）原審公判記錄ニ依レハ問「店舖ノ構造其ノ販賣ノ模樣ハ」答「店ノ構造ハ間口カ四、五間奧行カ三、四間位テアリマシテ着荷ノ時ハ店頭ニ商品ヲ並ヘテ賣ルコトモアリマスカ殆ト配達ヲシテ居リマス」問「四、五人位店ニ來テ買フコトモアルノテハナイカ」答時ニハ四、五人位カ店ニ出會ツテ買フコトモアリマス斯樣ナコトハ稀テアリマス」（一六五丁）問「被告ハ昭和五年頃縣廳ニ青果市場開設屆ヲ出シタカ」答「左樣テアリマス當時私方ニハ買主カ多數集合シテ居リマシタカラ私ハ市場規則ニ觸レルモノト思ヒマシタノテ開設屆ヲ出シタノテアリマス然ルニ縣廳テハ單ナル卸賣タカラ必要カナイト云フテ來マシタ其ノ後ハ店ニ集合サセヌ樣ニシテ居リマスカラ私ハ違反ニナルトハ思ツテ居リマセヌ」トアリ證人姉川和一、大塚嘉次郎カ武里彦ノ證言ニ依レハ被告人方ノ店員カ注文ニ廻リ注文ニ應シテ配達シ居ルコトヲ證明スルニ十分ニシテ以上ノ證人及其ノ他ノ證言ニ依レハ被告人方ニ偶々三、四人ノ買主カ來リ會スルコトハアルモ決シテ被告人カ多數ノ買方又ハ賣方ヲ集合シ居ルニ非サルコト又多數集合セシメテ公衆ニ對シ青果ノ卸賣ヲ爲シ來リタルモノニ非サルコトヲ知ルニ十分ナルト共ニ被告人ノ行爲ハ單ナル青果ノ卸賣行爲ニ過キサルコト極テ明白ナリトス或ハ偶々買方四、五名カ被告人ノ店舖先ニ來リ會スルコトアル事實ヲ目シテ多數集合ナリト爲スルモノアランモ之レ全ク採ルニ足ラサル僻論ナリト云ハサルヘカラス蓋シ單ナル青果ノ卸賣ハ右縣令ニ所謂市場類似行爲ニ非サルコトハ更ニ疑ナク（最近御院第一刑事部ニ於テ言渡サレタル判決參照此ノ判例ハ後ニ表示ス）而シテ或ル種ノ卸賣ヲ否市場類似行爲トシテ容認スル以上ハ必然之ニ伴フ店舖ノ設置存在モ亦之ヲ認メサルヘカラサルコトハ多言ヲ要セスシテ明カナリ又既ニ店舖ノ存在ヲ認ムルニ於テハ其ノ店舖ニ時々買方カ數人來リ會スルコトアルハ洵ニ當然

ノ事理ニ屬シ毫モ怪ムニ足ラサルナリ然レトモ此事タルヤ市場行爲ノ一要件タル一定ノ時ニ於テ集合シタルニ非サルハ勿論被告人ニ於テ故意ヲ以テ殊更ニ集合セシメタルニ非スシテ不定時ニ偶然來リ會シタルニ過サルナリ然ラハ叙上買方數人カ偶々來リ會スル一事ヲ以テ市場類似行爲ト斷スルコトヲ得サルハ極テ明白ナリト云フヘキナリ若シ夫レ市場外ニ於ケル青果ノ卸賣營業ハ其ノ手段方法ノ如何ヲ論セス凡テ市場類似行爲ニ該當シ縣令三十八號第一條二項ニ牴觸スル法意ナリト云フニ在リトセハ何故ニ立法者タル縣當局ハ殊更ニ斯ル迂遠極マル晦澁難解ノ規定ヲ擇ヒ疑義簇出ノ種ヲ播キタルカ實ニ解スル能ハサルトコロナリ斯ノ如クンハ須ク直截明快「青果ノ卸賣ハ總テ青果市場ヲ經由スヘシ」ト規定スヘキニアラスヤ然ルニ事爰ニ出テサリシ一事ニ徴スルモ該規定ノ精神カ那邊ニ存スルカヲ容易ニ窺知シ得ルトコロナリ現ニ右縣令制定當時本件被告人ヨリ縣ニ對シ市場開設ノ出願ヲ爲シタルトコロ縣當局ハ被告人ノ卸賣營業行爲ハ該縣令ノ規定ニ牴解セストノ見解ノ下ニ願書ヲ返戻シ來リタル事實ノ存スルコトハ一件記錄上明白ニシテ之ニ依リテ觀ルモ法意ノ存スルトコロヲ知リ得ヘク又單ナル市場外卸賣カ福岡縣令青果市場規則違反行爲ニ非ルコトハ既ニ御院判例ノ示ストコロナリ（昭和十年（れ）第一七〇八號）然ルニ原審ハ被告人ノ行爲ヲ以テ縣令第三十八號第一條二項ノ規定ニ違反スル犯罪トナシ同令第十四條ヲ適用シテ處罰シタルハ則チ擬律ノ錯誤ニ外ナラス到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

【決定理由】 仍テ按スルニ昭和六年福岡縣令第五十九號ヲ以テ改正セラレタル昭和五年同縣令第三十八號青果市場規則第一條中ノ第二項ハ所謂市場類似ノ營業ハ市場本來ノ性質及同縣令全備ノ趣旨ニ鑑ミ少クトモ販賣人又ハ購買人カ一定ノ場所ニ集合スルコトヲ以テ必要缺クヘカラサル要件ト爲スモノト解スルヲ相當トスヘク唯單ニ卸賣取引ヲ爲シタル事實ノミヲ捉ヘテ之ヲ同條所定ノ市場若ハ之ニ類似ノ營業ヲ開設シタルモノト論スルヲ許スヘキニ非ス然ルニ原判示事實ニ依レハ被告人ハ福岡縣嘉穗郡山田町大字上山田九百三十四番地ニ於テ青果ノ卸賣ヲ爲シ居ルモノナルトコロ昭和九年十二月十七日以降ハ福岡縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ公衆ニ對シ青果ノ卸賣ヲ爲スコトヲ得サルニ至リタルニ拘ラス同縣知事ノ許可ヲ受ケスシテ右同日ヨリ引續キ同十年九月五日迄ノ間同所ニ於テ青果小賣商大熊政雄外二十數名ニ對シ各地ヨリ購入シタルバナナ西瓜林檎梨等ノ青果ノ卸賣ヲ爲シ以テ市場類似ノ行爲ヲナシタリト云フニ在リテ即チ被告人カ福岡縣知事ノ許可ナクシテ判示二十數名ノ小賣商ニ對シ青果ノ卸賣ヲ爲シタル事實ハ明白ナルトコロナルモ右卸賣取引ニ際シ被告人及右小賣商多數カ被告人方店舖ニ集合シタル事實アリヤ否ニ關シテハ判文頗ル明確ヲ缺キ其ノ孰レナルカヲ判別シ難シ而モ右事實ノ有無ハ前段所論ニ照シ本件犯罪ノ成立ヲ左右スヘキ重要事項ニ屬スルヲ以テ此ノ點ヲ確定スルニ非サル限被告人ノ右行爲カ果シテ福岡縣令青果市場規則第一條第二項ニ所謂市場類似ノ營業ニ該當スルヤ否ヲ判斷スルニ由ナキモノトス然レハ原判決ハ事實理由不備ノ違法アルモノト云フヘク論旨結局理由アリ而シテ右違法ハ事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスコト明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十一年五月五日

大審院第四刑事部　裁判長判事　宇野要三郎
判事　沼　義雄　判事　駒田　重義
判事　日下　巖　判事　吉田常次郎

昭和十一年（れ）第二七九號

判　決

本籍　島根縣美濃郡吉田町大字久城
七百三十九番地
住居　福岡縣嘉穗郡山田町大字上山
田九百三十四番地ノ三
青果卸商　福　原　總　市
（明〇三十四年七月六日生）

右福岡縣令青果市場規則違反被告事件ニ付昭和十年十一月三十日福岡地方裁判所ノ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ申立テ當院ハ昭和十一年五月五日事實ノ審理ヲ爲ス旨ノ決定ヲ爲シタルニ因リ更ニ審理ノ上判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス

被告人ハ無罪

【理由】 辯護人品川英一金原藤一上告趣意書ノ理由アルコトハ前顯決定ニ於テ說明シタル如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ則リ更ニ審判スルニ本件公訴事實ハ被告人ハ昭和五年七月以降肩書住居地ニ於テ知事ノ許可ナクシテ公衆ニ對シ青果ノ卸賣取引ヲ爲シタルモノナリト云フニ在リ仍テ審案スルニ昭和六年十二月十七日福岡縣令第五十九號ニ依リ昭和五年七月一日同縣令第三十八號青果市場規則第一條改正セラレタル爲右昭和六年十二月十七日ヨリ三年間ヲ經過シタル後ハ同縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ右規則第一條第二項ニ規定スル市場類似ノ營業ヲ爲スコトヲ得サルニ至リタルモ右營業ハ市場本來ノ性質及同縣令全體ノ趣旨ニ鑑ミ少クトモ販賣人又ハ購賣人カ一定ノ場所ニ多數集合シテ爲スモノナルコトヲ要スルモノト解スルヲ相當トシ單ニ卸賣取引ヲ爲シタル事實ノミヲ捉ヘテ直ニ同規定ノ營業ヲ爲シタルモノト爲スヲ得サルコトハ前示決定ニ於テ說明スル如シ記錄ヲ査スルニ被告人ハ昭和四年一月頃ヨリ右肩書地ニ於テ青果ノ卸賣ヲ業ト爲シ昭和六年十二月十七日ヨリ三年ヲ經過シタル後ニ於テモ福岡縣知事ノ許可ナクシテ之ヲ爲シ居タルコトハ明白ナルモ右場所ニ於テ卸賣取引ヲ爲スニ當リ多數カ集合シタルコトノ證明ナキカ故ニ本件公訴事實ハ結局犯罪ノ證明ナキニ歸スルヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事黑川涉關與

昭和十一年十二月二十二日

大審院第四刑事部　裁判長判事　宇野要三郎
判事　沼　義雄　判事　駒田　重義
判事　吉田常次郎　判事　十川寛之助

●誣告罪ノ法益

誣告罪ハ一方個人ノ權利ヲ侵害スルト同時ニ他方ニ於テ公益上當該官憲ノ職務ヲ誤ラシムル危險アルカ爲ニ處罰スルモノナリ

昭和十一年(れ)第一六七五號

決　　定

本籍　廣島縣深安郡野村字下御領七
　百二十一番地ノ二
住居　熊本縣上益城郡御船町大字迎
　町四十五番地
元熊本縣立御船中學校教諭
　谷　田　左　一
　（明治二十六年一月十七日生）

右誣告被告事件ニ付昭和十一年五月十五日熊本地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ仍テ當院ハ檢事武松久吉ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】　本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】　辯護人山本茂雄上告趣意書第一點原判決ハ不當ニ法令ヲ適用シタル違法アリ（一）凡ソ誣告罪ハ一方私人ノ權利ヲ侵害スルト同時ニ他方公益上當該官憲ノ職務ヲ誤ラシムル危險アルカタメ處罰スルモノナルカ故ニ申告ニ係ル事實ハ不實ニシテ其ノ事實カ刑事又ハ懲戒處分ヲ受クル性質ノ行爲ナラサルヘカラス從テ縱令申告ニ係ル事實カ虚僞ナリトスルモ其ノ事實ニシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受クルコトナキ事實ナルニ於テハ誣告罪ヲ構成セスト謂フヘキナリ而シテ昭和九年二月十一日勅令第二十一號「官吏官吏待遇者等ノ懲戒及懲罰ノ免除ニ關スル件」ヲ以テ官吏又ハ官吏待遇者ニシテ昭和九年二月十一日前ノ所爲ニ付懲戒又ハ懲罰ノ處分ヲ受クルモノニ對シテハ將來ニ向ツテ其ノ懲戒又ハ懲罰ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒又ハ懲罰ヲ行ハスト令セラレタルヲ以テ昭和九年二月十一日前ニ於ケル官吏待遇者ノ所爲ニ對シテハ同日以後懲戒ヲ行ハルルコト無キニ至リタリ從テ同日以前ニ官吏待遇者ニ懲戒事犯アリト虚僞ノ申告ヲ爲ス者アリトスルモ當該官憲ノ職務ヲ誤ラシムル危險ナク被申告者ノ權利侵害セラルルコトモ無キヲ以テ其ノ申告ハ誣告ト爲ラスト謂フヘキナリ而シテ原判決判示事實一乃至四ノ申告事實中一ハ被告カ投書シタル昭和十年三月十七日頃ヨリ二年前ノ事ニハ同頃ヨリ五、六年前ノ事ニ屬スルコト判文上モ事實上モ明白ニシテ四ハ證第一號ノ投書文書中「七學校ノ劍道々具（三、四十圓ノ品）ヲ他人又ハ卒業生ニ賣ツテ金ヲ取ツテ居ルソレハ一個ヤ二個テハナイ此ノ事ハ一、二年前迄敎中ノ先生テアツタ本渡氏カ承知」ナル記載ニ依リテ其ノ申告事實ハ本渡文雄ノ御船中學在職中ノ事實ナルコトヲ現ハシ居リ記錄二百五頁以下本渡文雄ノ檢事聽取書ニ依レハ本渡文雄ハ昭和八年三月二十七日御船中學教諭ヲ退職歸郷シタルコト明白ナレハ右退職年月日以前ノ事實トナリ即チ一、二、四ノ三事實ハ何レモ昭和九年二月十一日以前ノ所爲ナリト曰フヘク被申告者水野尾清ハ御船中學校教諭ニシテ昭和十年一月十一日前ハ判任官待遇其以後ハ高等官七等待遇ト爲リタルモノナレハ昭和九年二月十一日以後ニ於テハ此ノ所爲ニ付前記勅令ニ依リ絕對ニ懲戒セラルルコト無ク又勅令ハ法律ト同樣國家意思ノ表現ニシテ當該官廳ヲ羈束スルヲ以テ特種ノ勅令ニシテ一般的ニ懲戒事犯ノ處分ノ限界ヲ定メタルモノニ非スト雖懲戒事犯ノ處分官廳カ此ノ勅令ヲ不知ナリト爲ス能ハス從テ其ノ間右官廳カ誤ツテ懲戒處分ヲ行フ危險アリト爲ス能ハス斯ノ如クニシテ被告ノ申告カ虚僞ノ申告ナリトスルモ懲戒處分ヲ受クルコトナキ事實ノ申告ナレハ誣告罪ヲ構成セス然ルニ原判決ハ之ヲ誣告罪トシテ處斷シタリ之レ法ノ解釋ヲ誤リ不當ニ法ヲ適用シタルモノニシテ破毀ヲ免レスト信ス或ハ誣告罪カ公益犯罪タル點ヨリシテ犯人ノ誣告セントスル意思又ハ認識ヲ反社會性ト見テ申告事實カ論理上抽象的主觀的ニ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムルニ足ル事實ナラハ誣告罪ノ成立ヲ認メントスル說アランモ夫ハ餘リニ極端ニシテ中庸ヲ得タルモノニアラス申告事實カ具體的客觀的ニ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ惹起スト觀察セラルル申告ヲ以テ始メテ誣告ト爲スヘキナリ未タ國家並ニ私人ノ法益ヲ侵害セシムル程度ニ至ラサル虚僞申告ヲ犯人ノ主觀心意ノミヲ捕ヘ直チニ處罰スヘシトナスカ如キハ濫刑ノ誹ヲ免レサルヘシ抑刑罰法ハ社會共同生活ノ條件ヲ規定シタル法規ニシテ國家ノ秩序ヲ維持スルヲ以テ唯一ノ目的トス果シテ然ラハ之ヲ解釋スルニ當リテモ亦主トシテ其ノ國ニ於テ發現セル共同生活上ノ觀念ヲ照準トスヘク單ニ論理學的觀念ノミニ依ルコトヲ得ス共同生活上ノ觀念ニ於テ刑罰制裁ノ下ニ法律ノ保護ヲ要求スヘキ法益ノ侵害ト認メサル以上ハ之ニ臨ムニ刑罰法ヲ以テシ刑罰ノ制裁ヲ加フルノ必要ナク法ノ精神亦此ノ點ニ存スルモノト謂ハサルヲ得ス本件投書ノ如キハ彼ノ德川幕府田沼意次執政時代ノ秕政諷刺ノ落首落書ノ類ニ等シク敢テ被申告者ノ懲戒ヲ意欲シタルモノニ非サルモノナルコト證第一號全體ノ趣旨ヨリ看取セラルルモノナレハ主觀說ヲ以テ嚴ニ臨マントスルハ酷ニ過キ法治ノ穩健ナルモノト爲ス能ハス事實ノ發生ヲ見ルコトナキ反社會性ノ發露ヲ不問ニ附スルハ犯罪檢擧ニ關スル問題ニ非スシテ刑罰法ノ解釋ニ關スル問題ニ屬シ之ヲ問ハサルヲ以テ立法ノ精神ニ適シ解釋法ノ條理ニ合スルモノト謂フヘキナリ（二）原判決ハ判示事實三ニ於テ被告カ水野尾清ハ熊本市北新坪井町武道具商吉田清武堂（後銀杏號ト改稱）事吉田芳勝ヨリ毎年武道具賣上代金ノ一割位ヲ貰ヒ受ケ居ル旨懲戒處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚僞ノ申告ヲ爲シタル旨判示セルカ證第一號ニ依レハ「熊本市ノ道具屋カラ毎年道具賣上代金ノ一割位ヲ貰ツテ居ル」旨記載シアルノミナリ熊本市北新井町武道具商吉田清武堂吉田芳勝ナル記載無シ武道具ノ賣上金ナリヤ否ヤニ此ノ證第一號ニ依リテハ不明ナルナリ而シテ官廳ヲシテ處分ヲ愆ラシムル危險アリヤ否ヤハコノ證第一號久慈學務部長宛投書カ審究ノ對照トナリ且之ノミカ對照ト爲ルナリ誣告被告事件ノ捜査處分及公判審理ニ依リテ判明シタル事實ヲ加味シテ審究スヘキニ非ス抑誣告罪ノ性質ニ關シテハ或ハ國家ノ審判權ノ作用ヲ愆ラシムル虞ヲ生セシムルコトニ因リテ國家ノ法益ヲ害スル罪ナリトナシ或ハ被申告

者ヲシテ不當ニ刑罰又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル危險ヲ生セシムルコトニ因リテ個人ノ法益ヲ害スル罪ナリト爲シ或ハ又以上二個ノ性質ヲ併有スルモノト爲スト雖其ノ何レノ見解ニ從フモ誣告罪ノ成立ニハ一般ニ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ爲シ捜査ノ權限ヲ有スル官廳ノ職權ノ發動ヲ促スニ足ルヘキ危險ヲ惹起セシムルコトヲ以テ要件ト爲スコト學說判例ノ一致スルトコロナリ而シテ其ノ危險ハ申告其ノモノニ於テ捜査又ハ懲戒手續開始ノ端緒ヲ供スルニ因リテ初メテ發生スルモノナルコトヲ要スト謂ハサルヘカラス即チ具體的ニ懲戒處分アルヘキ事實ヲ擧ケサルヘカラス而シテ「熊本市ノ道具屋カラ毎年道具賣上代金ノ一割位ヲ貰ツテ居ル」ト云フノミニテハ職務ニ關係アリヤ否ヤ不明ナリ凡官吏又ハ待遇官吏カ其ノ職務上收賄シタル場合ハ懲戒處分ヲ受クルコト明ナルカ職務外ニ於テ物品取引ニ盡力シ謝禮ヲ受ケタリトスルモ瀆職ト爲ラス之ヲ職務ノ內外ヲ問ハス威信ヲ失墜スル行爲トモ爲ス能ハサルヘキナリ然ラハ其ノ間懲戒處分ヲ惹起セス被申告者水野尾清ハ御船中學校（熊本縣立）ノ劍道及習字等ノ科目ヲ受持テルコト記錄上明ナレハ物品購入事務ニ關係ナク從テ商人ヨリ賣上ノ一割ヲ貰受ケタリトスルモ更ニ官吏服務規律ニ反スルモノニアラス明治四十年四月三十日勅令第百四十七號ニ於テ「官吏待遇者ノ懲戒ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外高等官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用シ判任官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ同令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス」ト定メ中學校教諭ニ付此ノ點ニ付別段ノ規定ナキヲ以テ被申告者水野尾清ハ文官懲戒令ニ依リテ懲戒セラルルノ外懲戒セラルルコトナシトス而シテ明治三十二年三月二十八日勅令第六十三號文官懲戒令第二條ニハ「官吏ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ一、職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ二、職務ノ內外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ」ト定メラレタリ從テ被申告者水野尾清ハ被告ノ爲シタル申告カ右文官懲戒令所定ノ所爲ニ觸レサルヲ以テ懲戒セラルルコトナキナリ然ラハ即チ被告ノ判示三ノ所爲ハ誣告罪ヲ構成セス原判決カ之ヲ誣告罪ニ問擬シタルハ不當ニ法ヲ適用シタルモノニシテ破毀ヲ免レスト信ス（三）誣告罪カ成立スルニハ申告セラレタル事實カ懲戒セラルヘキ事項ナラサルヘカラス某官吏ハ謠曲ニ熱中スト申告スルモ其ノ事自體懲戒事項ナラサレハ誣告トナラス中學教諭カ圖書室助手（學校雇員ニシテ生徒ニ非ス）ト共ニ秘カニ遊廓ニ登樓シ午前三時頃歸宅シタリトスルモ其ハ人ノ内私事實ニシテ縱令學校職員ノ如キ神聖ノ職ニ在ルモノカ爲シタル行爲トシテ人倫上非難アル處トスルモ職務上ノ義務違背又ハ職務懈怠ニモ非スト解スヘシ亦妻以外ノ婦女ト情交アリテ其ノ爲ニ金員ヲ取ラレタリトスルモ同樣内私事實ニシテ衆ノ知ラサル事項ナル以上前同樣消極ニ解スヘキナリ尙又商人ニ對シ商取引ノ斡旋ヲ爲シ謝金ヲ貰ヒ受ケタリトスルモソレカ儀禮上ノモノニシテ職務ニ關係ナキ以上何等懲戒ヲ受クヘキニアラス文官懲戒令ハ嚴ニ懲戒ノ限度ヲ定メタリ若シ夫レ靑壯年ノ官吏又ハ官吏待遇遊廓ニ遊ヒ又ハ妻以外ノ婦ト情ヲ交シ又ハ商人ヨリ職務外ニ好意的擧措ヲ爲シテ禮物ヲ贈ラレタリトスルモ此等ヲ一々取上ケ威信ヲ失シタリト爲シ懲戒スルニ於ハ懲戒處分ノ數ハ夥シキ件數ニ上リ懲戒セラレサルモノ稀ナリト謂フニ至ラン豈夫レ斯ノ如キ取扱ヲ許サンヤ常識ヲ逸シタル解釋ヲ取ルヘカラサルナリ誣告罪ノ審理ニ當ツテハ其ノ申告事實カ先ツ懲戒處分ヲ受クヘキ事實ナリヤ否ヤヲ審究シ然ル後虚僞ナリヤ否ヤ處分ヲ受ケシムル目的ニ出テタリヤ否ヤヲ審究シ判決ニ於テ其ノ結果ヲ示スヘキナリ原審判決ハ懲戒處分ヲ受クル申告事實ナリヤ否ヤ審究シタル跡ナク又判決ニ之ヲ示サス理由不備然ラサレハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法アリ破毀ヲ免レスト信スト云フニ在リ

【決定理由】　仍テ記錄ヲ調査スルニ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認ムルヲ以テ刑事訴訟法第四百十四條ニ則リ本論旨ハ理由アリ

以上說明ノ如クナルヲ以テ爾餘ノ論旨ニ對スル判斷ハ之ヲ省略シ同法第四百四十三條ヲ適用シ主文ノ如ク決定ス

　昭和十一年十一月二十一日
　大審院第三刑事部、裁判長判事草野豹一郎
　判事　植月　愛明　　判事　日下部義夫
　判事　藤波　良讓　　判事　稻田　馨

昭和十一年(れ)第一六七五號

判　　決

本籍　廣島縣深安郡御野村字下御領
　七百二十一番地ノ二
住居　熊本縣上益城郡御船町大字迎
　町四十五番地
休職公立中學校教諭
　谷　田　左　一
　（明治二十六年一月十七日生）

右誣告被告事件ニ付昭和十一年五月十五日熊本地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シ同年十一月二十一日本院ニ於テ刑事訴訟法第四百四十三條ニ依ル決定ヲ爲シタル上同法第四百四十四條ニ從ヒ審理ヲ遂ケタルトコロ上告ノ理由アルコト右決定ニ說示スル如クナルヲ以テ同法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ原判決ヲ破毀シ更ニ判決スルコト左ノ如シ

【主文】　原判決ヲ破毀ス
　被告人ハ無罪

【理由】　本件公訴事實ハ被告人ハ昭和六年春熊本縣立人吉中學校ヨリ同縣立御船中學校ニ赴任シタル同校教諭ニシテ國語漢文科ヲ擔任シ居リタル者ナルトコロ昭和九年八月以來同校教諭ニシテ劍道及習字科ヲ擔任セル水野尾清ト互ニ感情ノ疎隔ヲ來シ漸次其ノ度濃厚トナリタル末遂ニ右清ヲシテ懲戒處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ昭和十年三月十七日同縣上益城御船町ヨリ監督官タル同縣學務部長久慈學ニ對シ清ハ一、二年前當時同校圖書助手タリシ坂田武雄ヲ伴ヒ熊本市二本木遊廓ニ登樓シ午前三時頃歸宅シタル旨、二五六年前清ノ妻姙娠中或女ト情交關係ヲ結ヒ其ノ爲多額ノ金ヲ捲上ケラレタルカ其ハ或ハ墮胎ノ爲トモ云ハレ居ル旨三、三年前迄同校劍道部生徒ヨリ竹刀代トシテ毎月十錢宛徵收シナカラ竹刀ヲ渡サス

金員ヲ着服シタル旨四熊本市北新坪井町武道具商吉田清武堂事吉田芳勝ヨリ毎年賣上代金ノ一割位ヲ貰ヒ受ケ居ル旨五、二年前卒業ノ佐藤正勝ニ昭和七年五月米一俵五圓以下ノ時代ニ四、五圓ノ刀ヲ二十五圓ニ賣付ケタル旨六、生徒ヨリ貴重ノ物品ヲ強要スルニ妙ヲ得テ居リ昭和八年八月中中野武人カ此ノ災難ニ遭ヒシ旨七、價格三、四十圓ノ同校劍道具ヲ他人又ハ卒業生ニ賣リ金ヲ取ツテ居ル夫ハ一個ヤ二個ニ非サル旨孰レモ虚僞ノ事實ヲ記載セル匿名投書ヲ郵送シテ同部長ノ手ニ到達セシメ以テ誣告シタルモノナリト云フニ在リテ被告人カ右日時右ノ如キ内容ヲ記載シタル書面ヲ熊本縣學務部長久慈學ニ郵送到達セシメタルコトハ被告人ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述及前示內容同旨ノ記載アル押收ニ係ル證第一號書面ノ現存ニ徴シ之ヲ認メ得ルト雖右一、二、三、五、六ノ各點ハ孰レモ昭和九年二月十一日勅令第二十一號官吏官吏待遇者等ノ懲戒及懲罰ノ免除ニ關スル件ノ施行以前ノ事實ニ屬スルコトハ其文言自體ニ依リ明ニシテ同勅令ニ依レハ昭和九年二月十一日以前ニ於ケル右ノ如キ官吏又ハ官吏待遇者ノ所爲ニシテ未タ懲戒又ハ懲罰ノ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒又ハ懲罰ノ制裁ヲ加ヘサルコト疑ナキヲ以テ假ニ被告人ニ於テ水野尾清ニ對シ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚僞ノ事實ヲ熊本縣立御船中學校教諭ニ對スル知事ノ監督權ニ參畫スヘキ職能ヲ有スル當時ノ同縣學務部長ニ申告シタリトスルモ監督官ニ於テハ右勅令ノ爲何等職權ノ發動ヲ爲ササルコト多言ヲ要セサルカ故ニ右ノ如キ事實ノ申告ハ夫レ自體結局當該官憲ヲシテ其ノ職務ヲ謬ラシムル危險ナキモノト謂フヘク爾リ而シテ誣告罪ハ一方個人ノ權利ヲ侵害スルト同時ニ他方ニ於テ公益上當該官憲ノ職務ヲ謬ラシムル危險アルカ爲ニ處罰スルモノナルコトハ夙ニ本院ノ判例トシテ是認スルトコロナレハ右ハ誣告罪ヲ構成セスト謂ハサルヘカラス次ニ四及七ノ各點ニ付テモ其ノ文言上昭和九年二月十一日以前ニ係ルト認メ得ル分ハ前同樣理由ニ依リ誣告罪ヲ構成セサルコト勿論ナルノミナラス吉田芳勝ニ對スル第一乃至第三回檢事聽取書中同人ノ供述及第一審第二回公判調書中證人水野尾清ノ供述トシテ吉田芳勝ニ於テ武道道具賣上金中其ノ二分ヲ手數料トシテ交付シ居タル旨ノ記載アリ又右水野尾證人ノ供述トシテ同人カ校友會ノ備品タル劍道具ヲ擅ニ本渡文雄ニ贈與シタル旨ノ記載アリ其ノ他諸般ノ事情ニ照シ稽フルトキハ右四及七カ被告人ニ於テ虚僞ノ申告ナリトノ認識ノ下ニ爲サレタルモノト確認スヘキ證明十分ナラサルモノトス

叙上ノ理由ナルヲ以テ被告人ニ對シテハ刑事訴訟法第三百六十二條ニ則リ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事武松久吉關與

昭和十一年十二月二十六日

大審院第三刑事部、裁判長判事草野豹一郎
判事　植月　愛明　　判事　日下部義夫
判事　瀧波　良藏　　判事　稻田　馨

大審院裁判例（十）索引

—言渡日附順—

●民事の部

標題	事件名	事件番號	言渡年月日	頁數
國際關係ト國家ノ賠償義務	保管證書返還請求事件	昭和十年（オ）七八二	昭和十一年一・一四	一
坊間所謂「金錢ヲ貸與ス」ノ一用語例	貸金請求	同（オ）七四九	同　一・一五	二
職權調査事項ト釋明權不行使	建物保存登記無效請求	同（オ）一四二七	同　一・一七	三
不動産賣買ニ於ケル移轉登記ト代金支拂義務	土地代金請求	同（オ）一〇四九	同　一・二二	四
主要主張ニ對スル判斷遺脱	貸金請求	同（オ）一二六九	同　一・二二	五
辨濟期前ノ相殺ト期限ノ利益	手形金請求	同（オ）二〇一二	同　一・二八	八
法律ノ看過又ハ理由不備ノ違法	貸金請求	同（オ）一九一七	同　一・二八	九
耕地整理組合上印押捺ノ換地原簿ト公文書	損害賠償請求	同（オ）一九八一	同　一・三〇	一〇
法律ノ誤解若ハ審理不盡	契約履行請求	同（オ）一八六一	同	一一
登記簿謄本ト其證據價値	建物賣買登記抹消登記手續請求	同（オ）一八五〇	同　一・三一	一三
證據ニ依ラサル重要事實ノ認定又ハ理由不備	損害賠償請求	同（オ）三九四	同　二・一	一四
遲延利息ノ算定ト審理不盡又ハ理由不備	貸金請求	同（オ）一九〇八	同	一五
當事者ノ主張ヲ誤解シタル違法	土地所有權移轉登記手續請求	同（オ）一八一五	同　二・四	一六
法律ノ誤解及審理不盡	株式競賣不足金請求	同（オ）一六三〇	同	一六
分割拂消費貸借ト消滅時效	貸金請求	同（オ）二〇九二	同	一九
相殺ノ抗辯ト審理不盡	敷金返還請求	同（オ）一八四四	同　二・五	二〇
株金拂込ノ認定ト審理不盡又ハ理由不備	拂込株金返還請求	同（オ）一九六八	同	二一
實驗則違背ノ判決	登錄商標權利範圍確認請求	同（オ）二二九〇	同	二二

標題	事件名	事件番號	言渡年月日	頁數
抵當債權者ノ義務ト保證人ノ責任	貸金請求事件	昭和十年（オ）一九二〇	昭和十一年二・七	二三
法律誤解ノ判決	建物所有權移轉登記請求	同（オ）一一八九	同　二・八	二四
船舶衝突ト過失ノ判定	損害賠償請求	同（オ）一六〇四	同	二五
所有權ノ否定ト釋明權不行使ノ審理不盡	家屋明渡請求	同（オ）二〇八一	同　二・一〇	二七
理由齟齬又ハ理由不備	不動産競賣	同（ク）一四六二	同　二・一二	二八
貸契約存在ノ否定ト審理不盡	貸金請求	同（オ）一九〇一	同　二・一三	三〇
株式會社ノ檢査役選任決定ト即時抗告期間	檢査役選任申請	同（ク）一六七一	同　二・一四	三一
當事者ノ主張誤解又ハ審理不盡	約束手形金請求	同（オ）二二一三	同　二・一五	三二
家屋所有ノ爲ノ土地賃貸借期間	建物收去土地明渡請求	同（オ）八四九	同　二・一九	三三
審理不盡採證法及實驗則違背判決	賴母子擔保返還	同九年（オ）一一四五	同	三四
告知義務違反ノ否定ト審理不盡又ハ實驗則違背	保證金請求	同十年（オ）一九八四	同	三五
釋明權不行使ノ審理不盡	土地賃貸料請求本訴並土地所有權確認等請求	同（オ）二〇五三	同	三六
債權全額ノ認定ト審理不盡理由不備	貸金請求	同（オ）一五九五	同　二・二二	三八
審級ヲ異ニスル決定ノ供託ト擔保取消事由	擔保取消決定ニ對スル抗告	同十一年（ク）四九〇	同　二・二三	三九
疏明書ノ排除ト理由不備	訴訟上救助申請	同（ク）一四九	同	四〇
身許保證ニ關スル法律ト適用	保證債務履行請求	同十年（オ）一四二四	同	四一
使用者ノ過失ト法律上ノ根據	保證債務履行請求	同（オ）一四九九	同	四二
補證金ノ認定ト審理不盡理由不備	土地收用補證金不服	同（オ）一九二三	同	四二
産業組合ノ過怠金規程ト適法性	過怠金請求	同九年（オ）二八〇五	同	四四
發明新規性ノ否定ト審理不盡理由不備	特許願拒絶査定不服	同十年（オ）二一五〇	同　二・二五	四五
主張ノ控訴ト審理不盡	賣買代金請求	同（オ）九七三	同　二・二六	四七
恩給支給裁定ノ取消ト誤拂返還請求權ノ時效	扶助料誤拂返還金請求	同（オ）一九七四	同	四八

損害賠償額ノ認定ト審理不盡	損害賠償請求事件	昭和十年(オ)一九四三	昭和十一年三・四	四九
證據手續並證據判斷遺脫ノ違法	賣掛代金請求	同(オ)二〇九六	同三・五	五〇
釋明權不行使ノ抗辯排斥	貸金請求	同(オ)二一七二	同三・一〇	五〇
約定損害金ト裁判上ノ減少	不動產競賣事件	同十一年(ク)八〇	同	五一
同一登記簿用紙記載ノ數棟ノ建物ノ一部ニ對スル假處分	損害賠償請求	同九年(オ)二九六〇	同三・一一	五一
辨濟ノ認定ト審理不盡若ハ理由不備	保證債務履行請求	同十年(オ)二二〇四	同三・一一	五三
和解調書ノ記載ト眞實ノ和解ノ相違	土地引渡並工作物收去請求	同(オ)一六三〇	同三・一三	五四
解除權情理誤解又ハ理由不備	破酸亞母亞引渡請求	同(オ)二一八五	同	五六
實用新案權ノ範圍ト共ノ解釋	實用新案權利範圍確認請求	同(オ)二一一三	同三・一四	五八
證據ニ副ハサル又依ラサル事實認定	損害賠償請求	同(オ)二一二八	同三・一八	五九
審理不盡若ハ理由不備ノ抗辯排斥	貸金請求	同九年(オ)三〇〇四	同	六一
後見人免黜ノ訴ト手續ノ法律違背	後見人免黜親族會決議不服	同(オ)二三八五	同三・二〇	六二
破產法第百四條第二號但書末段ノ法意	相殺否認並貸金請求	同(オ)二一七六	同三・二三	六三
延滯賃料ニ對スル敷金充當ト審理不盡理由不備	强制執行異議	同(オ)二〇四四	同三・二五	六六
明白ナル債權者ノ受領拒絕ト供託	土地明渡請求	同(オ)一八七五	同三・二七	六九
更改ノ認定ト審理不盡理由不備	貸金請求	同十年(オ)二六五	同三・二七	七一
重要ナル訴訟手續違背ノ判決	有體動產換價命令ニ對スル抗告	同十一年(ク)三〇二	同三・三一	七二
賣買契約履行不能ノ認定ト審理不盡又ハ理由不備	賣買契約履行請求	同(オ)二一七七	同	七三
虛無ノ證據ニ基ク事實認定	貸金請求	同(オ)二四五〇	同	七四
原狀回復義務ニ基ク金錢ノ返還ト利息自白ト取消	土地代金返還請求	同(オ)二四二二	同	七五
特約消滅ノ認定ト審理不盡理由不備	特約金請求	同(オ)二五八一	同四・六	七六

債務引受ノ否定ト理由不備又ハ審理不盡	貸金請求事件	昭和十年(オ)二四七七	昭和十一年四・七	七七
時效ノ抗辯排斥ト理由不備	賴母子講貸金請求	同(オ)二二九四	同四・八	七八
損害額算定ニ關スル抗辯排斥ト審理不盡理由不備	損害賠償請求	同(オ)一四〇九	同四・一一	八〇
時效完成ノ認定ト法則ノ誤解若ハ審理不盡	宿泊料飲食代金及立替金請求	同九年(オ)一六八四	同	八一
耕地整理組合ノ換地原簿ト共證據價値	土地明渡請求	同十年(オ)二六〇六	同四・一三	八二
辨濟ノ認定ト審理不盡	求償金請求	同(オ)二二四八	同四・一五	八三
理由不備又ハ實驗則違背ノ事實認定	損害賠償請求	同(オ)二三五四	同	八四
不法行爲ニ因ル地價ノ暴落ト損害	損害賠償請求	同(オ)二六二一	同四・一六	八六
假執行停止ノ爲ノ供託保證金ト執行方法	債權讓渡確認等請求	同(オ)二五三六	同四・二〇	八六
脫法的行爲ト共效力	貸金請求	同(オ)二四六〇	同四・二一	八八
所謂必要費ノ意義	損害賠償請求	同(オ)二四六五	同	八八
產業組合貸越契約ニ於ケル限度外貸出ト保證責任	貸金請求	同(オ)二四七五	同	八九
主張ノ排斥ト理由不備	損害賠償請求	同(オ)二五〇六	同四・二一	九一
相當長期ノ商品差押ト損害損害發生ノ認定ト裁判	損害賠償請求	同(オ)二五五〇	同四・二一	九一
選定訴訟當事者タル要件	奬勵金返還請求	同(オ)一一七三	同四・二二	九二
取引繼續ノ否定ト審理不盡	貸金請求	同九年(オ)八九二	同四・二三	九三
爭點遺脫ト理由不備	短期淸算取引損失立替金支拂請求	同十年(オ)二三九二	同四・二四	九四
講幹事ノ代理權ト民法第百十條ノ誤解	不當利得金返還請求	同(オ)二七二〇	同四・二七	九五
重要書證ト判斷遺脫	賣掛代金請求	同(オ)二三一六	同四・二七	九七
債權取立支拂禁止假處分ト保存行爲	損害賠償請求	同(オ)二五一四	同五・二	九八
保證人ノ求償權行使	債權一部不存在確認請求	同(オ)二五七四	同五・二	九八

基本債權ノ一部不成立ト準消費貸借	貸金請求事件	昭和十年(オ)二六六九	昭和十一年五・二	九九
橋梁ノ破損ト幼童ノ墜落ノ因果關係	損害賠償請求	同(オ)二七五二	同五・五	一〇一
契約解除ノ認定ト審理不盡損害金ノ認定ト審理不盡	家屋明渡等請求	同(オ)二七七一	同五・七	一〇二
基本タル口頭辯論ニ關與セサル判事ノ爲シタル判決	讓受債權金請求	同(オ)二七八五	同五・八	一〇四
有償委任契約ノ中途解除ト報酬	貸金等請求	同(オ)二八三六	同五・一一	一〇四
所謂日掛錢ノ組合ト審理不盡	預金請求	同九年(オ)二九一五	同五・一三	一〇五
重要事實ニ對スル判斷遺脫ト審理不盡又ハ理由不備	預金返還請求	同十年(オ)二六〇九	同	一〇六
重要事實ニ對スル判斷遺脫ト審理不盡	代金返還及損害賠償請求	同九年(オ)三〇七五	同	一〇七
虛僞ノ意思表示認定ト理由不備	債務不存在確認並抵當權抹消登記請求	同十一年(オ)二五六三	同五・一五	一〇九
彼此證人ヲ取違ヘタル訊問調書	强制執行異議	同(オ)二五五五	同	一一〇
債權消滅ノ認定ト審理不盡又ハ理由不備		同(オ)二五五五	同	一一〇
審理不盡又ハ理由不備ノ證據排斥	金錢ノ取戻ノ請求	同(オ)八八	同五・一九	一一一
不法行爲成立阻却ノ事實ヲ看過セル違法		同(オ)八八	同	一一一
內入金ノ計算過誤ト辨濟充當ノ違算	株金込拂請求ノ件	同十年(オ)一七九四	同五・二〇	一一三
損害額ノ算定ト審理不盡若ハ理由不備	損害賠償請求	同(オ)二五六三	同	一一四
消滅時效完成ノ債權ト辯護士ノ認識	土地明渡後延滯賃料請求	同十一年(オ)一四三	同五・二二	一一六
家屋所有權ノ否定ト審理不盡理由不備	家屋明渡等請求	同(オ)一九六	同	一一七
手形ノ作成交付ト手形債務	貸金請求	同十年(オ)二八一〇	同五・二六	一一八
理由不備又ハ證據ニ基カサル事實認定	淸算取引損失金請求	同十一年(オ)一八	同五・二九	一二〇
賴母子講世話人ノ義務	無盡金請求	同(オ)一〇四	同五・三〇	一二一
擬律錯誤ト理由不備	報酬金請求	同(オ)二二三四	同五・三〇	一二二

採證法違背並審理不盡ノ違背	求償金請求事件	昭和十年(オ)二七八三	昭和十一年六・三	一二五
理由齟齬若ハ理由不備ノ判決	契約不履行ニ基ク損害賠償請求	同十一年(オ)二二	同六・五	一二六
債權存在ノ認定ト審理不盡理由不備	債權不存在確認並ニ抵當權抵當權抹消登記手續請求	同(オ)六一	同六・五	一二六
手形ノ同一性否認ト理由不備	不當利得金請求	同(オ)一六一	同六・五	一二七
第三者ニ對スル管理權ノ付與小作米請求	賃貸借契約	同十年(オ)二八五五	同六・五	一二八
法律誤解及審理不盡ノ違法	損害賠償請求	同十一年(オ)一四	同六・六	一三〇
行政處分ニ基カサル公法人ノ不法行爲ト共管轄	水氣權確認妨害ノ除去請求	同(オ)一一〇	同六・六	一三一
町村ノ一部ト財產取得ノ適格	土地所有權確認請求	同十年(オ)八五四	同六・六	一三二
抗辯排斥ト理由不備	商標權登錄移轉請求	同十一年(オ)一	同六・九	一三三
物件管理委託ノ方法タル信託的讓渡	登記抹消請求	同(オ)二三二	同六・一一	一三三
信託法ト受託者ノ權限	轉付金請求	同(オ)二一三	同六・一二	一三五
主張ノ排斥ト審理不盡	地所賣買代金請求	同(オ)三九	同六・一三	一三六
當事者ノ主張ト判斷遺脫	新聞紙持主變更ニ付連署請求	同十年(オ)二六三三	同	一三八
表見代理ノ否定ト理由齟齬又ハ審理不盡	小切手金請求	同(オ)二七三四	同	一四〇
主債務者ノ委託ナキ連帶保證人ト求償權ノ範圍	求償金請求	同十一年(オ)一二二	同六・一五	一四一
民法第六百十九條ト信義ノ原則	賃料請求	同(オ)一八七	同六・一五	一四二
審理不盡理由不備ノ違法損害賠償額ノ算定ト審理不盡	損害賠償請求	同(オ)八五	同六・一七	一四四
手形取得者ノ惡意推定ト理由不備	約束手形金請求	同(オ)一四七	同六・一八	一四六
爭アル事實ト審理不盡	土地明渡並建物收去	同十年(オ)二三五三	同六・二〇	一四七
當事者主張ト審理不盡理由不備	代償金請求	同(オ)二四一四	同六・二〇	一四九
證據趣旨ノ誤解若ハ證據ニ依ラサル事實認定	報酬金請求	同(オ)二五〇三	同六・二〇	一五〇

次順位扶養義務者在ル被害者ノ遺族ト賠償法則ノ誤解若クハ理由不備	損害賠償請求事件	昭和十年(オ)二六八三	昭和十一年六・二〇	一五三
實用新案ノ新規性ト理由不備	實用新案確認	同九年(オ)三一一五	同六・二〇	一五四
審理不盡又ハ證據ノ判斷遺脱	所有權移轉登記手續請求	同(オ)一〇七	同六・二二	一五五
戸主ノ居所指定權ト其適法性	離籍無效確認請求	同(オ)二四七	同六・二二	一五六
證據判斷ト理由不備	損害賠償請求	同(オ)四七三	同六・二三	一五七
爭ナキ事實ヲモ排斥シタル違法	讓受債權請求	同十一年(オ)二四八	同六・二六	一五八
理由不備ノ證據ト判斷	貸金請求	同(オ)五〇三	同六・二六	一五九
不當利得ト法律ノ誤解	不當利得返還請求	同(オ)五三一	同六・三〇	一六〇
講債權ノ讓渡ト立證責任顚倒ノ違法	強制執行異議	同(オ)一三四	同七・一	一六一
爭アル事實ヲ爭ナキモノトセル違法 組合財産ノ歸屬ト法律ノ誤解	證據金返還請求	同(オ)二九二	同七・二	一六一
自白無視ノ事實認定又ハ審理不盡理由不備	貸金請求	同(オ)四二七	同七・二	一六三
委任事務處理ニ因リ發生シタル債權ト時效	掟米換價金請求	同(オ)一六〇	同七・三	一六四
相續人ノ保證責任限度ト審理不盡若クハ理由不備	家賃金請求	同(オ)三一八	同七・三	一六六
爭點ニ對スル判斷遺脱	貸金請求	同(オ)四四六	同七・三	一六七
當事者ノ主張ト判斷遺脱	根抵當權設定登記抹消登記手續請求	同十年(オ)二二七五	同七・三	一六八
賃貸借契約解除ノ認定ト審理不盡判斷遺脱	家屋明渡等請求	同十一年(オ)二五〇	同七・四	一六九
重過失ノ認定ト審理不盡又ハ理由不備	保證債務金請求	同十年(オ)二六三四	同七・四	一七〇
確認判決ヲ受クヘキ法律上ノ利益ト審理不盡	清算未了確認及清算結了登記抹消請求	同十一年(オ)四七一	同七・七	一七二
金錢消費貸借ト手形ノ授受	保證債務履行請求	同(オ)九〇	同七・八	一七三
保證責任ノ限度ト法律ノ誤解	賣掛代金請求	同(オ)二七〇	同七・八	一七三

抵當債權者ニ對スル破産者ノ目的物讓渡	否認權行使請求事件	昭和十一年(オ)六一七	昭和十一年七・九	一七四
火災保險會社代理店ノ過失ト保證人ノ責任	損害賠償請求	同(オ)五九三	同七・一〇	一七六
延滯地代取立ノ委任ト其ノ權限	地代請求	同(オ)六五一	同七・一〇	一七七
土地賣渡人ノ義務	違約金請求	同(オ)六八一	同七・一〇	一七九
徒弟契約ニ於ケル無報酬認定ト經驗則違背	契約金請求	同(オ)七一八	同七・一〇	一八一
釋明權不行使ノ理由不備又ハ審理不盡	賣掛代金請求	同(オ)一五九	同七・一一	一八二
證據ニ依ラサル係爭事實ノ確定	損害賠償請求	同(オ)二四九	同七・一一	一八三
書證ノ内容ヲ誤解シタル違法 證據ニ依ラサル爭アル書證ノ成立認定	貸金請求	同十年(オ)一三八九	同七・一一	一八四
特許抗告審判ト職權調査	特許無效請求	同(オ)二一一三	同七・一一	一八六
請求ノ排斥ト審理不盡理由不備	損害賠償請求	同(オ)二一三七	同七・一四	一八七
代理人ノ過失ト判決理由不備	請負代金返還損害賠償請求	同(オ)二二二五	同七・一四	一八八
請求排斥ト審理不盡理由不備	貸金請求	同十一年(オ)四九八	同七・一七	一九一
所謂「景品」ト其ノ判定	過怠金請求	同十年(オ)一六六四	同七・一八	一九一
出資拂込義務發生ノ否定ト理由不備	貯金拂戻請求	同十一年(オ)七四三	同七・二一	一九三
審理不盡並理由不備	賣掛代金請求	同(オ)八二八	同七・二一	一九四
假執行宣言申立ニ對スル判決ノ脫漏ト其ノ補充判決	口頭辯論期日指定ノ申立却下ニ對スル抗告	同八年(ク)一〇五五	同七・二二	一九五
實驗則違背ノ審理不盡又ハ理由不備	貸金請求	同十年(オ)二六七四	同七・二二	一九六
審理不盡又ハ理由不備	貸金請求	同十一年(オ)六七二	同七・二三	一九八
被相續人ノ精神狀態ト醫師ノ證言	家督相續人指定及家督相續無效確認請求	同(オ)八一八	同七・二四	一九九
破産者名義ノ株券名義書換ト審理不盡	株券名義書換及引渡請求	同(オ)四一〇	同七・二五	二〇一
供託物還付不認可ノ處分ニ對スル抗告ト管轄	供託物還付不認可ノ處分ニ對スル抗告	同(ク)七九三	同七・二八	二〇二

增擔保請求ニ因ル契約解除ト審理不盡理由不備	貸金請求	昭和十一年(オ)二一五	昭和十一年七・二九	二〇二
株主總會決議ノ執行停止假處分ト命令ノ主文	假處分命令申請	同(オ)四三〇	同七・二九	二〇三
契約ノ解除ト審理不盡 契約解除ノ適法認定ト審理不盡又ハ理由不備	損害賠償請求	同十年(オ)二六三七	同七・三一	二〇四
假處分ノ申立ト命令ノ範圍	假處分異議	同(オ)一四一二	同八・四	二〇六
採證法違背若ハ審理不盡	貸金請求	同十一年(オ)四四五	同八・五	二〇八
發明ノ新規性否認ト審理不盡	特許願拒絶査定不服請求	同(オ)四〇八	同八・七	二〇九
不當ナル事實認定又ハ擬律錯誤	求償金請求	同(オ)三三	同八・一〇	二一一
代表者ナキ佛堂ト地方自治團體ノ事務管理	建物不動産引渡請求	同(オ)一九〇	同八・二八	二一二
更改契約ニ因ル抵當權ノ移轉ト審理不盡理由不備	債權法抵當權不存在確認請求	同(オ)六八六	同八・二八	二一四
債務者ノ假裝行爲ト廢罷訴權	詐害行爲取消請求	同(オ)六八二	同九・七	二一五
消費貸借ト金錢授受證書差入ノ態樣	約束手形金請求	同十年(オ)二四三一	同九・七	二一五
會社組織變更ノ無效ト擬律	土地引渡並損害賠償請求	同(オ)九四	同九・九	二一六
基本タル口頭辯論ニ關與セサル判事ノ判決	登記抹消並不當利得金返還請求	同(オ)五三四	同九・一二	二一八
賠償債務負擔者ノ不法行爲者ニ對スル求償	損害賠償請求	同(オ)一八四八	同九・一二	二一九
判決言渡期日ノ調書ナキ判決	報酬金請求	同(オ)七〇一	同九・一五	二二〇
虚僞ノ賃貸借ト競賣公告	不動産競賣	同十一年(ク)九一四	同九・一八	二二二
賃貸借條件ノ認定ト審理不盡	建物收去土地明渡請求	同(オ)五二四	同九・一九	二二三
裁判所構成法第百四十二條ト代表者ノ表示	差押異議	同(オ)五四五	同九・一九	二二六
實驗則違背ノ不當事實認定又ハ審理不盡理由不備	違約金請求	同(オ)六二五	同九・一九	二二七
實驗則違背又ハ採證法違背	債務不存在確認等請求	同(オ)四六五	同九・二六	二二八
實驗則違背ノ事實認定又ハ審理不盡	建物取拂請求	同十年(オ)一七八九	同九・二六	二二九

抗訴ノ排斥ト審理不盡又ハ理由不備	契約金請求	昭和十一年(オ)六四〇	昭和十一年九・三〇	二三一
履行引受契約ハ第三者ノ爲ニスル契約	貸金請求	同(オ)四七九	同一〇・三	二三一
賃貸人ノ義務履行不能ト其效果	貸地料請求	同(オ)八六四	同一〇・三	二三三
金錢取立受託者ノ懈怠ト損害額	無盡掛取金請求	同(オ)七三一	同一〇・六	二三四
證據趣旨誤解ト不當事實認定	建物撤去請求	同(オ)六二九	同一〇・二一	二三六
採證法違背ノ不當事實認定	強制執行異議	同(オ)六九四	同一〇・二一	二三七
證據ノ誤解ト抗辯排斥	賣掛代金請求	同(オ)一一一六	同一〇・二三	二三八
主張セサル請求ノ認容ト法令違背	立替金請求	同(オ)一一八三	同一〇・二三	二三八
唯一ノ立證拒絶ト重要訴訟手續違背	損害賠償請求	同(オ)六七九	同一〇・二四	二三九
訴ノ變更ト舊訴ニ於ケル裁判上ノ自白	賣掛代金請求	同十年(オ)二四一八	同一〇・二八	二四〇
證據ニ依ラサル事實認定 實驗則違背並審理不盡	過拂金請求	同十一年(オ)一一四六	同一〇・三〇	二四一
爭ナキ事實ニ反スル認定ヲ爲シタル違法 釋明權不行使ノ審理不盡若ハ理由不備	債務不存在確定請求	同(オ)一三四一	同一〇・三〇	二四三
消滅時效完成ノ認定ト審理不盡	請求異議	同(オ)一〇四五	同一〇・三一	二四五
債務存在ノ認定ト審理不盡理由不備	貸金並抵當權設定登記手續請求	同(オ)一〇九〇	同一〇・三一	二四六
抵當權ノ設定行爲ト其ノ認定ノ不備 同一不動産ノ買受人タル第三者ト登記欠缺主張ノ正當理由	抵當權設定登記抹消手續請求	同十年(オ)二三一八	同一〇・三一	二四七
事實ノ誤認ト鑑定ノ排斥	土地收用補償金請求	同(オ)二八一八	同一〇・三一	二五〇
假處分異議ノ訴ト本案確定判決ヲ債務名義トスル強制執行異議	強制執行停止命令申請	同十一年(ク)九八六	同一一・二	二五三
借地借家調停法第三十二條ニ所謂正當事由	借地借家調停法違反	同十年(オ)一〇二六	同一一・二	二五四
權利義務ニ關スル證書ト印鑑	貸金請求	同(オ)九六九	同一一・七	二五六

契約成立ノ認定ト審理不盡	治水作業費殘金請求事件	昭和十一年(オ)九二九	昭和十一年一一・一一	二五七
主張ニ對スル判斷遺脫	貸金請求	同(オ)九八九	同一一・一一	二五九
當事者ノ主張ヲ遺脫シタル認定	假差押異議	同(オ)一〇六九	同一一・一一	二六〇
審理不盡理由齟齬ノ違法	預金並貸金返還請求	同(オ)一三二七	同一一・一二	二六一
審理不盡若ハ理由不備	玄米返還請求	同(オ)一四二一	同一一・一三	二六二
清算中ノ株式會社ト株金拂込ノ請求	株金拂込請求	同(オ)一一三九	同一一・一八	二六三
債務名義カ執行命令ナル場合ト請求異法	强制執行異議	同(オ)一一六六	同一一・二〇	二六三
釋明權不行使審理不盡	手附金返還損害賠償請求	同(オ)四五四	同一一・二五	二六四
賣買契約成立ノ認定ト審理不盡理由不備	賣掛代金請求	同(オ)一一五九	同一一・二五	二六七
法律行爲ノ不定ト審理不盡	損害金賠求	同(オ)一〇七二	同一一・二六	二六七
當事者ノ主張セサル事實ニ基ク若クハ法律ヲ不當ニ適用セサル裁判	土地建物引渡請求	同(オ)一四八一	同一一・二七	二六八
審理不盡ト虛無證據ニ依ル事實認定	賣掛代金並契約金請求	同(オ)一七一一	同一一・二七	二六九
舊民法施行前ノ家督相續人タル長子ノ養子緣組	家督相續回復請求	同(オ)三七四	同一一・二八	二七〇
唯一ノ證據方法杜絕ノ認定	求償金請求	同(オ)一一九九	同一一・二八	二七一
債務存在ノ認定ト審理不盡	貸金請求	同(オ)一四四七	同一二・七	二七二
虛無證據ニ依ル事實認定	證據金返還請求	同(オ)一八二六	同一二・八	二七三
實驗則違背ノ事實認定	地代請求	同(オ)一二二二	同一二・一〇	二七四
小作人ノ賃借地所有權取得ト賃貸借契約	小作米請求	同(オ)九八六	同一二・一一	二七五
過剩防衛ト賠償額	謝罪廣告請求	同(オ)一八二七	同一二・一一	二七六
他人ノ權利ヲ目的トスル贈與	損害金請求	同(オ)一〇八一	同一二・一五	二七七
實驗則違背ノ判決	貸金請求	同(オ)一四三〇	同一二・一六	二七八
利息制限法ヲ超過セル利息	債權消滅確認競賣取消抵當權設定登記抹消請求	同(オ)六九七	同一二・一七	二八〇
町村金庫ノ設置ト收入役ノ權限	土地區劃整理徵收金等引渡請求	昭和十一年(オ)一二〇七	昭和十一年一二・七	二八三
建物ニ對スル抵當權ノ設定ト實驗則	土地建物所有權確認等請求	同(オ)一六六八	同一二・八	二八五
內入金ノ否認ト審理不盡若ハ理由不備	賣掛代金請求	同(オ)四七四	同一二・九	二八六
竊盜犯人ノ賠償契約ト適法性	貸金請求	同(オ)二〇〇一	同一二・二二	二八七
土地ト分離セル立法ト抵當權ノ效力	强制執行異議	同(オ)四六一	同一二・二二	二八八
破產者ノ義務ト審理不盡	抵當權設定契約否認並抵當權設定登記抹消登記手續請求	同(オ)九五六	同一二・二二	二八九
實用新案權ト其ノ甄別	實用新案權利範圍確認請求	同(オ)一〇六三	同一二・二二	二九二
徒弟ノ中途退職ト積立金	積立金請求	同(オ)一四五六	同一二・二二	二九三
正權限ノ推定ト實驗則違背	貸金請求	同(オ)一六九一	同一二・二二	二九五
理由不備ナル事實認定重要爭點ニ對スル判斷遺脫	契約無效確認請求	同(オ)一七三一	同一二・二二	二九五
轉借人ノ原狀回復義務不履行ト轉貸人ノ賠償範圍	建物收去土地明渡請求	同(オ)一七九六	同一二・二二	二九九
公正證書無效ヲ原因トスル執行異議	競落許可決定ニ對スル抗告	同(ク)一一六九	同一二・二三	三〇〇
實驗則違背ト審理不盡	損害賠償請求	同(オ)一六三〇	同一二・二三	三〇一
抗辯趣旨ノ誤解ト審理不盡	貸金請求	同(オ)一四四八	同一二・二三	三〇一
雨後ニ於ケル土取場監督者ノ注意義務	慰藉料請求	同(オ)一五〇五	同一二・二三	三〇二
請求棄却ト理由不備	漁業利益金殘金請求	同(オ)一六四二	同一二・二四	三〇四
銀行法ニ對スル慰勞金支給ノ實質	退職慰勞金請求	司(オ)一〇八九	同一二・二六	三〇五

民事之部（終）

● 刑事の部

標題	事件名	事件番號	言渡年月日	頁數
模範在鄕軍人ノ公務執行妨害ト情狀	公務執行妨害被告事件	昭和十年(れ)一三二一	昭和十一年一・二七	一
警察署長ノ收賄ト刑ノ量定	收賄	同(れ)一〇四七	同二・一四	二
公判ニ於ケル法定ノ證據調ヲ爲サザル違法	姦通	同(れ)九二五	同三・一	六
法令ノ適用ヲ判示セサル違法	縣會議員選擧罰則違反	同(れ)一九二六	同三・二〇	七
虛構事實ニ基ク村長ノ支拂命令	虛僞公文書作成行使等	同(れ)一四〇八	同三・二六	九
町村ノ區長ト選擧法ニ所謂選擧事務ニ關係アル吏員	縣會議員選擧罰則違反	同(れ)一八七〇	同四・二二	一三
轉向「赤」中途退學生ト其ノ量刑	治安維持法違反	同(れ)一六三三	同四・二五	一四
刑訴第三百六十條第二項違背ノ判決 殺人ト過剩防衛	殺人	同十一年(れ)二六	同四・三〇	一七
强盜竊盜罪ト重大事實ノ誤認	强盜竊盜住居侵入等	同十年(れ)一五六九	同五・八	一八
虛無證據ニ依ル事實認定	縣會議員選擧罰則違反	同十一年(れ)三三三	同五・二八	二一
僞證敎唆ト犯罪ノ無證明	墮胎	同十年七三三(れ)一二一一	同六・一八	二三
誣告罪ト犯罪ノ無證明	誣告	同(れ)一三五七	同六・一八	二七
法定選擧運動者ノ違反ト擬律錯誤	縣會議員選擧罰則違反	同十一年(れ)六七四	同六・二九	三二
刑訴第四百三條違背ノ判決	縣會議員選擧罰則違反	同(れ)七八一	同六・二三	三三
府議選擧違反ト其ノ犯情	府會議員選擧罰則違反	同(れ)三七二	同六・二五	三四
村長ノ横領瀆職ト犯罪ノ無證明 收入役ノ業務上横領罪ト其情狀	業務上横領收賄	同(れ)四七九	同六・二五	三五
轉向セル主義者ト其量刑	治安維持法違反	同(れ)五九二	同六・二九	三八
刑事訴訟法第七十一條同法第四百五十一條ノ適用	縣會議員選擧罰則違反	同(れ)七二一	同六・二九	四二
縣議選擧違反ト擬律錯誤	縣會議員選擧罰則違反	昭和十一年(れ)八二九	昭和十一年六・二九	四三
惡性酒癖ノ父ヲ殺害シタル子ト其情狀	尊屬殺人死體遺棄	同十年(れ)一三三九	同七・六	四四
竊盜ト犯罪ノ無證明	竊盜	同十一年(れ)三三〇	同七・六	四九
醫師ノ召應義務ト拒絕ノ正當事由	醫師法施行規則違反	同(れ)八五六	同七・一〇	五一
虛無ノ證據ニ依ル業務上横領罪ノ認定	業務上横領	同十年(れ)一四二一	同七・一〇	五四
公選投票贈收賄罪ノ成立要件	贈賄公選投票等	同十一年(れ)四五七	同七・二五	五五
村長選擧ニ於ケル候補者ノ贈賄ト其ノ情狀	贈賄賄賂投票	同(れ)二三	同八・一	五六
投票依賴ノ饗應ト犯罪ノ無證明	府會議員選擧罰則違反	同(れ)六五六	同九・二六	五八
僧侶ノ選擧違反ト其ノ科刑	縣會議員選擧罰則違反	同(れ)八四七	同九・二九	六二
選擧違反ニ於ケル金錢供與罪ノ不成立ト收受周旋及勸誘罪	縣會議員選擧罰則違反	同(れ)一三八七	同一〇・五	六三
權利實行ト恐喝罪	恐喝	同(れ)二三四	同一〇・一〇	六六
累犯トナルヘキ前科ノ有無ト刑ノ量定不當	有價證券僞造行使詐欺横領	同(れ)五八二	同一〇・一三	六八
町議選擧ニ於ケル報酬供與罪ト擬律錯誤	町會議員選擧罰則違反	同(れ)一三八五	同一〇・一六	六九
主人ノ爲ニスル番頭ノ選擧違犯ト其情狀	縣會議員選擧罰則違反	同(れ)一三四五	同一〇・二二	七〇
自動車ノ停車ト駐車 自動車運轉手ノ地方長官榜示禁條違反ト適用法令	警察犯處罰令違反	同(れ)七一五	同一〇・二八	七三
共同暴行ト責任	傷害公務執行妨害暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反	同(れ)一四七六	同一一・七	八一
追徵ト擬律錯誤	衆議院議員選擧法違反	同(れ)一八四一	同一一・七	七三
醫師ノ注意義務解怠ト犯罪ノ無證明	業務上過失致死	同十年(れ)一九三三	同一一・九	七四
恐喝ト重大事實誤認ノ疑	恐喝、恐喝未遂及脅迫	同(れ)一八六〇	同一一・一一	七七
候補者ノ利害誘導演說ト犯罪ノ無證明	縣會議員選擧罰則違反	同十一年(れ)六三五	同一一・一三	七九
縣會議員選擧違反ト犯罪後ノ法律ニ因ル刑ノ變更	縣會議員選擧罰則違反	同(れ)一三六七	同一一・一八	八四

第三者ノ推薦狀ニ依ル選擧運動ト其ノ豫備行爲	衆議院議員選擧法違反	昭和十一年（れ）一七七九	昭和十一年一一・二六	八六
虛無證據ニ依ル事實認定	縣會議員選擧罰則違反	同（れ）一五八六	同 一一・三〇	八七
無效ノ檢事聽取書謄本ヲ證據トシタル違法	衆議院議員選擧法違反	同（れ）一七四五	同 一二・ 八	八八
犯罪事實ニ對スル擬律遺脫	瀆職	同（れ）二〇八六	同 一二・一一	九〇
間接ノ利害問題ト政見發表ノ妥當性	縣會議員選擧罰則違反	同（れ）一〇三五	同 一二・一八	九〇
授業料撤廢問題ト政見發表ノ妥當性	縣會議員選擧罰則違反	同（れ）一一五八	同 一二・一八	九三
福岡縣令第三十八號青果市場類似ノ營業	福岡縣令青果市場規則違反	同（れ）二七九	同 一二・二三	九四
誣告罪ノ法益	誣告	同（れ）一六七五	同 一二・二六	九七

刑事之部（終）

既刊

上告論旨の教科書

大審院裁判例

菊倍版

				送料・内地（小包）	台灣・樺太（第三種）	滿洲・朝鮮（書留）
第一卷	昭和二年六月發行	定價金壹圓參拾錢	（總頁數二百十頁）	一〇錢	一二錢	四二錢
第二卷	昭和三年十月發行	定價金壹圓五拾錢	（同二百六十頁）	一四錢	一五錢	四九錢
第三卷	昭和五年六月發行	定價金壹圓五拾錢	（同二百十餘頁）	一〇錢	一二錢	四二錢
第四卷	昭和六年十二月發行	定價金壹圓五拾錢	（同百八十頁）	一〇錢	九錢	四二錢
第五卷	昭和七年十二月發行	定價金壹圓五拾錢	（同三百五十頁）	一四錢	一八錢	四九錢
第六卷	昭和八年十二月發行	定價金壹圓八拾錢	（同四百五十頁）	一四錢	二二錢	四九錢
第七卷	昭和九年十一月發行	定價金壹圓五拾錢	（同四百頁）	一四錢	一八錢	四九錢
第八卷	昭和十年十一月發行	定價金壹圓五拾錢	（同四百頁）	一四錢	二二錢	四九錢
第九卷	昭和十一年十一月發行	定價金壹圓八拾錢	（同五百頁）	一四錢	二四錢	四九錢

昭和十二年十一月三日印刷
昭和十二年十一月十三日發行

不許複製

大審院裁判例（十）（奥附）
定價金壹圓八拾錢

編輯兼發行者 東京市日本橋區本町四丁目五番地五 岡崎源一
印刷者 東京市王子區上十條町十九番地 鈴木榮太郎
印刷所 東京市王子區上十條町十九番地 協文社
發行所 東京市日本橋區本町四丁目五番地五 法律新聞社
振替口座東京五二五五番
電話日本橋(24)五一一七 一九三一

大賣捌所
大阪 法政書房
東京 東海堂
同 東京堂
同 巖松堂
同 有斐閣
同 北隆館
同 酒井書店

昭和十二年度版

本卷は

第二十七卷

▲**最も新しい判例‼**　判例を檢索するには、第一番に本書を手にすること。絶對に時世に遲れる心配なし。折角新しい有利な判例が出たのに、これを知らずして古い判例を引用するは、隅田川を泳いで渡るが如し。其の愚や笑ふべし。

▲**判例の趣旨が良く判る‼**　判決の要旨には、其の要旨の依つて來たる理由がある。其の理由の前提としての事實がある。これを知らずして要旨集にのみ頼つて判例を覧るは、航空地圖なくして飛行するが如し、危險極まりなし。

▲**判例年鑑として見るならば‼**　刑事では一萬圓貯金の高柳事件、共産黨ギャング事件、小川鐵相事件其他無數の選擧違反の好事件、民事も亦之に劣らぬ豐富な内容を盛り込んである。

最新刊

法律新聞社編纂

判決要録

四六版總革製爪掛附
紙數一千七百頁
定價金六圓
送料内地（普通）二二錢
臺灣・樺太・四七錢（書留）六二錢
朝鮮・滿洲・南洋（書留）六二錢

發行發賣所

東京市日本橋區本町四丁目五番地五
電話日本橋(24)五一七番
一九三一番
振替東京五二五五番

法律新聞社

判決要録（十五卷）定價金六圓
判決要録（十六卷）普製定價金五圓五拾錢
判決要録（十七卷）定價金六圓
判決要録（十八卷）定價金六圓
判決要録（十九卷）定價金六圓
判決要録（二十卷）定價金六圓
判決要録（廿一卷）定價金六圓
判決要録（廿二卷）定價金六圓
判決要録（廿三卷）定價金六圓
判決要録（廿四卷）定價金六圓
判決要録（廿五卷）定價金六圓
判決要録（廿六卷）定價金六圓

▶大賣捌所◀

大阪　法政書房
酒井書店
東京　巖松堂
有斐閣

東京堂
東海堂
北隆館

14.7
550